

明治三十一年新版

- 一 本書ノ紙數ハ八百四十八頁(挿畫ノ占ムル場所ヲ除キ)ニシテ中等教科書ニ適當ナリ
- 一 挿畫ハ六十三個ヲ收メ鮮明美麗ナラザルハナク新造軍艦富士號ノ真圖ヲモ掲クダリ
- 一 附屬地圖十六枚ハ新刻ニ係リ簡明精緻山河ノ形勢一見掌ヲ指スガ如シ
- 一 人口、産物、等ノ諸統計ハ多クハ廿八九年ヨリ三十年ニ亘ルモノニ改正シ又臺灣島ノ新縣名ヲモ加ヘタリ
- 一 定價ハ別冊附屬地圖トモニ金七十五錢ニシテ至廉無雙ナリ

注意…注意…注意…注意…注意…注意…注意…注意

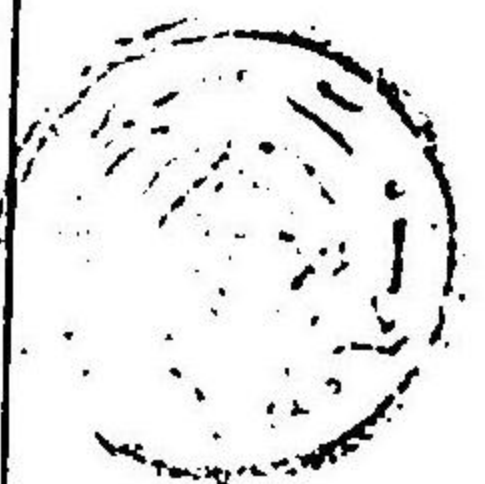
注意…注意…注意…注意…注意…注意…注意…注意

春陽堂發行

松島剛著

中央地理學

內國
之部



東京春陽堂發行

中外地理學序

內國之部

余ハ曩キニ新地理學ニ卷ヲ編述シテ、之ヲ世ニ公ニセシガ、幸ニ各地ノ諸學校ニ採用セラレタルモノ少カラズ、著者ノ光榮何ゾ之ニ過キンヤ、而シテ其書タル中學二年級以上ニ適當ナルモ、之ヲ其一年級、若クハ高等女學校ノ一二年級ニ課スルニハ、少シク紙數ノ多キニ過クルトノ評アリ、往々書ヲ著者ニ寄セテ、之ヲ省畧センコトヲ望ム者アリ。是ニ於テカ新地理學ヲ縮少シテ本書ヲ成セルナリ、然レモ其記事ノ順序、舛裁等、一ニ新地理學ニ據レリ、唯書中ノ諸統計ハ總テ二十九年並ニ三十年ノ調査ニ係ルモノニ改メタルノミ。此ノ如クナルヲ以テ今左ニ新地理學ノ序文ヲ採リテ本書ノ卷首ニ掲ク看客之ヲ諒セヨ。

本書ハ、尋常中學校、高等女學校、尋常師範學校、其他中等諸學校ノ、教科用書トシテ編述シタリ。之ヲ余ノ前著近世中地理學ニ比スレバ、相違ノ廉々少カラズ、左ニソレ等ノ大要ヲ述ヘテ、教師諸君ノ一讀ヲ煩ハス。

一、編述ノ順序ヲ變更シタル事

一、通常ノ地理書ハ、先ツ地理總論ヲ卷首ニ措キ、地球全體上ヨリ、天文地理、地文地理、及人文地理ヲ總叙シ、次ニ日本國ニ遷リ、日本ノ地文地理、及人文地理ノ總論ヲ述ベ、而シテ後ニ其地方誌ヲ記スルモノ多シ、余ノ前著亦此順序ニ準據セリ、然レトモ、余ノ實驗ニ據ルモ、又世ノ地理科教師ノ實驗談ニ徵スルモ、此ノ順序ハ、中等學校初級生徒ノ學力ニ適合セサルガ如シ、蓋シ冒頭ヨリ直ニ世界總論、又ハ日本總論ヲ論述スルルハ、勢ヒ生徒ヲシテ、一時ニ衆多ノ地名及事實ヲ記憶セシメ、併セテ其大綱ヲ概括セシメザルベカラズ、此二事ハ、初級生徒ニ取リテハ、共ニ至難ノ事トス。假令ヒ、強テ一時ニ數多ノ地名ヲ記憶セシムルモ、其記憶全ク抽象的ナルヲ以テ、生徒毫モ趣味ヲ感セズ、隨テ忽チ之ヲ遺忘スルヲ常トス、且ツ夫レ、此ノ如ク假令ヒ地名ヲ記スルモ、未タ其國土ノ形勢、山川ノ狀態ヲ知ラズ、未タ知ラサル所ノモノ、何ソ能ク之ヲ概括スルヲ得ンヤ、大人尙ホ且ツ之ヲ難ンズ、況ンヤ概括力ノ未タ充分ニ發達セザル、初級生徒ニ於テチヤ、

從來地理科ノ教授、功ヲ奏セサルモノ多キハ、職トシテ教授ノ順序、宜シキヲ得サルニ由ルモノナシトセンヤ、著者ノ竊ニ之ヲ疑フコト久シ。

去レハ、本書ニ於テハ、成ルベク先ツ個々ノ事實ヲ記述シ、而シテ後ニ總論ニ入ルコトトシ、通常地理書ノ、天文地理、地文地理、及人文地理總論ノ如キハ世界總論ト題シテ、之ヲ外國之部ノ卷尾ニ讓リ、本書ノ卷首ニハ、單ニ地球ノ形狀、經緯度線、五帶ノ區別、其他地理學上用語ノ意義、等ヲ、極メテ簡略ニ記載シ、而シテ直ニ日本地理ニ入り、是レ亦先ツ各地方ノ地貌、人事ヲ叙シ、而シテ後總論ヲ記述シタリ。右ノ順序タル、從來ノ因襲ニ違フヲ以テ、或ハ之ヲ怪ムモノモアルベシ、然レモ、實際兒童ノ教授ヲ擔當スルモノハ、容易ニ首肯スルナラン。又輒近地理教育家ノ、此ノ順序ヲ可トスルモノアルヲ以テ、亦其ノ非理ヲラサルヲ知ルヘシ。

二、新ニ區劃ヲ定メタル事。

日本ニハ、畿、道、國ノ區劃アリ、又府縣ノ區劃アリ、此兩區劃ハ、互ニ相交錯スル

ヲ以テ、初學ノ生徒ガ、之ヲ識別スルニ苦シムトハ、教師ノ普ク經驗スル所ナリ。故ニ本書ニ於テハ、先ツ畿道、國ノ區劃ヲ記述シ、而シテ更ニ日本ヲ十區ニ區劃シ、其各區ノ事ヲ順次ニ記述シツ、併セテ各區内ニ位スル府縣ノ事ヲ叙述シタリ。蓋此十區ノ區劃タル、殆ント國別ト府縣別ト互ニ牴觸セズ、又幾分カ天然ノ地勢及灌溉ニ從フヲ以テ、之ヲ畿道別ニ比スレバ、教授上便利ニシテ、且ツ學習上理會シ易キコト、著ルシト思惟スルナリ。

三、文章ヲ平易ニシ、又大ニ記事ヲ簡單ニシ、隨テ地名ヲ減少シタル事。

本書ハ高等小學二年級ヲ卒ハリタルモノ、即中學初級生ニモ課スルノ目的ナルヲ以テ、前著中地理學ニ比スレハ、山川、都邑ノ名稱ヲ大ニ減少シ、又記事ヲ省畧シ、文字ヲ平易ニセリ。是レ徒ラニ數多ノ地名ヲ排列シ、種々ノ事柄ヲ記スルホハ、生徒ヲシテ其要領ダモ記憶、了會セシムルヲ能ハス、之ヲシテ徒ラニ頭腦ヲ勞セシムルニ過キサレハナリ。蓋シ教科用書ナルモノハ、大體ノ骨格ヲ記載スレハ足レリ、其皮肉及衣服ノ如キハ、教師ヲシテ、其生徒ノ學力ニ應シテ、

之ヲ増補セシムルノ餘地ヲ存スルヲ可トス。

四、物産ノ記載方ヲ變更シ、又細カキ數量ノ統計ヲ省キタル事。

產物ハ、一時ニ之ヲ記載スルトキハ無味乾燥ニシテ、且ツ其分布ヲ知ラシムルコト能ハサルヲ以テ、地方各論ニ於テハ、各地ノ特產物、所謂名產ヲ重ニ記載シ、且ツ其數量ハ殆ント之ヲ掲ケズ、人文地理總論ニ至テ、農產、鑛產、水產、工產等ノ區別ヲ設ケ、而シテ日本全國ヨリ之ヲ觀察シテ、著名ノ產地、並ニ其生産ノ趨勢ヲ概論セリ。然シテ亦其產出額ノ細カキ數量ノ如キモ、密ニ初級生徒ニ無用ナルノミナラズ、大ニ生徒ヲ苦マシムルノ恐アルヲ以テ、單ニ其大體ノ數量ノミナ記載セリ、若シ其詳細ヲ知ラシムルノ要アルハ、宜シク統計書ニ頼ルカ、又ハ拙著近世地理學等ニ參照セハ可ナラン。

五、字劃ヲ大ニシ、生徒ノ視力ヲ害セサル様注意シタリ、近視眼ノ増加ハ近時著名ノ事實トナリタレハナリ。

右ハ本書ノ、前著近世中地理學ト相違スル重要ノ點ナリ。此他特ニ注意ヲ加ヘ

タルモノハ大約左ノ如クナリ。

六、山野、河湖、港灣、市邑等ハ、唯其名稱、位置、戸口ヲ記憶スルモ、格別ノ利益アルナシ、其人事ニ關スル利害、即チ之ニヨリテ、殖産、貿易、交通、等ニ被ラシムル影響如何ヲ究メ、是ニ於テ始メテ人生ヲ裨益スルモノト云フベシ。故ニ本書ニ於テハ地貌、港灣、市邑等ノ事ヲ記スルニハ、成ベク人生ト相連關シテ、之ヲ論述セリ、而シテ其間、特ニ名勝、古蹟、又ハ奇異ナル地貌ヲ挿ミ、或ハ名將、俊傑ノ事ヲ雜ヘタルハ、是レ人事ト地理トノ關係ヲ示シ、或ハ生徒ノ興味ヲ喚起セントスルノ趣旨ニ出ツルモノナリ。然レモ彼ノ徒ラニ世人ノ熟知セサルカ如キ、名士、奇人ノ姓名ヲ排列シ、却テ生徒ノ思想ヲ攪亂スルガ如キコトナカラシコトニ留意シタリ。

七、地理書ニ最大切ナルモノハ、地圖ニ若クハナシ、實ニ地圖ノ良否ハ、地理書ノ價直ノ大半ヲ定ムルモノトス、故ニ本書ノ地圖ハ、左ニ記スルガ如キ、地圖上最も重要ノ個條ハ、大抵之ヲ具備セリ。

(一) 日本各部ノ地圖ハ、大抵同一ノ比例尺ヲ用ヒ、彼レ此レ大小ノ對比ニ便セリ。又世界ニ於ケル、日本ノ位置ヲ視易カラシメンタメ、世界圖及亞細亞洲圖ヲモ掲ケタリ。

(二) 土地ノ高低ハ、彩色ノ濃淡ヲ以テ之ヲ區別シ、一目瞭然タラシメタリ。

(三) 著名ナル山岳、又ハ山脉ハ大抵數字ヲ以テ其高サヲ示セリ。

(四) 川流ハ、成ルベク之ヲ太ク描キ、一見判然タラシメタリ。

(五) 人口一万以上ノ都市及其他ノ名邑ハ、一目搜索ニ便ナル様表出セリ。

(六) 右ノ外、山脉、火山、海流、同溫線、雨量、等ノ地圖數葉ヲ加ヘ、生徒ヲシテ、隔靴ノ歎ナカラシメンコトヲ期セリ。

以上ハ、著者ガ特ニ本書日本之部ニ與ヘタル、注意ノ一斑ナリ。若シソレ、外國之部ニ關スル事ハ、外國之部ノ序言ニ陳述セリ。然レモ著者ノ淺學、不才ナル、書中不備誤脱ノ點蓋シ少カラサルベシ、幸ニ四方諸教育家ノ指教ヲ被ランコトハ、著者ノ深ク切望スル所ナリ。聊カ本書編輯ノ趣旨及用意ノ一斑ヲ陳ヘテ、序言

トス。

明治三十年十二月

著者識

中外地理學凡例 内國之部

- 一 本書ノ紙數ハ百四十八頁(挿畫ノ占ムル場所三十二頁ヲ除キ)ナリ、一年間ノ授業週數ヲ四十ト看做シ、毎週二時間ヲ課スルモ、總時間數八十回ニシテ、一回ニ二頁弱ヲ授クル割合ナリ。故ニ、或ハ復習、又ハ試験ニ要スル時間ヲ扣除スルモ、其難易ニ從ヒ、毎回二頁、乃至三頁ヲ課スルモ、書中ノ記事外ニ尙ホ教師ノ見聞ヲ、時々說話スルノ餘地アルヘシ。
- 一 書中、度量衡等ノ用例ハ、概テ左ノ如シ。此例ニ據ラサルモノハ、隨所之ヲ説明ス。
- 一 里ハ、本邦陸里三十六町ナリ。
- 一 哩ハ、海里ニシテ、凡十六町九分七厘五毛ナリ。
- 一 哩ハ、英國ノ「マイル」ニシテ、凡十四町四十五間ナリ。
- 一 尋ハ、六尺ナリ。
- 一 呎ハ、英國ノ「フット」ニシテ、凡一尺〇五厘八毛ナリ。
- 一 米ハ、凡三尺三寸、耗ハ、凡三厘三毛ナリ。
- 一 噸ハ、凡一千六百八十斤ナリ。

凡例

九

一 寒暖計ハ、攝氏ニ據ル、其計度ヲ華氏ノ計度ニ換算スルノ方法、並ニ比較表ハ、左ノ如シ。

$$\frac{\text{攝氏} \times 9}{5} + 32 = \text{華氏}$$

| | |
|----|-----|
| 攝氏 | 華氏 |
| 五十 | 十二 |
| 四十 | 十 |
| 三十 | 八 |
| 二十 | 六 |
| 十 | 四 |
| 零 | 三十二 |
| 十 | 五十 |
| 二十 | 六十八 |
| 三十 | 八十六 |

一 人口、產物、等ノ統計ハ、各事項務メテ最近ノ調査ニ據ルヲ以テ、明治二十七年乃至二十九年ノ調査ニ係ルモノ最多シ。然レモ、此年次ノ調査ヲ欠クモノハ、其以前ノ最近調査ニ據ルモノアリ、或ハ今三十年ノ調査ニ從フモノナキニアラズ、繁ヲ厭ヒ、一々調査ノ年次ヲ記載セズ。又統計ノ數量ハ、總テ大要ヲ記シ、細カキ數量ハ、之ヲ省略セリ、是レ中等教育上無用ナレハナリ。

中外地理學 日本之部

目錄

第一編 發端

- (一) 地理學……………一
- (二) 地球の形狀……………一
- (三) 地軸圓線等……………二
- (四) 地球の運動、南北回歸線及五帶……………四
- (五) 水 陸……………六
- (六) 水陸の形狀……………七

第二編 大日本帝國

第一章 日本群島

- (一) 位置、廣袤……………十三
- (二) 區 劃……………十六
- (三) 第二章 地方各論……………十六
- (一) 十區の區劃……………十九
- (二) 關東區……………十九
- (三) 奧羽區……………三十
- (四) 山海區……………三十八
- (五) 北陸區……………四十七
- (六) 近畿區……………五十三

| | | | |
|----------|------|----------|------|
| (七) 中國區 | 六十五 | (十) 臺灣區 | 八十五 |
| (八) 四國區 | 七十一 | (十一) 北海區 | 九十二 |
| (九) 西海區 | 七十六 | | |
| 第三章 地文總論 | | | |
| (一) 海岸 | 百二 | (七) 河流 | 百十六 |
| (二) 海深 | 百三 | (八) 湖沼 | 百二十一 |
| (三) 海流 | 百四 | (九) 鍍泉 | 百二十二 |
| (四) 山脉 | 百六 | (十) 地震 | 百二十四 |
| (五) 噴火脉 | 百十一 | (十一) 氣候 | 百二十五 |
| (六) 平野 | 百十四 | (十二) 生物 | 百三十一 |
| 第四章 人文總論 | | | |
| (一) 人口 | 百三十四 | (五) 衣服 | 百四十 |
| (二) 都會 | 百三十五 | (六) 風俗 | 百四十二 |
| (三) 食物 | 百三十七 | (七) 衛生 | 百四十五 |
| (四) 家屋 | 百三十八 | (八) 宗教 | 百四十六 |

| | | | |
|-----------|------|----------|------|
| (九) 教育 | 百四十八 | (十六) 鍍產 | 百五十九 |
| (十) 文事、美術 | 百四十九 | (十七) 工產 | 百六十一 |
| (十一) 土地 | 百五十一 | (十八) 交通 | 百六十四 |
| (十二) 農產 | 百五十二 | (十九) 商業 | 百六十七 |
| (十三) 畜產 | 百五十四 | (二十) 政治 | 百七十 |
| (十四) 林產 | 百五十五 | (二十一) 軍備 | 百七十四 |
| (十五) 水產 | 百五十七 | | |

附錄

| | |
|---------------------|------|
| 畿内八道八十五國及郡名 | 百八十一 |
| 東京日本橋ヨリ廳、府、縣元標ニ至ル里程 | 百八十六 |
| 各港間航路里程 | 百八十六 |

| | |
|----------|------|
| 外國諸港へノ航路 | 百八十八 |
| 日本帝國軍艦表 | 百八十八 |

地圖目錄 (地圖ハ別冊トス)

(一) 世界圖

(二) 亞細亞洲圖

- (三) 鐵道國別圖
- (四) 千島及琉球之圖
- (五) 北海區之圖
- (六) 奧羽區之圖
- (七) 關東、山海、北陸區之圖
- (八) 近畿、中國、四國區之圖
- (九) 西海區之圖

- (十) 台灣區之圖
- (十一) 三府五港之圖
- (十二) 日本山脉及水理之圖
- (十三) 噴火脈之圖
- (十四) 同溫線及海流之圖
- (十五) 雨量之圖
- (十六) 國防之圖

左ニ掲クル原田博士ノ肖像並ニ小傳ハ新地理學日本ノ部ノ卷脊ニ載セタルモノナリ、本書ハ實ニ該書ヲ省畧セルモノニ外ナラザルヲ以テ今亦此ニ之ヲ掲ク

故フクトル、理學博士原田豐吉君ハ、陸軍少將原田一道君ノ長男ニシテ、江戸小石川ニ生ル。少時佛蘭西語ヲ學ブ。明治七年、齡十五ニシテ、獨逸國ニ遊學シ、留ルコト八年、地質、礦物、古生物、哲學、等ノ諸科ヲ研究シ、兼テ英、佛、羅典ノ諸語ニ通曉ス、十五年學位ヲ得、十六年歸朝ス。幾クモナク、農商務省ニ出仕シ、本邦ノ地質調査ニ從事ス。次テ地質局長ト爲リ、内ハ局長ヲ佐ケ、銳意企畫シテ、遂ニ地質調査ノ方法ヲ成定シ、外ハ山河ヲ跋渉シテ、全國ノ地質ヲ考查シ、寧處ナキ一累年、加フルニ、其蒐集セル材料ニ據リ、日本地質構造論及日本群島論ヲ著ハス、引證該博秩序井然タリ、我邦地質ノ概要、是ニ於テ始メテ明ナルヲ得タリ。是レヨリ先キ、君マタ大學教授ニ任セラル。其學生ヲ教導スルヤ、要ヲ提ク、微ヲ聞キ、詳々トシテ餘蘊ナシ、君ノ濶闊ヲ受ケタル者、實ニ少カラズトス。嗚呼、君ガ本邦地學ニ於ケル其功績誠ニ偉大ナリト謂フベシ。明治廿四年理學博士ノ學位ヲ授ケラル。翌ヨリ其所ナラン。然ルニ、君不幸ニシテ肺病ヲ患フル一數年、病漸ク重ク加ヘ、遂ニ去歲十二月一日遽焉トシテ逝ク、歲僅ニ三十有五、寔ニ國家有用ノ材ヲ亡ヘリ、安ソ悼惜セサルナ



故學理博士原田豐吉君肖像

小川一真製

得ンヤ。余ノ君ニ於ケル交遊ヲ通セシコ久シトセズ、然レモ、余ノ昔々地理書ヲ修
ムルニ當リ、君ニ就テ質ス所少カラズ、君常ニ削糸、折筭、碎々既示シ、或ハ自カリ筆
ヲ就リ、余ノ爲メニ稿ヲ立ツルニ至ル、其身ニ患疾アルモ、毫モ嫌厭ノ色ヲ表ハサ
ズ、又毫モ城府ヲ作ラズ、諸々落落、言容豁然、宛モ故舊ト談スルガ如シ、余深ク君ノ
厚誼ニ感激シ、爲メニ余カ微力ヲ地理學ノ普及ニ致サントスルノ意志ヲシテ、益
々牢固ナラシメタリ、嗚呼君既ニ在ラズト雖、余居常君ノ高風ヲ追憶シ、念々忘ル
ハ能ハサルモノアリ、今偶々木書成ルニ及ビ、君ノ肖像ヲ卷首ニ掲ケ、併セテ君ノ
經歷及學總ノ一斑ヲ叙シ以テ自ラ慰ム。明治二十八年十一月、君ノ一周忌日ニ先
タツコト十五日、青山ノ寓居ニ於テ

後學 松島 剛謹識

中外地理學

内國之部

松島剛著

第一編 發端

一 地理學

地理學の範圍 地理學とは地球上天然の事柄と、人事に關する事柄を、人間の生活上に就て論ずる學問なり。地理學は、通常分ちて三部とす。(一)天文地理學、(二)地文地理學、(三)人文地理學これなり。

二 地球の形狀

地球 此地球は一見すれば平たきが如くなれども、其實球體にして、其周

地理學の
範圍と分
科

地球

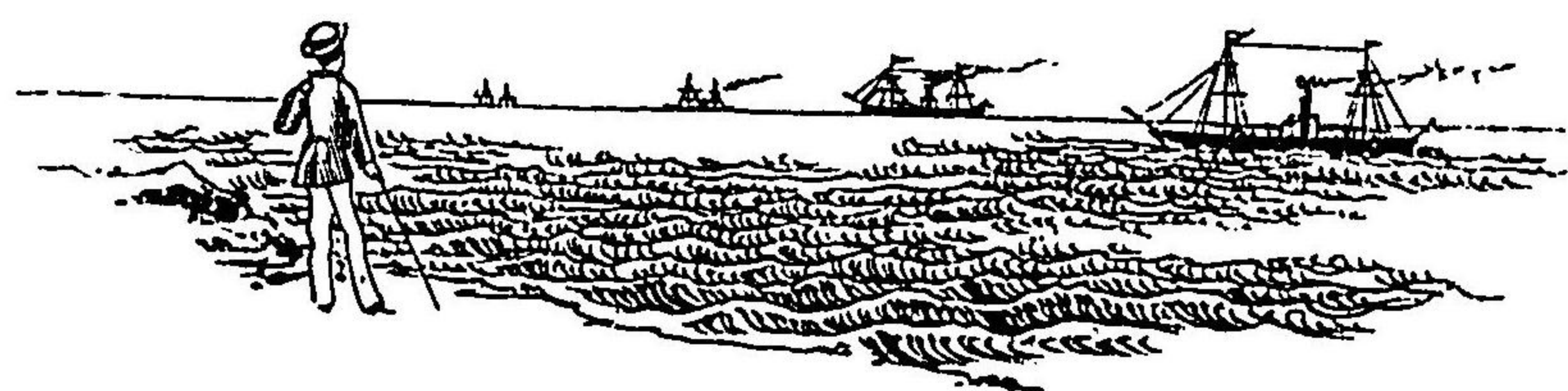
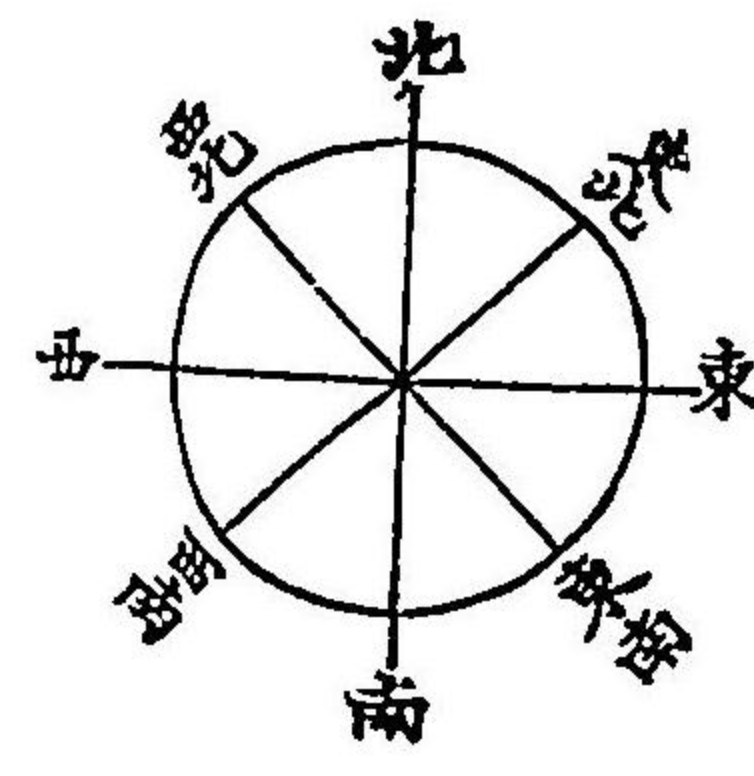
圍殆んど二万五千哩、直徑殆んど八千哩あり。地球は此く廣大なるが故、一時に目に觸るゝ部分は、只其一部なるを以て、一見平たきが如く視ゆるのみ、今其球體なる證據の一二を掲げん。海岸に立ちて、船の沖の方に遠く去るを見よ、先づ船體の下部より次第々々に隠れ、遂に桅の頭も見へざるに至るべし。又月蝕の時、月の面にうつる地球の影を見よ、圓々として圓形なり。

地平線 天空四方を限り、天と地と相接するが如くに見ゆる所を、地平線と稱す。

方角 東西南北を四方と云ひ、四方の間を、東北、東南、西南、西北と云ふ。

三 地軸、圓線、等

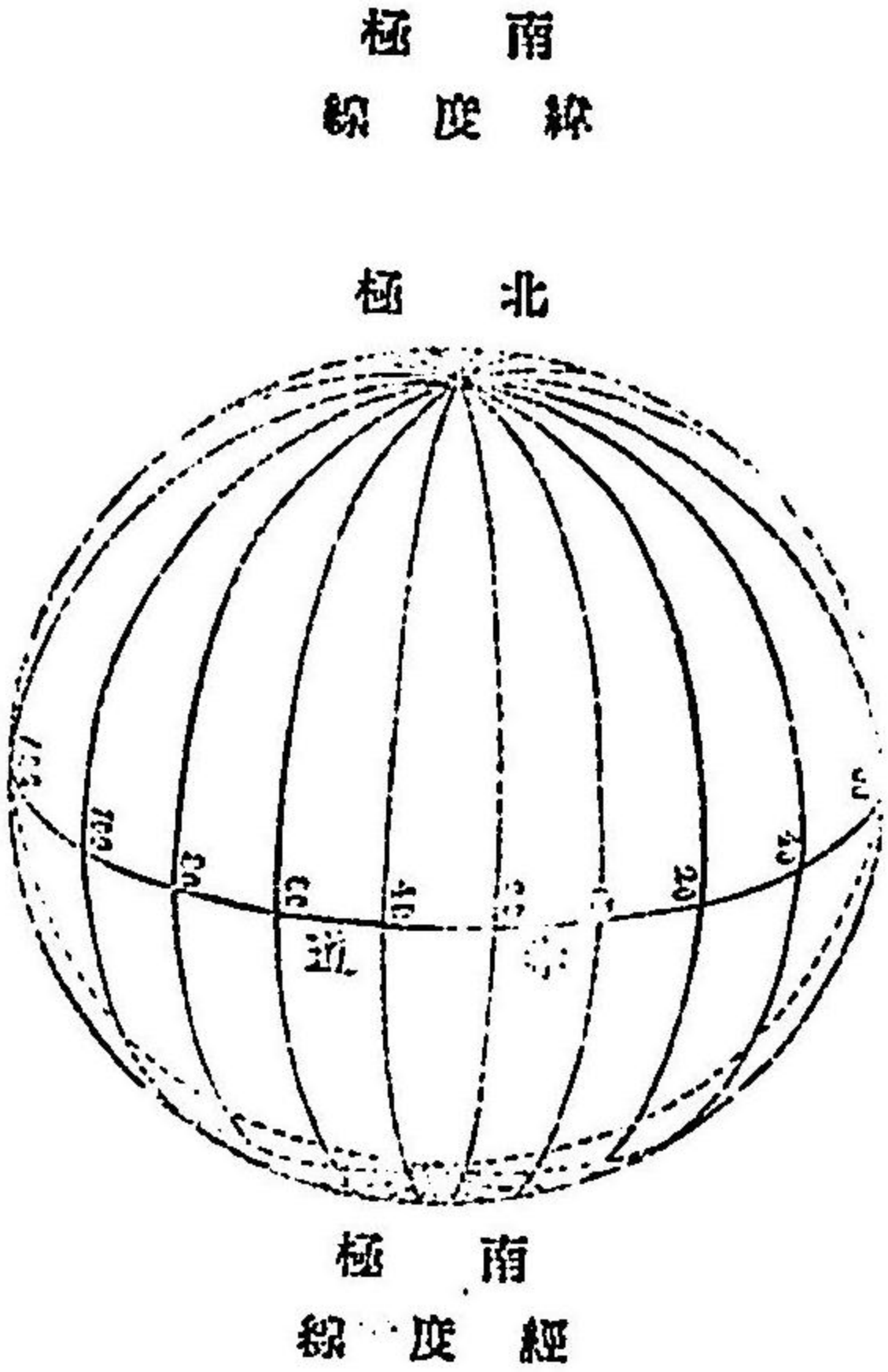
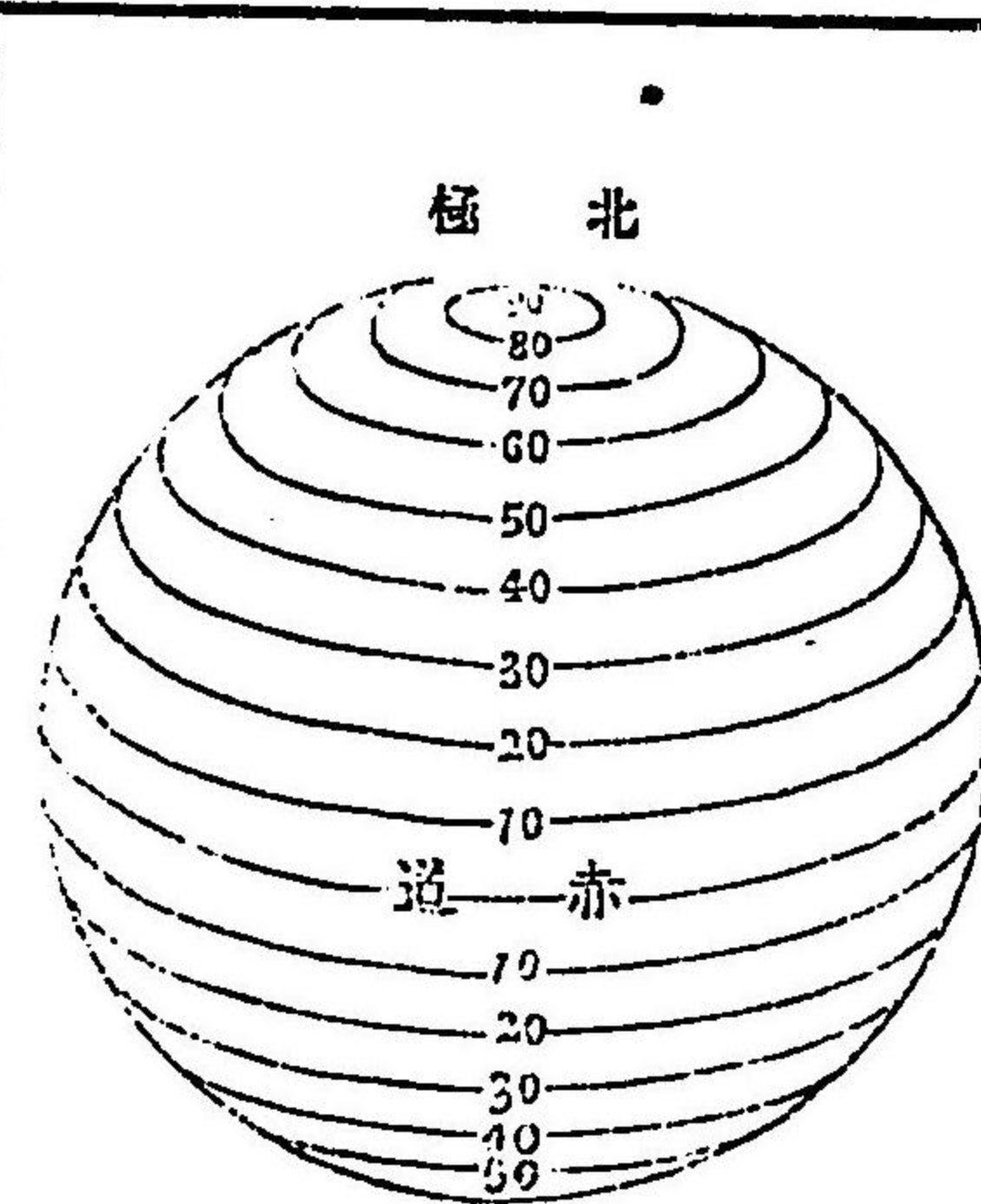
地軸、兩極、等 さて地球は、球體なれども、南と北は少しく



兩極
赤道
緯度線

平らたきを以て、橢圓球體なり。南北の直徑を地軸と稱す。地軸の北端を北極とし、其南端を南極とす。又南極と北極より同距離の所に於て、地球面の周圍に一線を引き、之を赤道線と名づく。赤道線を界とし、地球を分ちて、北半球、南半球とす。

經緯度線 地球は球體なれば、各地の位置を定むるために、其表面に數多の假線を縦横に引き、横線を緯度線とし、縦線を經度線とす。緯度線は、赤道線と平行し、地球を東西に一周する線にして、之に由りて赤道線の以南と以北の距離



を算すべし。赤道線の以南を南緯幾度と云ひ、其以北を北緯幾度と云ふ。

發端 地軸、圓線

經度線

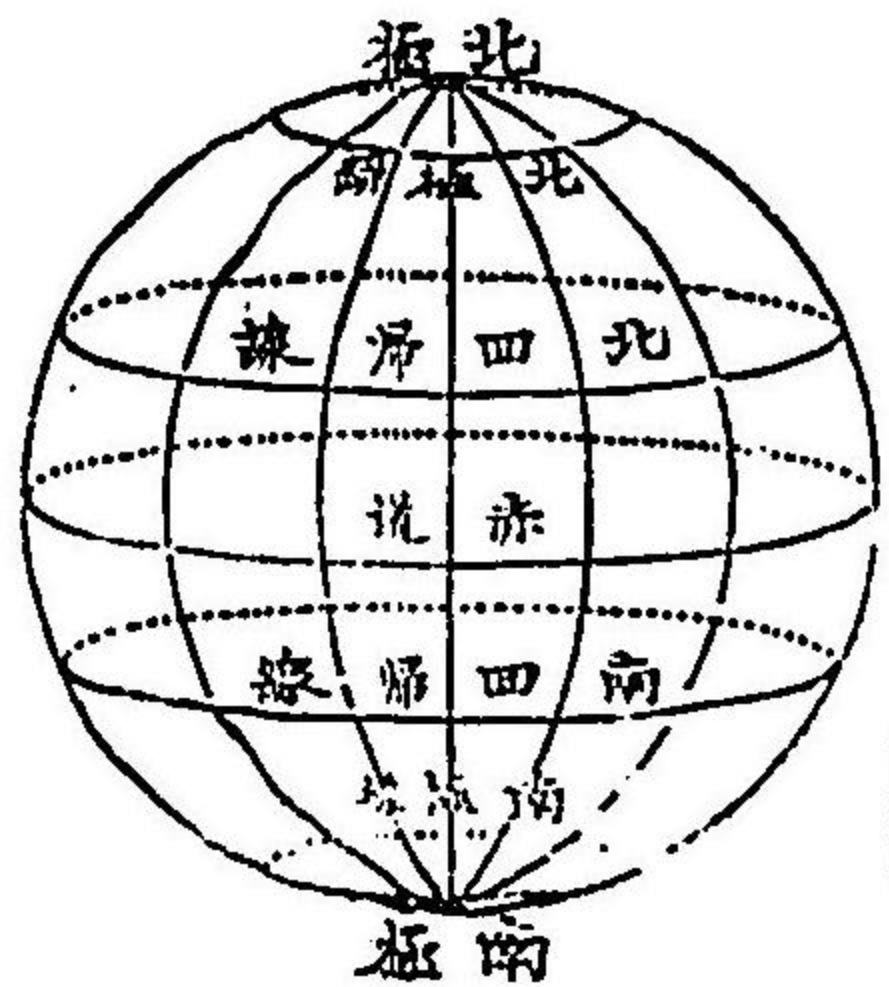
經緯度の
小區分

經度線は、赤道線及緯度線を横切り、南北兩極を通る線にして、之によりて東西の距離を算すべし。現今は、萬國協議の上、英吉利國ロンドン府近傍の、グリニッチを通る經度線を以て零度と定め、之を標準として東西の距離を算る、其以東を東經幾度といひ、其以西を西經幾度といひ、以て東西各地の遠近を知るべし。

經緯度の小分　緯度と經度の度数は、各三百六十度となし、緯度は南北各九十度、經度は東西各百八十度を以て終りとす。而して一度は、更に之を小分して、六十分とし、一分は、又更に之を分ちて六十秒とす。

四 地球の運動、南北回歸線、及五帶

地球の運動



地球の運動　地球は、前に陳べたる如く、直徑八千哩の大球體なれども、實は一個の動星にして、他の動星と同じく空間に懸り、常に一定の通路に由りて、一年間に太陽の周圍を一回運ぐり、暫らくも止るとなし。此く地球

晝夜と四季

南北回歸線

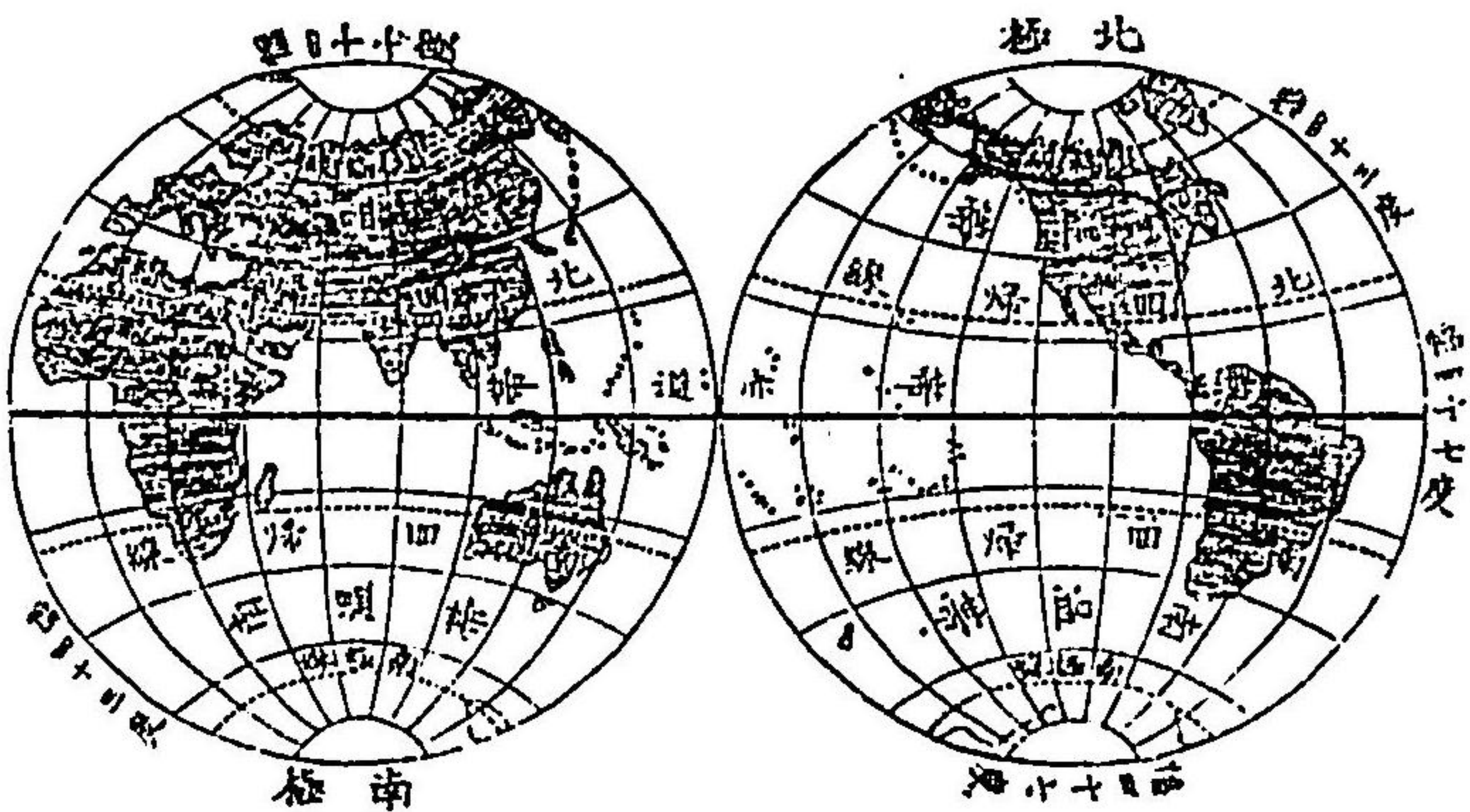
南北極線

が、太陽の周圍を一年に一回運ぐるを年動と稱し、之に由りて四季を生ず、又一晝夜に一回自轉するを日動と稱し、之に由りて晝夜を生ずるなり。

南北回歸線　赤道より南北各二十三度半の所に、地球を周ぐりて一線を引き、一は北回歸線、又は夏至線と稱し、一は南回歸線、又は冬至線と稱す。是れは太陽の光線の直射する、南北の界なり。

南北極線　次に、南北兩極より各、九十三度半の所に、地球を周ぐりて、一線を引き、一は北極線と稱し、一は南極線と稱す。

(註) 南北回歸線及南北極線の因て生ずる理由は、學生の學力次第により、或は此に之を詳説するも可なり、然るべきは、成るべく地球儀を以て説明するをよしとす、本書下巻世界地誌に於て、稍、細に此理を辨せり、



五帶

五帶 地球の表面を分ちて五帶となす、南北兩回歸線の間を熱帶とす、地球上最も熱き所なり。兩回歸線と南北兩極線との間を南溫帶及北溫帶とす、寒暑共に較、溫和なる地なり。又兩極線より兩極に至るまでの部を、北寒帶及南寒帶とす、季候の極めて寒むき地にして、人跡甚稀なり。右の一熱帶、二溫帶、及二寒帶を五帶と稱す。

水陸の廣

五 水陸

第一地圖參照

海陸の區別

地球の表面は、水と陸との區別あり、水は凡そ其四分の三にして、陸は凡そ其四分の一なり。水の大なるものを洋と稱し、太平洋、印度洋、大西洋、北氷洋、及南氷洋の區別あり。陸は大別して、東大陸、西大陸の二とす。更に之を小分すれば、東大陸に、亞細亞、歐羅巴、亞弗利



球 中 東

大洋 大洲

兩半球の
水陸比較



球 中 西

六 水陸の形狀

加濠太利亞の四大洲あり、西大陸に、北亞米利加、南亞米利加の二大洲あり、又東大陸は、早く開けたるを以て、舊世界と稱し、西大陸は之に對して新世界と稱す。
東大陸の在る方を東半球と稱し、西大陸の在る方を西半球と稱す、其界は、西經二十度及東經百六十度の經線とす。

陸の形狀

陸の形狀

水陸共に種々の形狀あり、それら其名を異にす左に其重なるものを記せん。

島嶼

左に掲ぐる地形圖を參照すべし。
島嶼 全く水に圍まる、小なる陸地を、島と稱す。大陸も、實は島の大なるものにして、其周圍は同じ

發端 水陸、水陸の形狀

く水なり、只其大小によりて名の異なるのみ。群島 多くの島の群かるものを群島、島葉、又は諸島と稱す。列島 多くの島の連なるものは之を列島或は連島といふ。

半島

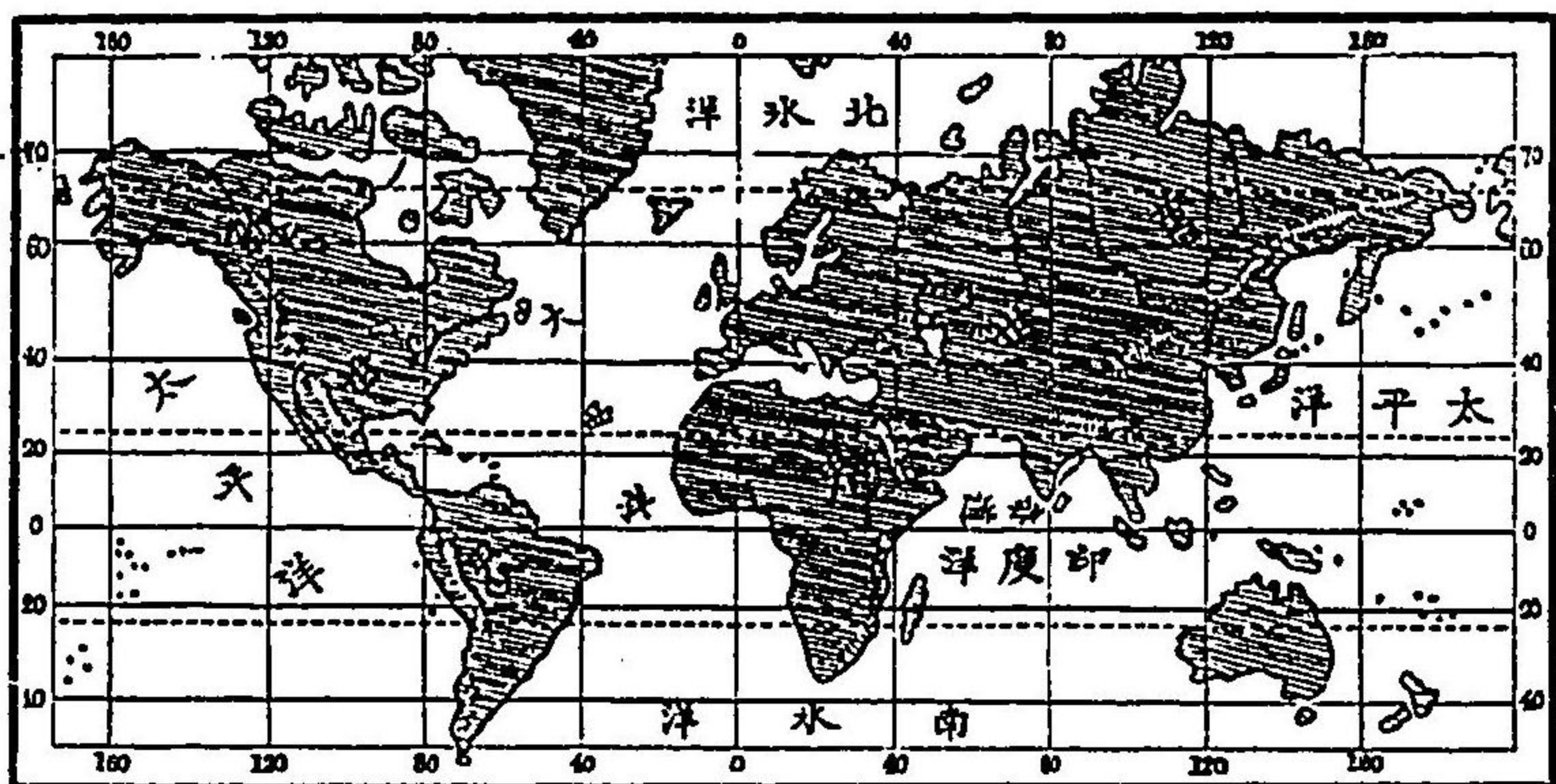
岬

地峽

海岸

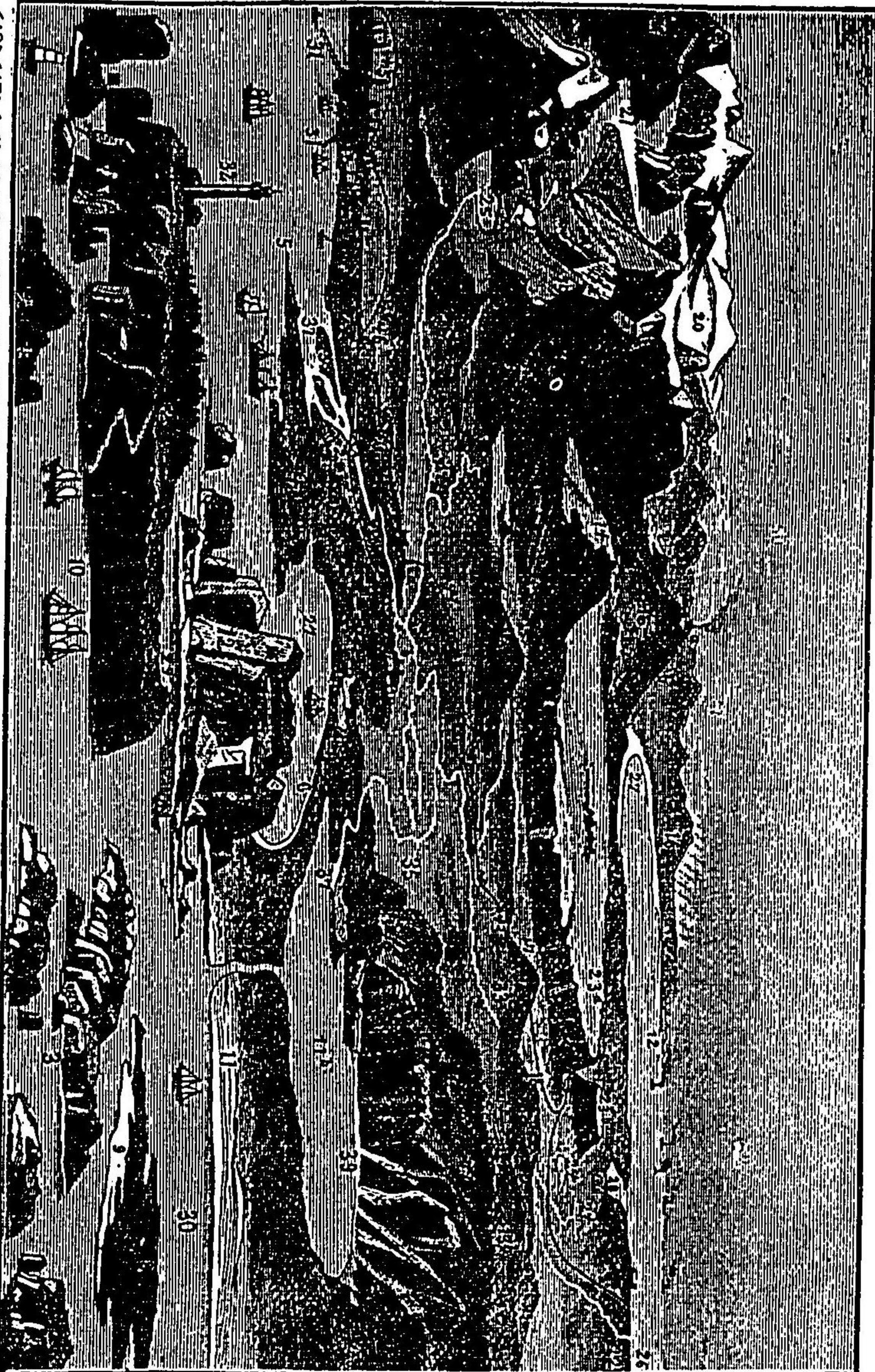
山岳

半島 陸地の水中に突き出て、三方は水に囲まれ、其一方が大なる陸地に續づくものを半島と稱す。岬 陸地の水中に突き出てたる端を岬、又は崎と稱す。岬の高きものを高岬と名く。地峽 二箇の陸地間の狭き所を地峽と云ふ。海岸 陸地の水に接する所を、海岸、又は海濱と稱す。海岸の地貌により、沙濱、岩濱、等の名あり。又陸地の高低に従て、種々の名あり。陸地の高低は、大洋の面を標準として測るを法とす。山岳 陸地の甚た高き處を山岳と稱す。其稍、低



此に掲ぐる地圖は、地球を平面に寫したるなり。上は北、下は南、右は東、左は西なり。凡地圖は上を北とす、若し北方を上とせざるときは、肥前を以て方位を示すを法とす。縦横の線は經緯度線なり、地圖の左右に書する數字は、緯度を示し、其上下の數字は經度を表す、但東西半球の地圖には、經度の數字を赤道線の側に書するを通例とす、抑地球は、球体なるを以て、其地形を平面の地圖上に寫すること能はず、此點に於ては、地球儀、地圖に優れりとす、

地形地圖



- (19) 低山 (14) 山岳
- (20) 大平原ヲ有スル高山 (21) 水河 (15a) 山火口及山頂
- (22) 平原及高原 (15b) 山腹
- (23a) 高原 (15c) 山麓
- (23b) ノ高原狀 (16) 山脈
- (24) 湖 (17) 山道
- (25) 山湖 (18) 山支

- (48) 森林
- (47) 森林
- (46) 村落
- (45) 市街
- (44) 港
- (43) 陸道
- (42) 鐵道
- (41) 鐵道
- (40) 街道
- (39) 邊布
- (38) 三稜洲
- (37) 河口
- (36) 下流
- (35b) 左岸
- (35a) 右岸
- (35) 牧草地
- (34) 支流
- (33a) 中流
- (33) 上流
- (32) 堰台
- (31) 波止場
- (30) 淺海峽
- (29) 海峽
- (28) 小灣
- (27) 灣
- (26) 海

發端 水陸の形狀

- (1) 地平線
- (2) 島
- (3) 群島海
- (4) 中島
- (5) 陸舌
- (6) 地峽
- (7) 岩礁
- (8) 低島
- (9) 無濱
- (10) 峭岸
- (11) 沙丘
- (11a) 低海濱
- (11b) 瀉
- (12) 岬
- (13) 丘陵
- (13a) 分丘陵
- (13b) 水陸地及

山脉

き處は小山、或は丘陵と云ふ、山の最も高き處を山頂、或は嶺と云ひ、其中部を山腹、其下脚を山麓と云ふ。此外山に就き、山脊、峠、山峽、山阪、等の別あり。

高原

高原 高地の廣大なる處を高原、又は台地と稱す。低原 高原に對して、陸の低き處を低原と稱す。谷 山岳の間に挟まるゝ地を、谷と名く、或は河岸の平地を河谷と稱す。谷は、其廣さ僅に數町に過ぎざるものあり、或は數十里に連るものあり。

沙漠

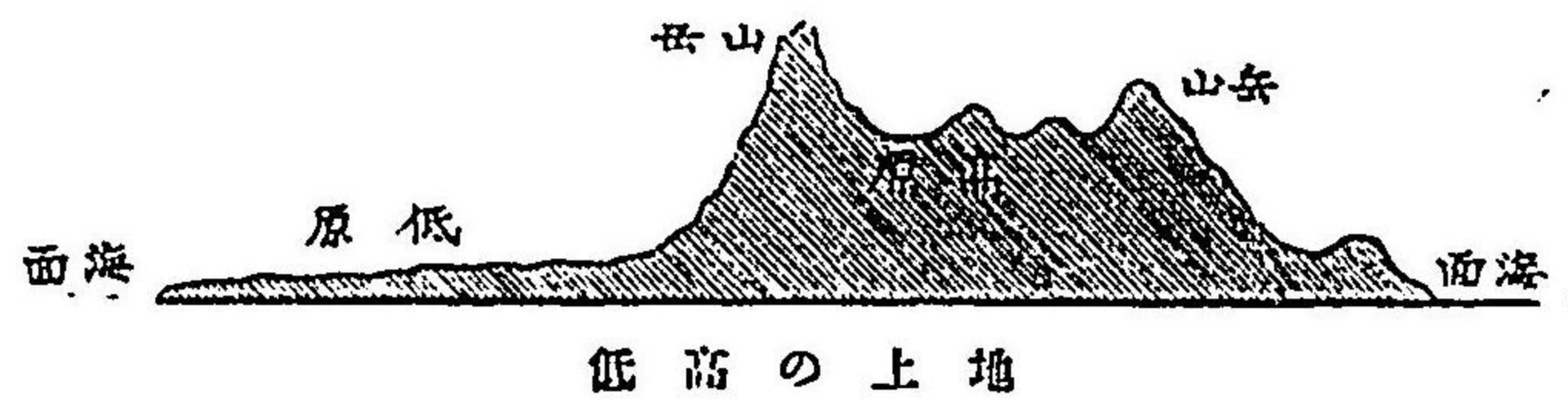
沙漠 砂石多くして、川澤も樹木も乏しき原を沙漠と稱す。沙漠の中、往々泉水涌き出し、地味の肥たる處を沃域、又は泉地と稱す。

火山

火山 山岳若くは丘陵、等、總て蒸氣、熔石、灰、等を噴き出すものを活火山とし、其噴き出す穴を噴火口と稱す。又嘗て噴火したる證據あるも、其噴火の年代明ならざるものは之を消火山と稱す。噴火脈の相連なるものを、火山脈と稱す。

水の形状

水の形状 地面の水を區別して、瀝水と海水となす。瀝水とは陸地を瀝はす水を云ふなり。



河流

分水脊

瀝地

三稜洲



山水と河水

河流 陸地の凹處を流るゝ水の大なるを河、又は江といひ、小なるは川といふ。河の他の河に流れ入るものを支川と稱し、河の起る處を河源といふ。又其の海湖、又は他の河に流れ入る所を河口といふ。山脊、又は高地によりて、河の源を分つ所を分水脊、或は分水界といふ。大河にして多くの支流有る者は、其本流、並に支流を總稱して、河系といふ。河の瀝はす地方を、總て其瀝地又は水域といふ。河口に土沙積み重なりて、流の數派に分れ居る、三角の地を、三角洲と名く、河の兩岸

湖沼

高くして、狭き處を河峽と稱す。河の岸は河上より河口の方に向ひ、右を右岸、左を左岸といふ。

湖沼 陸地の凹處に溜る水を湖と云ふ。湖の水の淺きものを沼と名く。湖の水の鹽氣あるものは、之を鹹湖と稱す。鹹湖は、河の水を容るゝのみにて、其水の流れ出るものな

氷河

氷河 高き山中、又は極寒の地に於ては、河水凍る、之を氷河と稱す。其次第に下りて、寒海の中に浮ぶものを氷山と稱す。

海灣

海 大洋の一部の多少陸地に圍まるゝものを海と云ふ。灣 海水の陸地に入込む處を灣と稱す。又船を繋ぐべき所を港と稱す。

海峽 兩陸の間に挟まる狭き處を海峽と名く。海峽の長きものは水道と稱す。

海流

海流 海中には、地上の河の如く、水の流あり、之を海流、又は洋流と稱す。海流には、暖流と寒流の別あり。此外波浪及潮汐と稱する、海水の運動あり、岩礁、岩の海面に顯はるゝを岩礁と稱し、其海面下にあるを暗礁といふ。

第二編 大日本帝國

第一章 日本群島

一 位置、廣袤 第一及第二地圖参照

位置 我日本帝國の領地なる日本群島は、地球上如何なる處にありや。世

界全圖を開ひて觀よ、西北には、亞細亞大洲あり、東南二方には、太平洋あり、而して、遙に亞米利加大洲、南洋群島、濠太利亞大洲、馬來群島、等に對し、海水其四周をかこめり、航海の便利實に大ならずや。

日本群島の地體 さて、此群島は、東北より西南に連なり、長さ凡そ一千百

里、幅凡そ三十里より百里あり。其地體の向きは、三つの弓をならべたるに似た

地球上日本
の位置

日本群島
の地體

り。故に此群島を二つに分ち、其北なるを千島列島とし、中なるを本土列島とし、南なるを臺灣列島とす。其の極南は、北緯二十一度四十八分(臺灣島の南岬)にして、極北は、北緯五十度五十六分(千島國占守島北端)なり。

境界

我國は、北は千嶋海峡と宗谷海峡により、間にチヨツク海をへだて、魯西亞領西北利亞と境し、西は日本海、黄海、及東海を挟みて、魯西亞領西北利亞、朝鮮、及支那に隣りし、南は臺灣島を以て、西班牙領フリツピン諸島と相對し、東南はすべて太平洋に向へり。

群島

群島の重なる者 日本群島の數は、すべて二千餘あれども、周圍一里以上のものは、大小五百二十餘なり。其中の大島は、本土、北州、九州、四國、臺灣の五島とす。此五島は、日本帝國の要部にして、其屬島には、北州の東北に千島あり、本土の西北に佐波、隱岐あり、其東南に伊豆諸島及小笠原島あり、九州の南に琉球諸島あり、其西北に五島、壹岐、對馬あり、四國の東に淡路島あり、臺灣の西に澎湖島、其東南に紅頭嶼あり。(本書に於ては北海道本島を北州と稱す)

面積

面積の比較

面積 全國の面積は、凡そ二万七千六十二方里(凡そ十六万一千一百二十八方哩餘)あり。世界の諸國の廣さを較ぶるに、支那、魯西亞の如く、我國の數十倍なるもあり、又朝鮮、及歐羅巴洲の小國の如く、我國の二分一、若くは十分一に足らざるもあり。國土の大小より云へば、我日本は中等にして、世界の強國たる、英吉利、佛蘭西、日耳曼(獨逸)の如きも、其本國の廣さは、我國よりも小なるものもあり、要するに大なる相違なし。是れまで日本を小國と思ひたるは、大なる誤なり。

| | |
|-------------------------------|----------|
| 五大島及千島、琉球の面積は、凡左の如くなり(端數は省畧す) | |
| 本土(佐波、隱岐、淡路等の屬島を含む) | 一四、六九〇方里 |
| 北州 | 五、〇六二方里 |
| 九州(壹岐、對島等の屬島を含む) | 二、六七一方里 |
| 臺灣 | 二、二六八方里 |
| 四國 | 一、一八〇方里 |
| 千島(三十二島) | 一、〇三三方里 |
| 琉球(五十五島) | 一、五七方里 |

畿道の區別

國の區別

一一 區劃 第三地圖參照

畿道の區別

日本國は大別して畿内八道となす、即ち畿内、東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道、北海道、なり。此外に新領地臺灣島あり。

國の區別

畿内八道を小分して八十五國となす。此國別は、古來度々變はりたれども、要するに、其境界は大抵地勢に従へり。國は或は州と稱するところあり、例へば山城國を城州、武藏國を武州と云ふの類なり。

畿内

國五
山城 大和 河内
和泉 攝津

東海道

國五十
伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐
伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸 (小笠原島)

東山道

國三十
近江 美濃 飛騨 信濃
岩代 陸前 陸中 陸奥
上野 下野
磐城

北陸道

國七
若狹 越前 越後 加賀 能登
越中

山陰道

國八
丹波 丹後 但馬 因幡
伯耆 出雲 石見 隱岐

山陽道

國八
播磨 美作 備前 備中
備後 安藝 周防 長門

南海道

國六
紀伊 淡路 阿波
讃岐 伊豫 土佐

西海道

國二十
筑前 筑後 豐前 豐後 肥前 肥後
日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球

北海道

國一
渡島 後志 石狩 天塩 北見 釧路 根室 千島 膽振

臺灣

府縣別

府縣別 右の如く、日本國は、臺灣を除き、之を大別して、畿内八道となし、更に之を小別して、八十五國となせども、政治上の都合より、此八十五國及臺灣を、或は合はせ、或は分ちて、一廳、三府、四十九縣となせり。此廳府縣の區劃は、明治維新の後に、始めて設けたるものにして、初めは數々改めしが、遂に今日の如く定まれり。此區劃の名稱等は、後段に於て述べべし、先づ此畿道の區別と國の區別を暗記すべし。

第二章 地方各論

一 十區の區劃

區劃

前に述べたる如く、我國は臺灣の外、之を大別して、畿内、八道となし、之を小分して、八十五國とす、此大小の區劃は、互に入り雜じり居らざるを以て、之を知ると難からず、然れども、他に廳、府、縣の區劃あり、其界は、畿、道、國の境と入りまじれり、是れ初學者の、知り易からざる所なり。故に今成るべく此面倒を除んが爲め、全國を分ちて、十區となし、而して次第に各區の事を記るすべし。

(註) 此十區の區劃は、其境界、畿内八道の境界と入りまじり居る所あれども、國々の境界及府縣の境界とは、殆んど入りまじらざるを以て、之を知ると難からず、是れ著者の、此區劃によりて、各地方の事を記する所以なり。

一一 關東區

第七及第四地圖參照

境域

境域 關東區は、古來關八州といへる、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野の八國を含む。之を分ちて、七府縣となす。

東京府

神奈川県

埼玉縣

關東區千葉縣

茨城縣

栃木縣

群馬縣

地勢

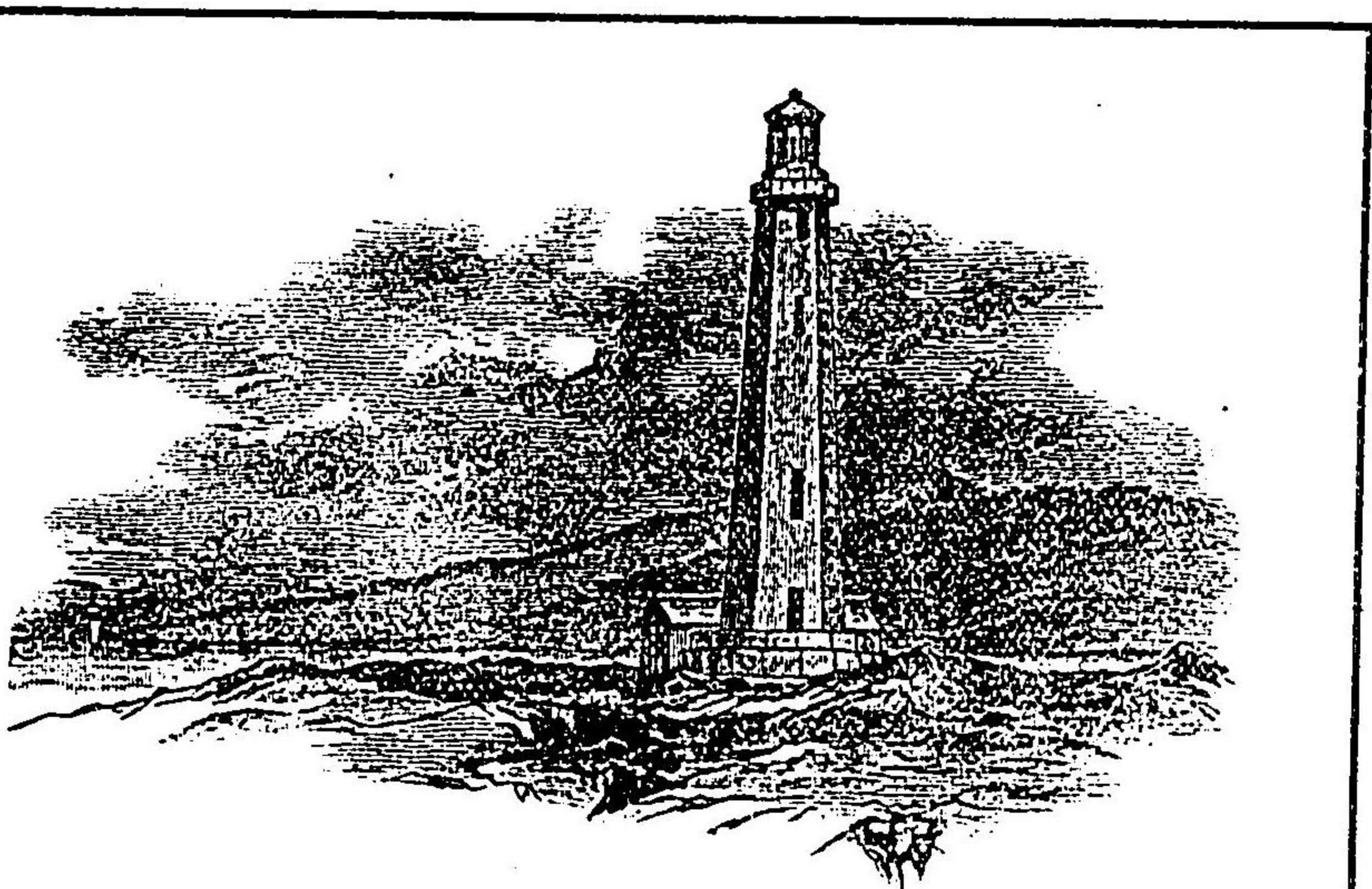
地勢 關東區は、西と北の二方は山にて圍まれ、房總半島の南部も、山多し、中央は大平野にして、廣さ三四十里四方あり、關東平野と云ひ、本土の最も大なる平地なり。河川は西と北の山地に起り、概して東南に向て流る。

海岸

海岸 東海岸の中央の岬は、犬吠岬なり。その以北の海岸は、沙濱多く、其海を鹿島洋と稱す。其以南の沙濱を、九十九里といふ、日本全國中漁獵の最も盛なる地なり。安房の野島崎には、犬吠岬と同じく燈臺あり。

南海岸は、中央に三浦半島突き出で、東は東京灣にて、西は相模灣なり。東京灣は深く陸地に入り込み、其沿岸に東京市、横濱港、横須賀軍港あり、故に灣の入口に

山脉



野島ヶ崎燈臺

は砲臺を築きて、守備嚴重なり。相模灣の北濱に江の島あり。其南に伊豆七島即ち大島、新島、三宅島、八丈島等あり。大島の、三原山より黒烟立升る。八丈島は、東京より凡百六十五哩にして、八丈絹を産す。其東南凡三百七十八哩に、小笠原群島あり、砂糖を産す。又其南方に硫黄島あり、熱帯産の菓物を産す。

山脉

東北の諸山は、阿武隈山脉にして、此山脉の筑波山は、關東の名山なり。北境の帝釋山脉は、其高峯七千尺に達す。那須火山、其東部にあり、其南の日光山彙には、徳川氏の廟あり、社殿華麗にして、其名海外に

も聞ゆ。又其西南なる足尾山は、名高き銅山なり。帝釋山脉の西を、三國山脉と云ふ、此山中に草津の温泉あり。其西の淺間山は八千餘尺あり、有名の火山にして、常に烟を吐く。山下の碓氷は、信濃に通ずる嶮阪にして、今は瀛車あり。赤城、榛名、妙義は、上野の三名山なり。榛名の伊香保温泉、並に妙義の石門は、避暑の遊觀に妙なり。

西の境は、關東山脉の諸山にて圍めども、幸に縦谷多くして、往來に妨げなし、最も高き山は八千五百尺あり。秩父の武甲山は名高く、小佛峠は、甲州への山道なり。南の大山に、雨降神社あり、毎年參詣人多し。箱根山彙は、關東の要害にして、昔北條氏長、其東麓に城を構へたり。山上の蘆湖は、水清く青山をめぐらし、富士山の眺望よろし。湖の東岸に、箱根の關所の跡あり、凡三十年前までは、關守あり、手形なきものは、通行を許さざりき。此山中に七湯あり。房總半島の、低き山脉は、最も高き峯も、一千四百尺に至らず。鋸山の石、鹿野山の木、共に有用の材なり。

水理 關東の大河は利根川なり、東南に向て流れ、長さ七十一里あり。帝釋

水理

三國、兩山脉より出る川々は多く利根川に入る、其中最も大なるは、鬼怒川にして、利根川はそれ等の支川と共に、關東平野の大半を灌漑す。其下流は水勢緩く、且つ霞ヶ浦、北浦、等と通じ、汽船の往來絶へず。常陸を貫ぬく那珂川の右岸に水戸市あり。關東山脉よりは、荒川、多摩川の二流を出せり。荒川は、下流を隅田川と稱し、東京市の東部を貫く大切の川なり。多摩川は、水清く鮎を産す。此水は、東京に引きて、市民の飲水とす。此河々の灌地は農産物特に豊にして、都邑甚た多し。一万以上の人口ある都會は、凡そ十四あり。此外相摸の馬入川の沿岸は、甲斐への交通路なり。

風土

風土 關八州は、歴史上幕府の在りしと、數回にして、今は帝國の首府あり、其氣候は溫和にして、寒暑強よからず。中央の大平野は、河流縱横に通じ、地味肥へ、田圃開らけ、産物頗る豊にして、人口甚繁く、大都名邑多く、一万以上の人口ある都會は、二十七あり、隨て工業も商賣も盛にして、水陸の交通自在なり。

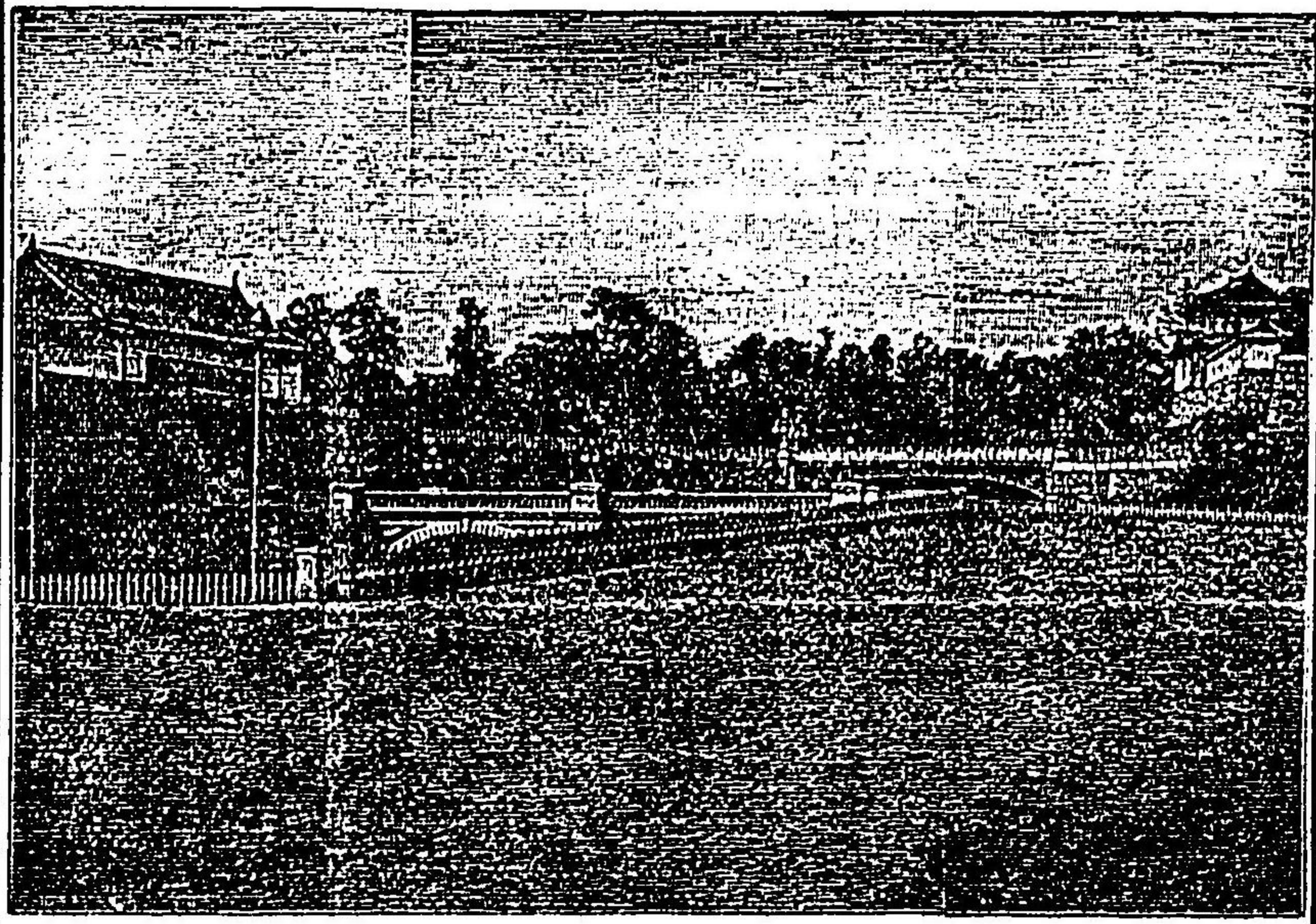
東京

東京 東京府は武藏の九郡、並に伊豆七島、小笠原島、硫黄島を支配す。人口

第十一
地圖
參照

百四十五萬あり。
 東京市(第十一號地圖參照)は、帝都にして、全國の中部に位し、南は東京灣に臨み、東に隅田川あり、又四方は大平野にして、鐵道四方に通じ、水陸の運漕自由なり。故に種々の物産四方より集り、市況繁昌なり。

本市の地勢は、西北の半部は岡陵にして高く、他の半部は低くして、其中央に皇城あり。皇城の周圍は、二重、若くは三重の^ガ漥をめぐらし、漥の岸には、老松枝をたれ、細柳風になびき、翠色滴らんとす。諸官衙、國會議事堂等の漥内に



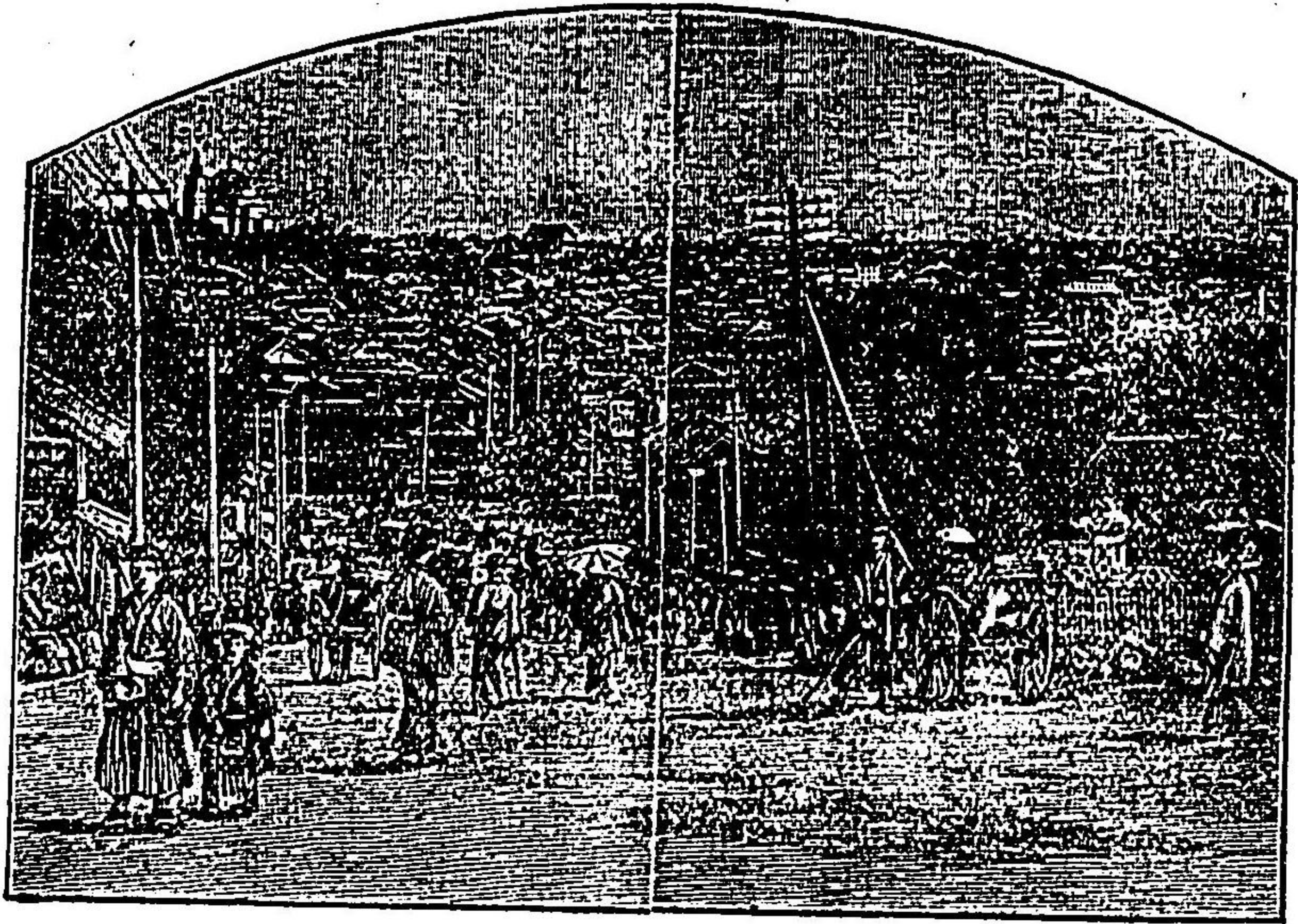
皇城二重橋御門之圖

あるもの少からず。然れども商店、會社、工場、學校、病院、邸宅、等多くは漥外にあり、家屋の廣大なるは、空中に聳ゆるものあり。其間に數百の道路を通じ、町の數は一、千、三、百、七、十、餘にして其廣さ東西凡三里、南北凡四里あり。全市を分ちて、十五區とす。人口、凡百三十七萬にして、世界中に於て第六の大市なり。

市内は商賣、工業盛にして、行人、車馬織るが如く、電信線、電話線は蛛網の如くに張り、坐ながら數百里の外とも談話すべし。大路には、電燈、又は瓦斯燈あり、暗夜も白晝の如し。又市内に上野、淺草、芝、深川、等の公園あり、月や、花や、人の好む處に適はざるなく、街路の間も櫻柳互に色を競へり。學校は、東京帝國大學を首め、數百の官公私立學校あり、近衛師團並に第一師團司令本部等もあり。本市の工業は、其種類舉て算すべからず、特に著名なるは、蒔繪、細工、鼈甲細工、錦繪、綿糸、西洋紙、麥酒、裝飾品、其他工藝品、器械、等とす。要するに、東京市は、工業、商賣、交通、學問、技術、政治、宗教、軍備等、百事百物の大中心にして、恰も全帝國の腦髓の如し、是れ其盛なる所以なり。

神奈川

第十圖 參照

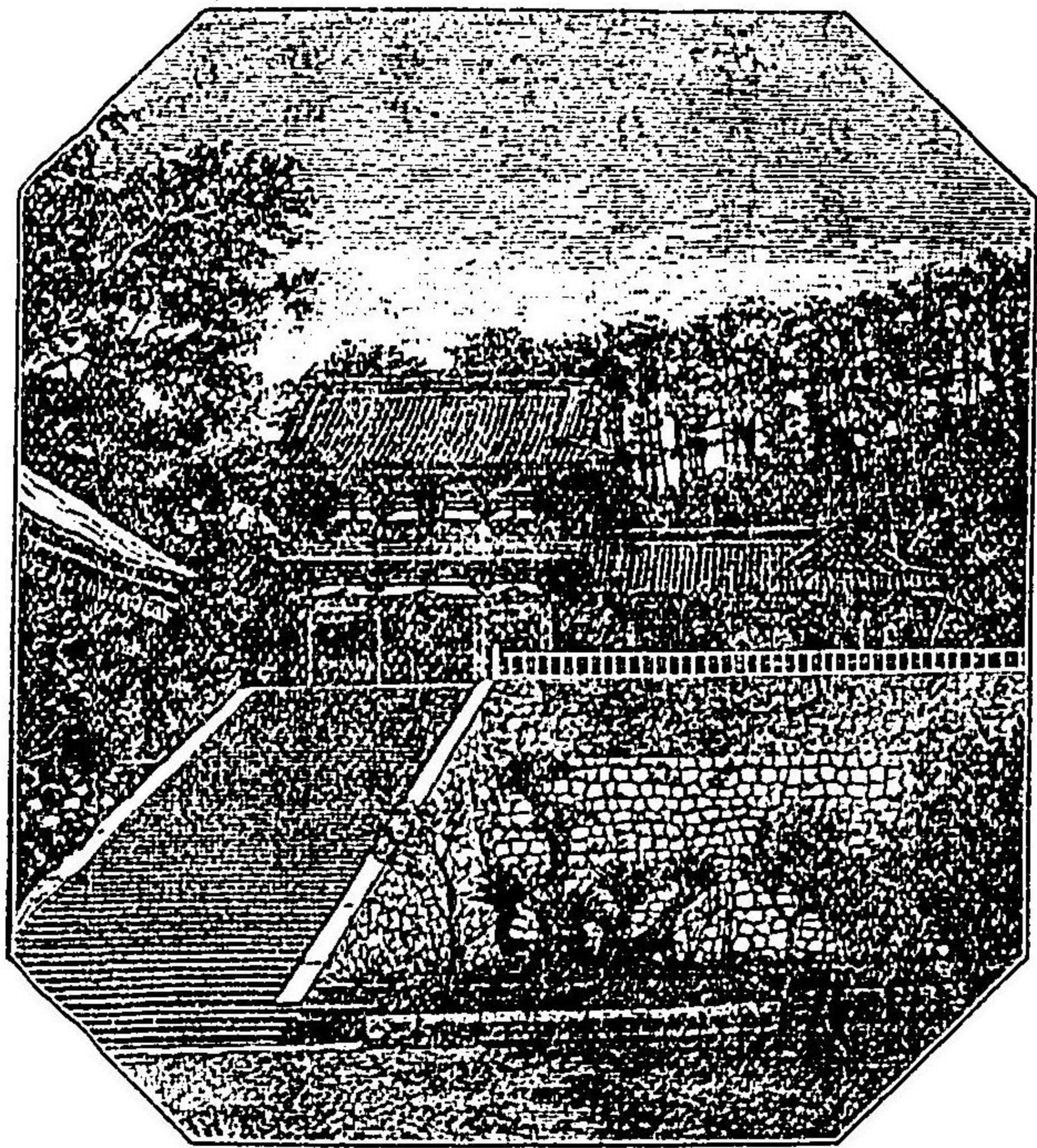


九段阪上り眺望の圖

東京の西に八王子町あり、甲州街道に當り、生糸、絹布にて名高く、其人口は二万六千餘あり。青梅綿、大森の海苔、梨實も本府の特産なり。

神奈川 神奈川縣は、相模全國及武藏の三郡を支配す、人口は七十四萬餘あり。○縣廳の所在横濱市は、我國の最も盛なる開港場にして、輸出入品の、東京其他近國に出入するもの、多くは此地を通過す、東京より僅に八里、晝夜汽車の往復二十餘回あり(日本の汽車は、一時間に凡八里を走す)、三十五年前に、開港したる其

埼玉



鐵介八幡

時は敷澤なりしが、今は十八万の人口あり、外國人の居留者も甚多し。小田原の梅干は味よろし。箱根の七湯は、内外の遊客絶へず。○鎌倉は昔源頼朝の幕府ありし地にて、鶴ヶ岡八幡、長谷の大佛等舊跡少からず。○三浦半島の横須賀は、我國第一の軍港にして、鎮守府在り、船渠には造船の工事絶へず。○浦賀は、米國の水師提督ヘルリの來航せしため、其名高し。

埼玉 埼玉縣は、武藏の九郡を支配す、人口は百十三萬餘あり。浦和は、縣廳のある

所なれども、小邑にして、人口七千に足らず。大宮公園は遊觀によるし。川越町は、人口二万あり、近所にて多く甘藷を産す。○熊ヶ谷は熊谷直實の墳墓の地なり。川口の鑄物、秩父の木材は著名なり。

府縣の名稱と其府縣廳の在る市町の名稱と同一なるときは、一々府縣廳の所在を記せず

千葉

千葉縣は、安房、上總の兩國と下總の六郡を管轄す、人口百二十三万余あり。○千葉町は人口二万六千にして、東京灣に臨み、水路と瀛車の便あり。

○佐倉に於ては、維新前にも西洋の理學、武術行はれたり。佐原の酒、銚子の漁獵名あり。安房の北條、館山は、里見氏の遺跡なり。野田の醤油は名高し。房總の魚類は日々東京に入るもの甚多し。

茨城

茨城縣は、常陸全國と下總三郡を支配す、人口は百八万余あり。○

水戸市は、縣廳の在る所にして、人口三万あり、東京へ瀛車程五時間なり。徳川氏（水戸家三十五万石）の舊城地にして、烈公齊昭、藤田東湖、等明君、賢臣を出せり。

群馬

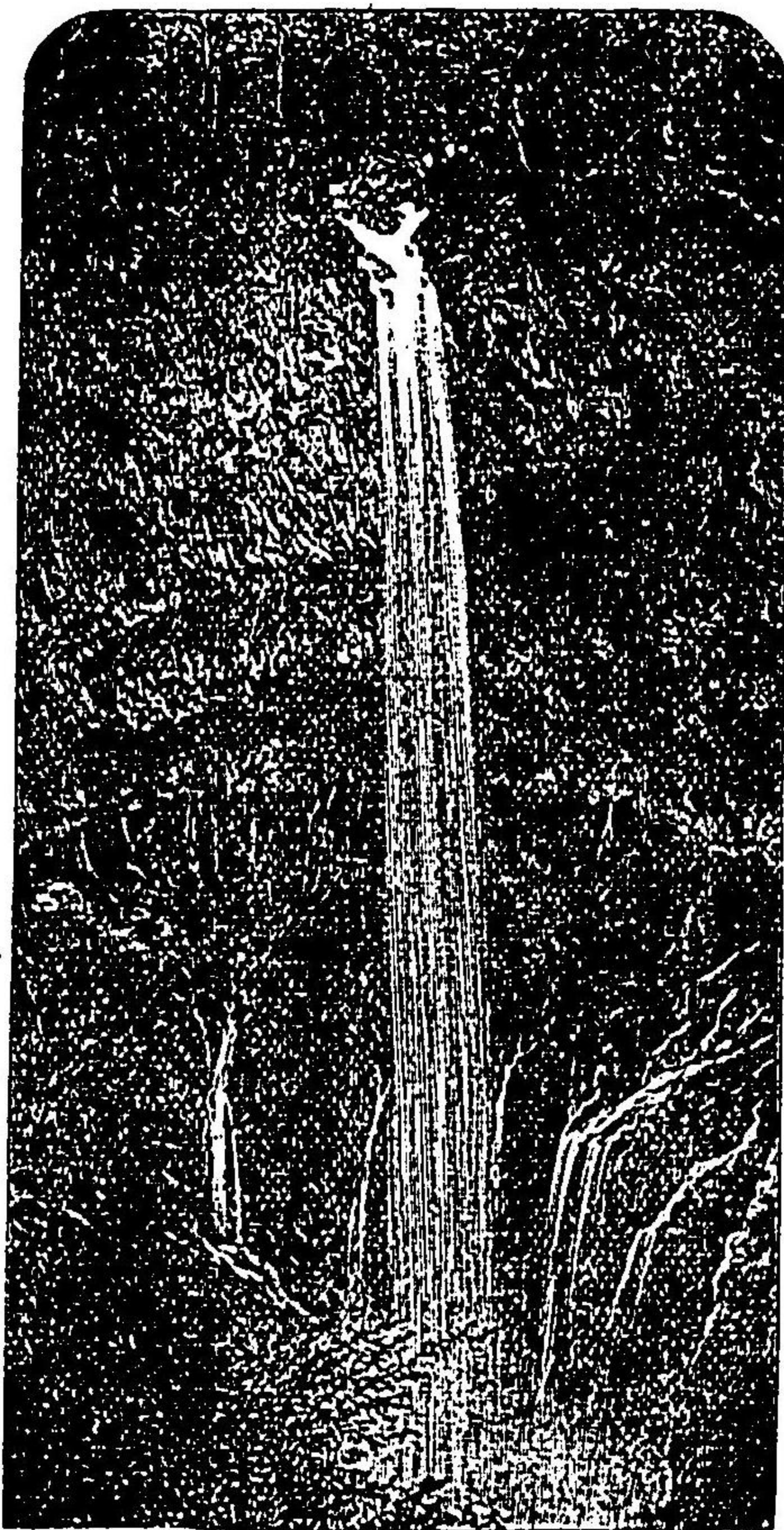
弘道館、好文亭は、烈公の遺跡なり。○石岡、土浦は、浦に近く、酒、醤油の産あり、結城は帛を出す。太田は、義公光圀隱棲の地にして、烟草の名産あり。奥州濱街道の磐城の境に、八幡公勿來關の舊跡あり、地勢嶮なり。

群馬縣は、上野全國を支配す、人口七十四万あり。○前橋市に縣廳あり、此市は生糸の製造盛にして、人口二万九千あり。○高崎町は、鐵道の線路に當り、東京へ瀛車程三時間餘、西に碓氷峠あり。又三國、清水の二峠は、越後への山道なり。○富岡の製糸は其名高く、桐生は、本邦に於て、第二の絹布産地なり。

栃木

栃木縣は、下野國全部を管す、人口七十五万あり。○宇都宮は、縣廳あり繁華の都會にして、人口三万五千なり。○日光山は、徳川氏の廟墓あり、男體山の高く聳ゆると八千尺、山下に中禪寺湖をたゞへ、其水落ちて華嚴の瀑となり、懸ると七十五丈、此外名瀑少からず。それ等の水集りて、大谷川を成す、山中は老杉古檜繁茂せり、年々登山するもの數万あり。○栃木町は、宇都宮に次ぐ大市街なり、足利は織物にて名高く、眞岡の木綿、鬼怒川の鮎、鹽原温泉の風景、何れも名あり。

大日本帝國 關東區



日光滝
り。○此地は、新田、足利兩氏の起りたる處なり。

三 奥羽區

第六地圖參照

境域

境域 此區域は、前には陸奥、出羽と稱したる地にして、其國々は岩代、磐城、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の七國なり。之を左の六縣に分つ。

- 奥羽區 (福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣 山形縣)

地勢

地勢 本區は、細長くして脊骨狀の山脉、其中央を南より北に貫き、之を中軸として、地勢東西の二方に傾く。然れども、此脊骨山脉の支脉或は左右に出で、或は脊骨山脉と平行する山脉を成すものあり。此れ等の山脉の間に挾まる河谷は細長き平野なり。

海岸

海岸 東方仙臺灣の内に、松島の群嶼散在し、金華山は遙に海中に立ち、風



景絶佳、日本三景の一なり。仙臺灣より北の海岸は鋸の齒に似たり。然れども、

山脉

陸奥の東岸は、沙濱なり。

北端には、北郡、津輕の二半島突き出して陸奥灣を抱く、灣の北部の大湊は軍港に適すと云ふ。陸奥灣の外は、津輕海峡なり。尻矢岬、龍飛岬此に突き出づ。西の海岸には、男鹿半島出で、八郎潟を抱く、半島の沿海は、風景松島にとらず。

山脉 中央の脊骨山脉は、陸奥山脉と稱し、内に火山多く、又鑛物、鑛泉少からず。近頃破裂したる、盤梯、吾妻の二山は、猪苗代湖の北に聳ゆ。此邊は日本中温泉殊に多く、高湯、飯飯、等は浴者常に絶へず。藏王山の中腹にある青根温泉場は、風景甚佳なり。駒ヶ岳、岩手山、八甲田山は、名山なり。恐山は、活火山にして硫黄を産す。此山脉中、東西に通ずる山道數多あり。

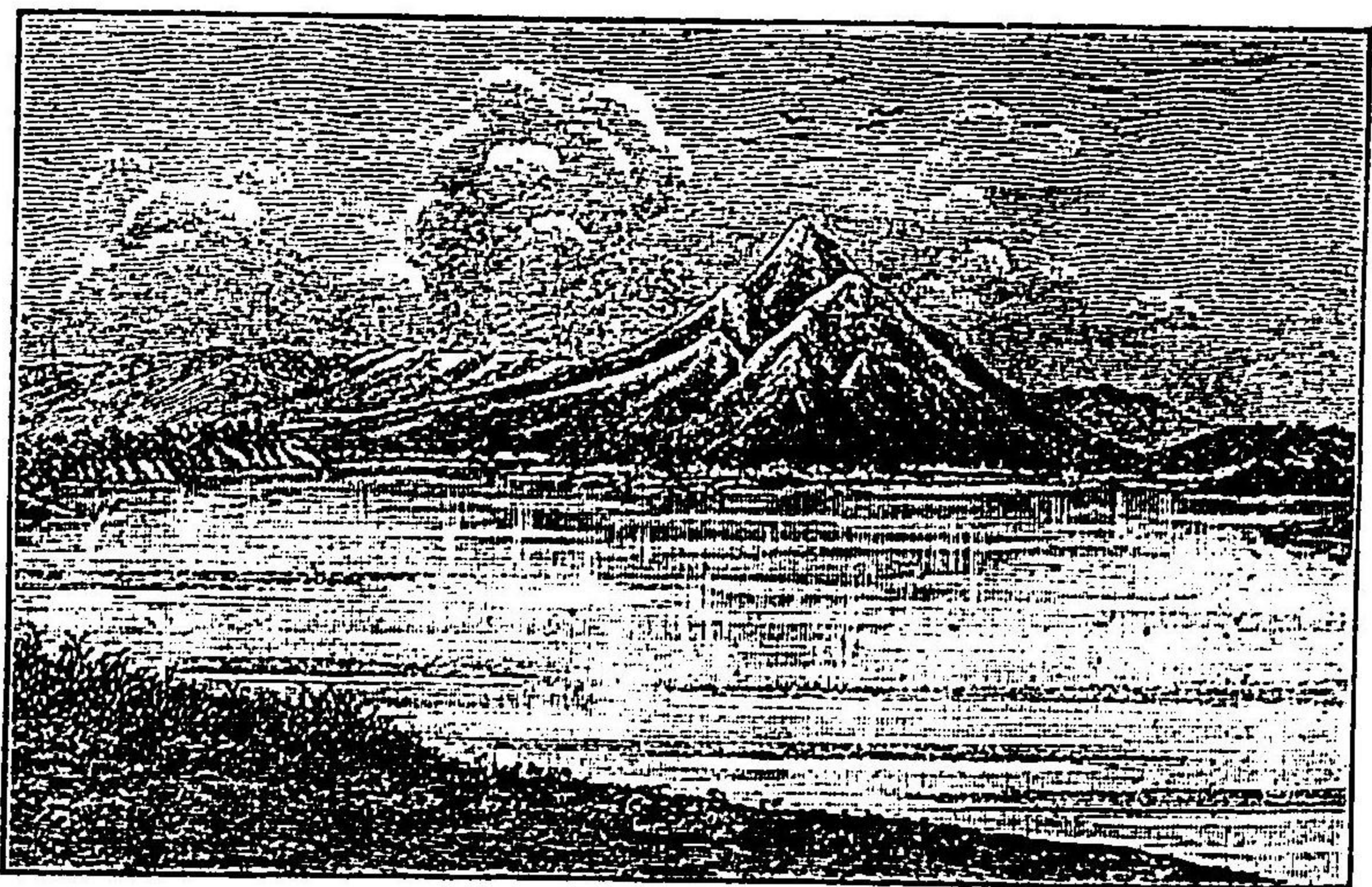
陸奥山脉の西側に、出羽山脉平行し、南は三國山脉に、北は陸奥國の境山に連り、河流所々を横切りて、山脊連續せず。岩代の燧岳と飯豊山は高峯なり。月山、湯殿山は夏日登山者斷へず。鳥海山は火山なり。

又常陸より、磐城に連なる山脉は、阿武隈山脉なり。靈山は、昔北畠顯家の據り

水理

たる嶮山にして、其城趾尙存せり。此山脉中に石炭あり。又陸中の東部の、北上山脉は、其最高點を早地峯とす。仙人峠には多量の鐵鑛あり。

水理 岩代は、中央低く、周圍の高山の水集りて、阿賀河となり、出羽山脉を横ぎり、越後に下る交通線を成す。其河源の一なる、猪苗代湖は周圍十三里、山水畫くが如く、漁船の來往繁し。阿武隈河は、兩山脉間の長谷を北に流れ、北上川は、兩山脉の間を南に流れ、共に仙台灣に注ぐ。此二川は、此二長谷の農産物を生ぜしめ、且つ南北の交通線を成せり。



山梯繪

羽前の最上川と羽後の御物川及能代川は、共に、西の山脉を斷ちて、日本海に注ぐ。沿岸の平野は、農産多く、米澤、山形、秋田、等の都會あり。陸奥の岩木川の沿岸も豊饒にして、弘前市あり。又東側に、馬淵、相阪の二川あり。相阪川の源なる、十和田湖は、舊噴火口にして、周圍十里あり、湖中に鱒を産す。八郎潟は、周圍十五里、風景絶佳なり。

風土 奥羽地方は、文化未だ進まず、人口稀にして曠野多し。季候は、關東よりも寒さ強く、兩羽地方は、冬は風勢強し。大流の灌地は、地味肥へたれども、耕地は、未だ開けず。隨て農産物は地面の割合に少く、工業、商賣も盛ならず。然れども近年汽船、瀛車の便開らけてより、益、改進に赴くの勢なり。一万以上の人口ある都會十八あり。

福島 福島縣は、岩代全國と磐城七郡を管す、人口百一萬あり。○福島町は、阿武隈河岸の桑野に位し、養蠶にて繁昌す、人口一萬八千あり、東京より瀛車程九時間なり。白川の關趾は、南境白川町の東南三里にあり。○若松町は、會津平の

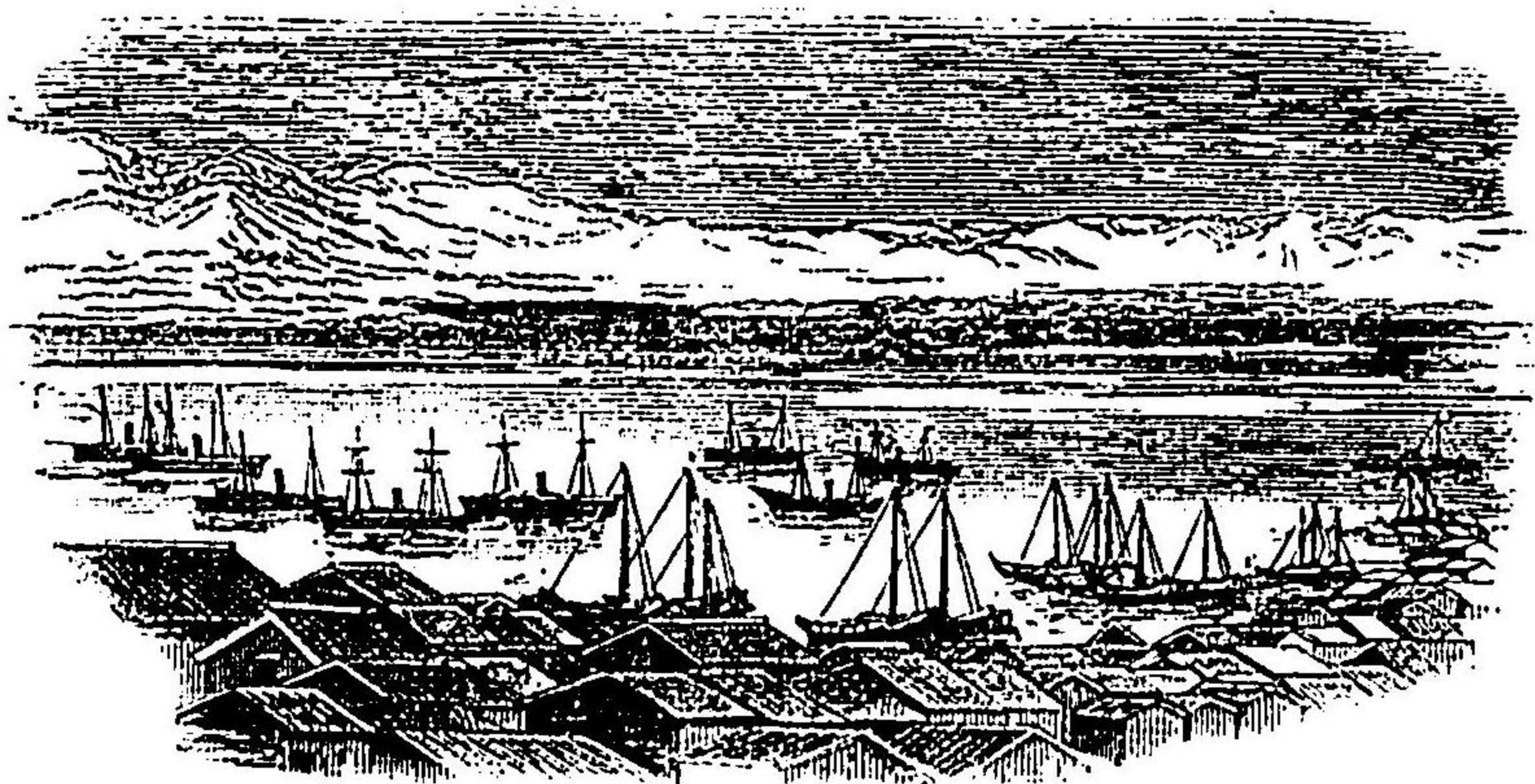
都會にして、松平氏(二十三萬石)の舊城地なり、戊辰の役官軍此に苦戦せり、人口殆二萬五千、漆器、蠟の名産あり。三春の馬、平の石炭、半田の銀も本縣の名物なり。

宮城 宮城縣は、陸前の十三郡と磐城の三郡を管す、人口八十萬餘なり。○中央の仙臺市は南北に兩大河の灌地を扣へ、鐵道の線路に位し、人口七萬餘、奥羽地方最大の都會なり。第二師團司令本部、及第二高等學校、控訴院あり。此地は伊達氏(三十二萬石)の舊城地にして、奇傑林子平を出せり。仙臺平織銅器の名産あり。東京へ九十二里、瀛車程十二時なり。○北上河口の石巻は、横濱との交通繁し。○名取川の埋木細工、氣仙の柳行李、白石の澁麵、紙布も、名物なり。

岩手 岩手縣は、陸前の一郡、陸中の十七郡、陸奥の一郡を管す、人口七十一萬餘あり。○盛岡市は管轄廳の所在にして、北上河谷にあり、南部氏(二十萬石)の舊城地にして、人口は三萬二千、仙臺より瀛車程五時間なり。盛岡の近傍に、安倍貞任の厨川の柵趾あり。○釜石と宮古は要港にして、釜石の近傍に鐵礦あり。○

青森

秋田



一の關の西北に、義經の衣川の館趾あり。

青森 青森縣は、陸奥の八郡を管し、人口殆

五十八万あり。○青森町は、青森灣に臨む、東京

より凡百九十里、汽車程二十六時なり、箱館へ定

期航海あり、人口二万四千あり。○弘前市は、岩

木川の灌地にあり、當國第一の都會にして、人口

三万あり、津輕氏の舊城地にして、澁塗漆器、林檎

實、等を産す。第八師團司令部あり。○弘前

の西方、岩木山は、著名の火山にして、一に津輕富

士といふ。○馬淵河口に入戸町あり。野邊地は

同名の灣に臨む。

秋田 秋田縣は、羽後の八郡と、陸中の一郡

を管し、人口七十四万餘あり。○御物川の下流

の秋田市は、人口二万七千、佐竹氏(二十万五千石)の舊城地にして、東京へ百五十
一里を距つ、精巧の織物を産す。海濱の土崎は、要港にして、御物川上流の灌地に
も名邑少からず、横手町最も大なり。○院内銀山、荒川銅山も、共に此灌地にあり。
○能代河口の能代町は、能代塗の漆器を産す。本縣の名産中、秋田蕎麥は、葉莖の大
なるを以て名あり。

山形

山形 山形縣は、羽前一圓と羽後の一郡を管し、人口八十万あり。○山形市

は、最上川の灌地に位す、人口三万一千あり、東京へ九十五里なり。南方上、山に

温泉あり。最上川の上流の灌地に、米澤市あり、其近傍も平原にして、桑樹多く、近

頃は多く林檎の實を産す。此地は上杉氏(十五万石)の舊城地にして、鷹山公の治

績今尙存し、養蠶機業盛にして、米澤織の名高し。○最上川口の酒田は、要港なり。

此他、鶴岡(一名庄内)及新庄ニルガタカも名邑なり。

四 山海區 第七地圖參照

境域

境域 本區は、本土の中央に位し、美濃、飛驒、信濃、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、伊豆、甲斐、の十二國を含み、其境域甚大なるのみならず、全國中山最多く、且最も高き地方なり。本區を分轄する縣々は、六個なり。

山海區

岐阜 長野 三重(紀伊國の二郡を含む)
愛知 静岡 山梨

地勢

地勢 本區は、全土山多く、其間に小平地あれども、多くは山間の平谷のみ。日本の最も高き山脉三個は、本區の内に在り、概して東北より西南に向て走り、以て本土を中斷せり。而して飛驒、信濃、兩國の中央は、恰も南北の分水脊となり、此所より地勢南北に傾き、河川は山脉の縦谷に沿ひて流れ、南北の兩海に注ぐ。

海岸

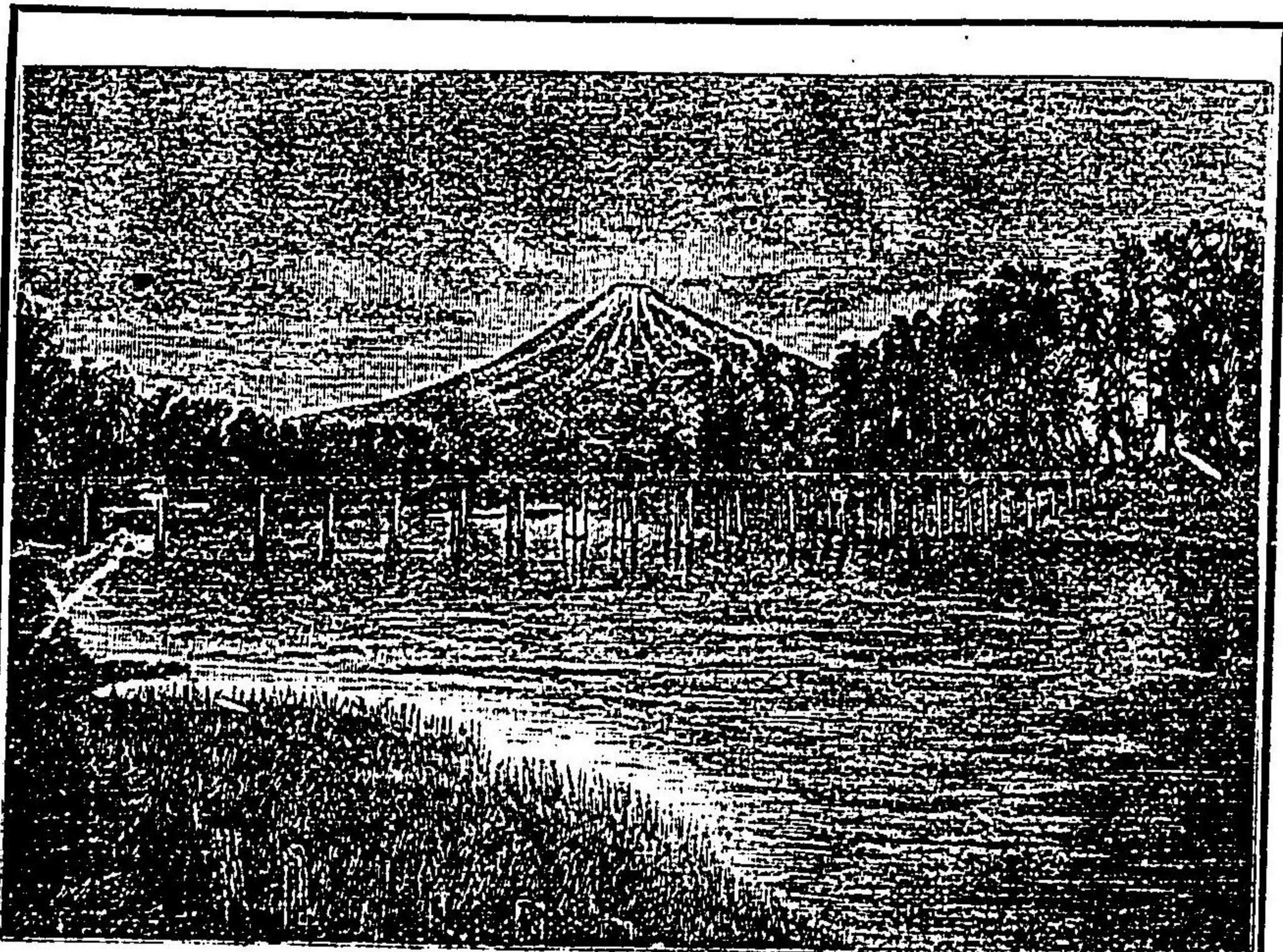
海岸 此地域は、南の一面海に臨むのみ。其の東西兩端に、半島突き出づ。東の伊豆半島は南端を石廊崎イソノカサキと稱し、半島の兩岸は、岩多く、其西側は駿河灣な

山脉

り。灣の西南端御前崎ミマエザキは、石廊崎と相對し、共に燈臺あり。駿河灣の北に方り、富士岳雲表に聳ゆ、田子の浦より打見やれば、風色最美なり。三保の松原も景色よし。西の伊勢半島(志摩を含む)は、其東南の端を大王崎オウノサキとし、海岸石多し。此半島の東北は、伊勢灣(又は伊勢海)と稱し、其東は三河灣サイカワノウミにして、此二灣の間に知多半島あり。三河灣の南の半島を渥美半島ワツミノシマとし、其盡端は伊良湖岬イラウシなり。東西兩海灣の間の海岸は、すべて平沙にして、濱名湖灣ハマナミと、天龍河口あり。其沿海は、遠江洋と稱し、度々暴風怒濤を起すとあり、航海者の恐るゝ所なり。

山脉

山脉 東境の南部は、箱根山彙と關東山脉の山々あり。武州に通ずる山路、笹子峠の北に天目山あり、武田氏滅亡の地なり。東境の北部には、三國山脉の淺間山、吾妻山等あり。箱根の西北に、富士山屹立す、高さ一万二千四百餘尺にして、山姿秀清、太平洋を睥睨す、稀なる名山にして、芳名海外にも聞ゆ。山嶺の火口は、周回一里あり、山麓の裾野は一望際りなく、野草繁茂せり、其間に數個の湖水をたゞゆ、毎年登山するもの甚多し。



富士山

甲斐、駿河、信濃三國の境上より、大井川を挟みて、南に連なる山脈を赤石山脈とし、其最高峯赤石山は、一万百餘尺あり。此山脈中には、水晶、金あり、又日蓮宗の靈山身延此中にあり。信濃の中部より、天龍川と木曾川の間を、西南に走する山脈は、木曾山脈にして、駒ヶ岳(七千八百尺)最も高し、其北端に鹽尻峠あり。木曾義仲は此山谷より起れり。

信濃と、飛驒、越中との間にある山脈は、飛驒山脈にして、本土の山脈の中最も高し。其鎗ヶ岳は、海拔一万

一千六百餘尺に聳へ、御岳、乘鞍、等も一万尺内外あり、此に野麥峠あり。此山脈の西は、濃飛高原にして、地面一躰に高し。中央に位山あり、西部に白山の高峯あり、其池水絶壁に懸り、白瀑を成す、長さ二百十六丈、幅七間あり、實に壯觀なり。

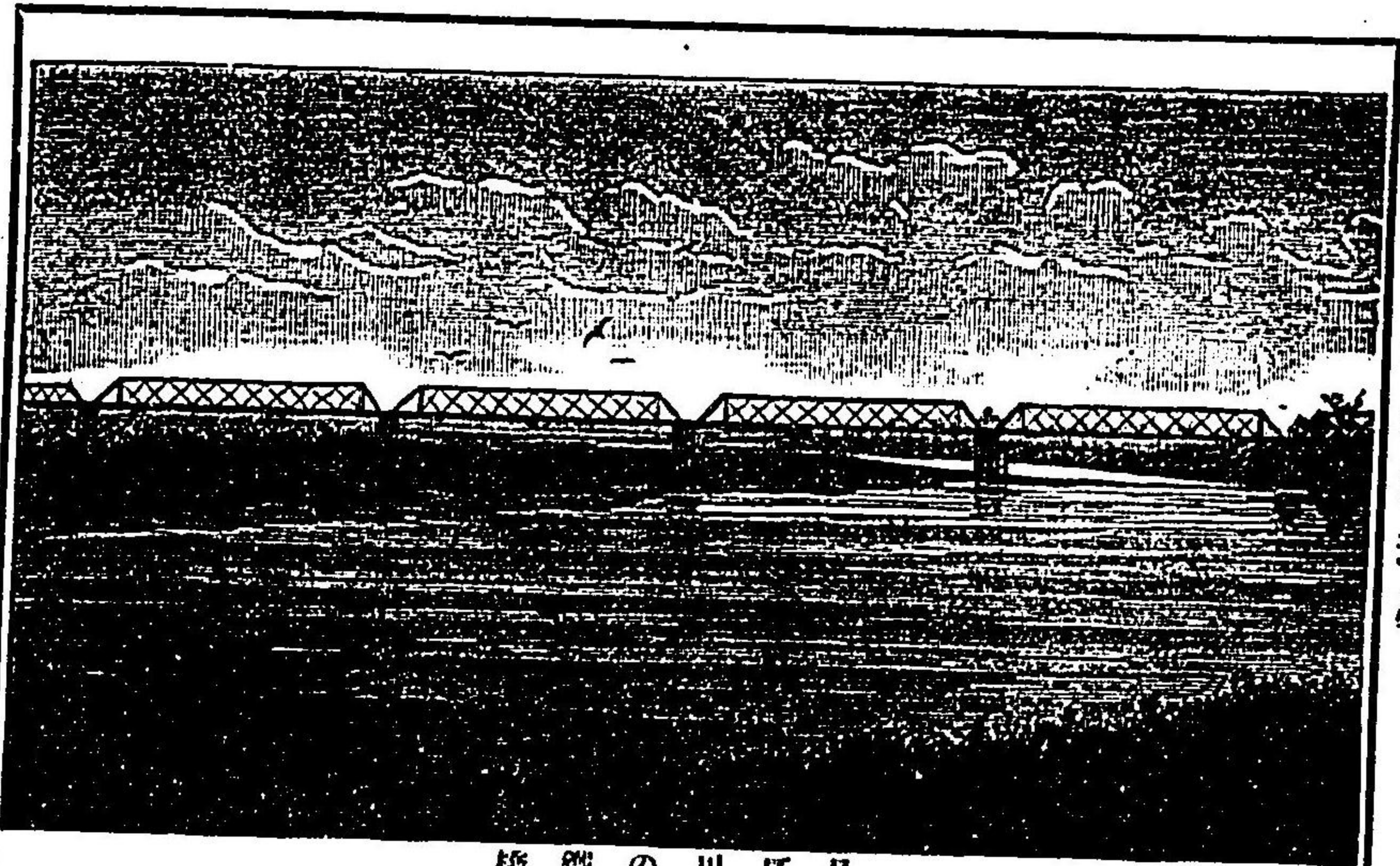
本區の西南境、近江、大和兩國との境界山脈は、鈴鹿山脈にして、最高點も四千尺に足らず、其峠を鈴鹿と稱す。此山脈の南は、紀伊山脈にして、伊勢の南部を満たせり。

水理

水理

信濃、飛驒、二國の中央は、南北に注く河々の分水界なり。此等の諸流の河谷は、南北の交通線路を成す。富士川は甲斐より旅人産物を南に送る便路なり。天龍川は、諏訪湖より發し、縦谷を流れ、其岸に伊那谷あり、南方への運輸に都合よろしく、下流の地方は水理よし。木曾川は木曾、飛驒兩山脈の間の深溪を流れ、河岸峻隘にして、名高き木曾棧道などの風景あり、上流は小舟を浮べ、或は材木を下すに過ぎざれども、下流は、飛驒川、長良川等合流し、運輸の便利よく、灌地廣く農産多く、名邑少からず、恰も關東平野の利根川に於るが如し、長さ六十六

風土



橋鐵の川長

里あり。

又北に流るる信濃川、高原川等は、信濃、飛騨兩國の旅人、物産を日本海に下すべき水路にして、灌地には農産地及名邑多し。殊に信濃川は、長さ百里あり、其上流なる千曲川と、犀川の間には和峠、及保福寺峠あり、河岸には松本平、佐久平並に善光寺平あり、物産豊かなり。

風土

内地は、寒氣強く、雪深けれども、海岸の地方は、或は半島突出し、或は海灣を抱くが故、寒暑ともに溫和なり。全國の中、地味最もあしき飛騨と、之に次く伊豆の外は、大抵肥沃なり。他は耕地少けれども、木曾川の灌地なる濃尾平野、及伊勢海の周圍は、田畑開ら

山梨

け、地味豊にして、隨て戸口最も繁く、一万以上の人口ある都會十三あり、其外山地に於る一万以上の人口ある町は、總て十個に過ぎず。然れども、山地も、養蠶製糸の事業盛にして、益々繁昌に赴く有様なり。

山梨

山梨縣は、甲斐國一圓を支配し、人口四十八万あり。○甲府市は、富

士川の支川の灌地にあり、其位置は播鉢の底の如し、産物四方より此に集り、富士川に由りて、之を東海に出す。富士川は、急流なれども、南方への便路にして、鰍澤より河口まで、凡そ十八里を、僅に五、六時間にて下る、舟の走ると矢の如し、行くく富士山を仰き、或は奇岩に對す、壯快云ふべからず。然ども川を浜るには、壯丁數人舟を引いてなほ數日かゝると云ふ。甲府市は、人口三万五千あり、生糸、葡萄酒、及麥酒を産す、東京へ三十四里を距つ。○市の北に、武田信玄の居館の趾あり。西北釜無川の左岸の七里岩は、壯觀なり。東の街道には馬入川の深溪に、猿橋を架す、奇工賞すべし。郡内の甲斐絹、勝沼の葡萄、其他水晶、雨畑硯は、此地の名産なり。

静岡

静岡 静岡縣は伊豆(七島を除く)駿河、遠江、三國を管し、人口百十六万あり。○静岡市は、東京と名古屋の中間にあり、兩市へ瀛車程各六時間なり、人口三万九千有り。竹器、漆器、寄木細工を産す。此地は、徳川氏の舊領地にして、久能山には、家康公を祀る神社あり。○静岡の東の清水港は、良港なり、沼津も名邑なり。伊豆の熱海は間歇泉にて名高く、雁皮紙を産す、修善寺も有名の温泉なり。天城山は、良材、薪炭を産す。○濱松は、濱名湖の東にあり。濱名湖は、昔海嘯のために一方破れて灣となれり。

長野

長野 長野縣は信濃全國を支配し、人口百二十万あり。○信濃川の岸なる善光寺平に長野市あり。此平谷は、昔謙信、信玄、兩雄の戦ひたる川中島にして、地味米穀に適し、又善光寺の大伽藍ありて、參詣人甚多く、且つ東京へ瀛車程僅に九時間に於て、市況も益々繁昌し、人口三万二千あり。○上田町は蠶糸と上田縞を出し、松代は佐久間象山の産地なり。松本は松本平にあり、人口は殆んど三万、蠶紙にて有名なり。此地は、昔湖水なりしといふ。○諏訪湖は、景色よろしく、遙に

岐阜

富士を山間に望むべし、冬は湖上氷ほり、歩みて渡るべし。其周圍の上下諏訪町は製糸業殊に盛なり。天龍河の岸なる伊那谷は、氣候最も暖にして、樹木よく生育す。飯田町は、元結、紙傘、漆器を産す。木曾の材木は、其名高し。

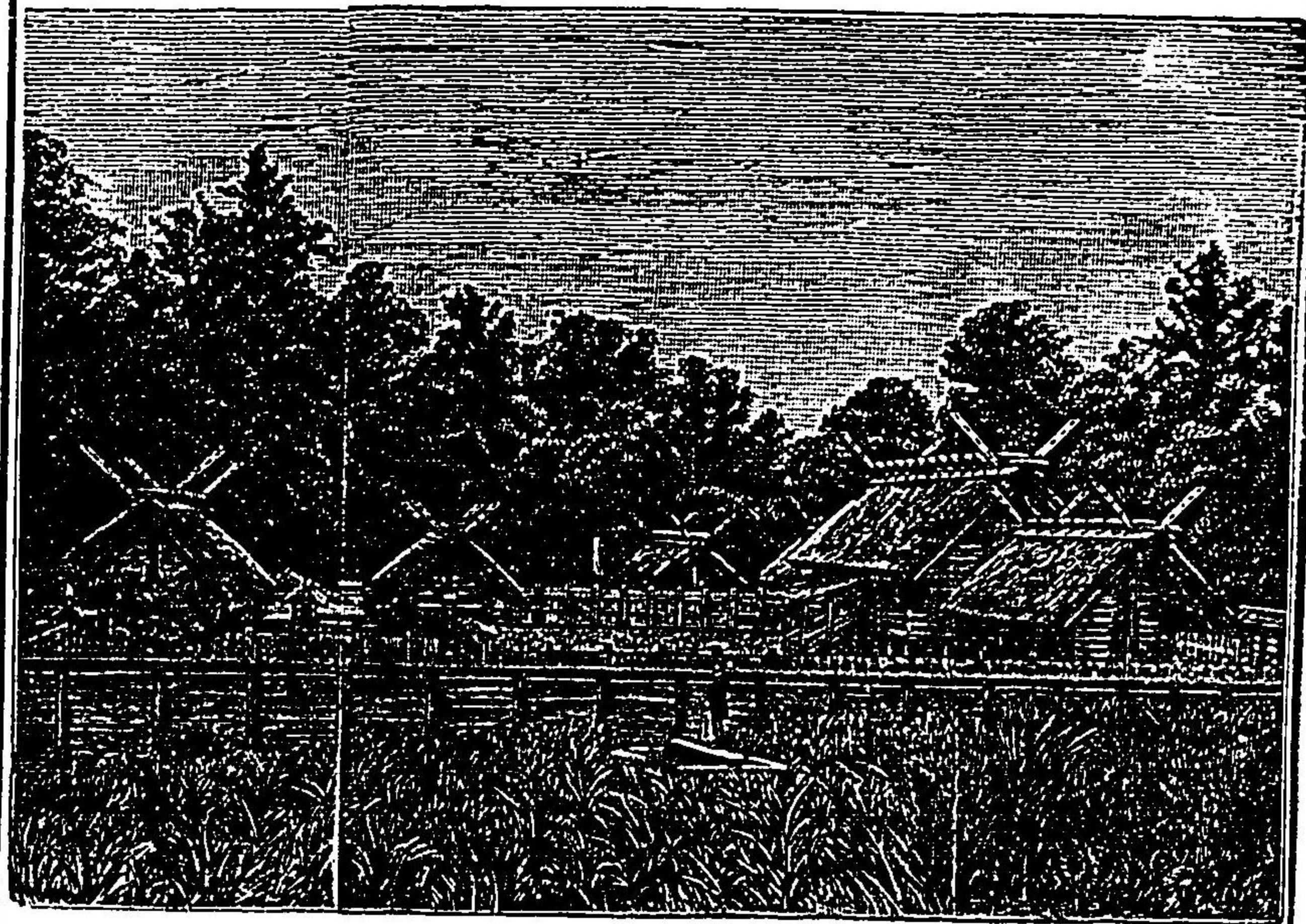
岐阜 岐阜縣は、美濃、飛驒の二國を支配し、人口九十七万あり。○飛驒の高山町は、人口僅に一万五千、四方山にて交通不便なり。近傍より一位細工、陶器、漆器を出す。南の方飛驒川の谷に沿ひ、岐阜市へ三十三里を距つ。○岐阜市は、人口三万あり、數年前非常の地震ありしも、今は市況盛なり、岐阜提灯、長良川の鵜飼(鵜を用ゐて鮎を捕ふるなり)は名高し。大垣の西に關ヶ原の古戰場在り。本縣は、陶磁器の産額全國第一なり。

愛知

愛知 愛知縣は、尾張、三河、二國を管す、尾張は、耕地最も開け、全面積に比らべて多きと、日本第一なり。人口は百五十四萬あり。○名古屋市に縣廳あり、市は三都に次ぐ大都會にして、人口は二十三萬あり。前は、大灣に接し、後ろには濃尾の大沃野あり、又近傍に良港あり、其位置能く東京に似たり。徳川氏尾州家(六十

一萬石)の舊城地にして、城の天主閣の金の鯨は有名なり。第三師團の司令本部此にあり。織物、陶器、七寶燒、名古屋扇、銅器、等の名産を出す。東西汽車の便あり、東京へ九十五里にして、汽车程十二時なり。

熱田は要港にして、熱田神社あり、草薙劔を奉す。半田と武豊は、繁昌の港なり。岡崎は、徳川氏創業の地にして、矢矧川に臨めり。○宮・重・大根・鳴海絞、名倉砥も、此地方の名産にして綿布を多く産すると日本第一なり。○尾張、三河は、信長、秀吉、家康を



伊勢大廟

三重

首め、加藤、本多、等の明將、勇士を出したる地にして、古戰場少なからず。

○津市は、縣廳の所在地にして、阿漕浦に臨み、人口三万、藤堂氏(三十二万石)の舊城地なり。○四日市、桑名は、共に要港なり。萬古燒、時雨蛤は、桑名の名産なり。○宇治山田は、南部の都會にして、人口二万六千あり。此に大廟あり、内

宮は天照皇太神、外宮は豊受太神を祀る、近頃參宮鐵道成りて、一層繁華なり。春慶塗、紙煙草入の名産あり。又二見浦は名勝なり。○鳥羽港は、良港にして、志摩の沿海は海産盛なり。○伊賀の上野は、伊賀燒の陶器を販く、芭蕉翁の生地なり。

五 北陸區

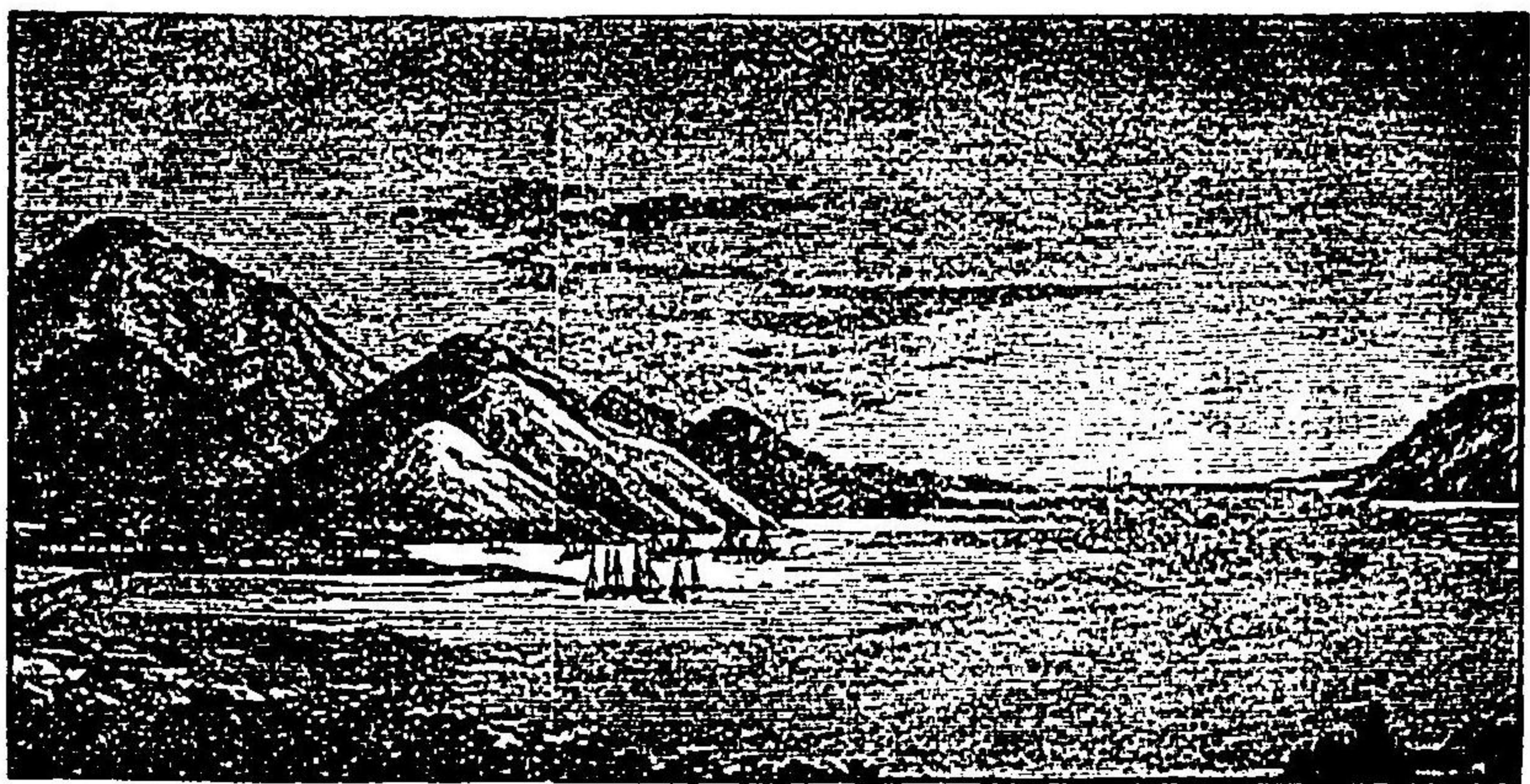
第六及第七地圖參照

境域

本區は、北陸道の七國、即ち若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡を含む一區域にして、其中佐渡は島國にて、其他は何れも日本海に面せり。其管轄の縣々は左の如し。

地勢

海岸



歌 賀 港

北陸區 福井、石川
富山、新潟

地勢 本區は、すべて細長き沿海國にして、其東南の境は、連山にて塞さき、地勢は西北の方、日本海に向て次第に下り、河は大抵東南境の諸山より發し、日本海に注く、能登は、半島にして、佐渡は海中に孤立す、各小山脉あり。

海岸 本土の日本海岸の中にては、本區の海岸は、最も屈曲多く、良港あり。若狹灣の内に敦賀の良港あり。能登半島の綠剛崎に燈臺あり。半島の東側七尾灣の内に能登島あり。東南の富山灣、一名布施海の海岸に一萬以上の人口ある港數ヶ所あり。越後の新潟は開港場の一なり。

山脉

此海岸は、大抵沙濱にして、北風のために沙丘を築き、其内部に數多の潟あり、殊に、越後、加賀の海濱に多し。然れども、若狹の曲岸は、岩多く、越中と越後の境に、親不知の絶壁あり、飛驒山脉の北端なり。此沿海は、冬は北風荒く、波高くして、大抵航海を廢め一年の半は用をなさず。

山脉 越後の東境に、出羽山脉あり、阿賀河の沿岸は交通に便なり。越後の南境は、三國山脉あり、苗場山最も高し、清水越と三國峠は、南に越ゆる山道なり。此山中に七釜といふ名瀑あり。信濃川の西方に、焼山群山として火山數多あり。越中の東部は飛驒山脉の北部と其他の山あり、蓮華山、別山、立山等の峻嶺少からず、東西の往來は、唯海岸に由るのみ、其以西には濃飛高原の諸山あれども、其間に神通川と射水川の交通路あり。加賀の東南の境に白山(八千三百九十尺)、大日岳あり。近江の境は、中國山脉の東端なり。又能登の低き山脉を、能登山脉と稱す。佐渡の山脉には著名の金銀坑あり。最高峰を金北山(四千五百二十尺)と稱す。

水理

水理 越後の海濱は、一帯平野にして、阿賀川、信濃川こゝを流る。信濃川は、越後を流ると、大抵三十里、河口に沙洲あり、小漁船常に河を上下す。其灌地は地味よろしく、農産多し。又神通川(高原、宮、兩川の下流)、射水川(白川の末)、日野川の灌地も、平原にして、耕耘の利少からず。○加賀の河北潟は、海濱に在り、周圍凡六里なり。北潟は、越前の西北隅にあり、周圍凡五里なり。

風土

風土 本區の温度は東海地方と大差なく、夏は寧ろ雨少なく、冬は雪甚多くして、日本全國中之に過ぐる所なし。地味は大概肥沃ならざれども、越前、越後等の灌地は地味よろしき地少からず。耕地可なりに開らけ、人口も、東海の諸國と、粗、同様にして、一萬以上の人口ある都會、凡二十あり。鐵道は僅よ一小部に限るを以て、運輸極めて便ならざるも、亦道路開らけ、且つ夏は海運の便あり。

新潟

新潟 新潟縣は、越後、佐渡二國を管し、人口百七十八萬あり。○新潟市は、開港場にして、市況盛なれども、河口に沙洲ありて、船を繋ぐに便ならず、且つ冬は日本海の船の往來止るを以て、貿易は極めて微々たり。人口五萬あり。○北方

第一圖 第十地參

富山

に新發田町あり。長岡の東方二里の地浦瀨は、北越第一の石油産地なり。高田(人口二萬)は、深雪と石油よて知られ、直江津は要港なり。海岸の彌彦神社は名社なり。○佐渡の金山の所在、相川町は、人口一萬五千あり、土地開らけ、島中にて最も繁昌の地なり。此他小木、夷は要港なり。

富山

富山縣は、越中全國を管す。本土の日本海の沿岸諸國の中、田畑最も開らけ、人口七十八萬あり。○富山市は、北方に富山灣を控へ、運輸便利なり。市中に藥種商多く、其賣子を四方に出すを以て名高し、人口五萬八千あり。○高岡市は、金屬器及漆器を産す。○此他魚津、伏木、等良港數多し。○越後の境には、親不知の嶮あり。加賀の界には、俱利伽羅峠あり。此峠は、昔木曾義仲が、平氏の軍を深溪に陥れたる、古戰場にして、南の砥並山の東には、天柱石と稱する巨岩あり。

石川

石川 石川縣は、加賀、能登、二國を領す、人口七十七萬餘あり。○縣廳は、金澤市にあり、市は、人口八萬三千、日本海岸にある最大の都會にして、日本第一の大

名、前田氏(百萬石)の舊城地なり。第九師團司令本部、及第四高等學校あり。市民織物、銅器、象眼、陶器、等を製作す。○小松は名邑なり。七尾灣は、水深くして大艦を容るべし。近傍に和倉温泉あり。輪島の漆器、九谷の陶器、加賀絹、杉原紙は、當縣の名産なり。

福井

福井 福井縣は、越前、若狹の二國を管治す。海岸の出入繁きと、本土の日本海岸の諸國に冠たり。人口六十三萬あり。○福井市は、近頃絹布の(ハンケチ地)製造盛にして、人口四萬四千あり。此地は昔北の莊と稱し、柴田勝家の城地なりしが、後、松平氏(三十二萬石)の居城たり。近傍の藤島神社は、南朝の忠臣新田義貞を祀る、境内壯麗なり。○三國港は、漁船の出入繁く、大野の奉書紬、羽二重、武生の蚊帳、鳥の子紙は、名産なり。敦賀は、水深く大船を容るべく、南は鐵道の便あり、將來西比利亞鐵道全通の時は、益、繁昌すべし。小濱は、若狹塗の名産あり。○東北の海岸に三方湖あり。

境域

六 近畿區

第八地區参照

境域 本區は、所謂畿内の五ヶ國を中心とし、其近傍の諸國を合せて十二ヶ國より成る、即ち近江、山城、丹波、丹後、但馬、播磨、淡路、攝津、河内、和泉、大和、紀伊(三重縣に屬する二郡を除く)、これなり。此一區は、分ちて、左の六府縣となす。

- 滋賀縣
- 京都府
- 兵庫縣
- 大阪府
- 奈良縣
- 和歌山縣

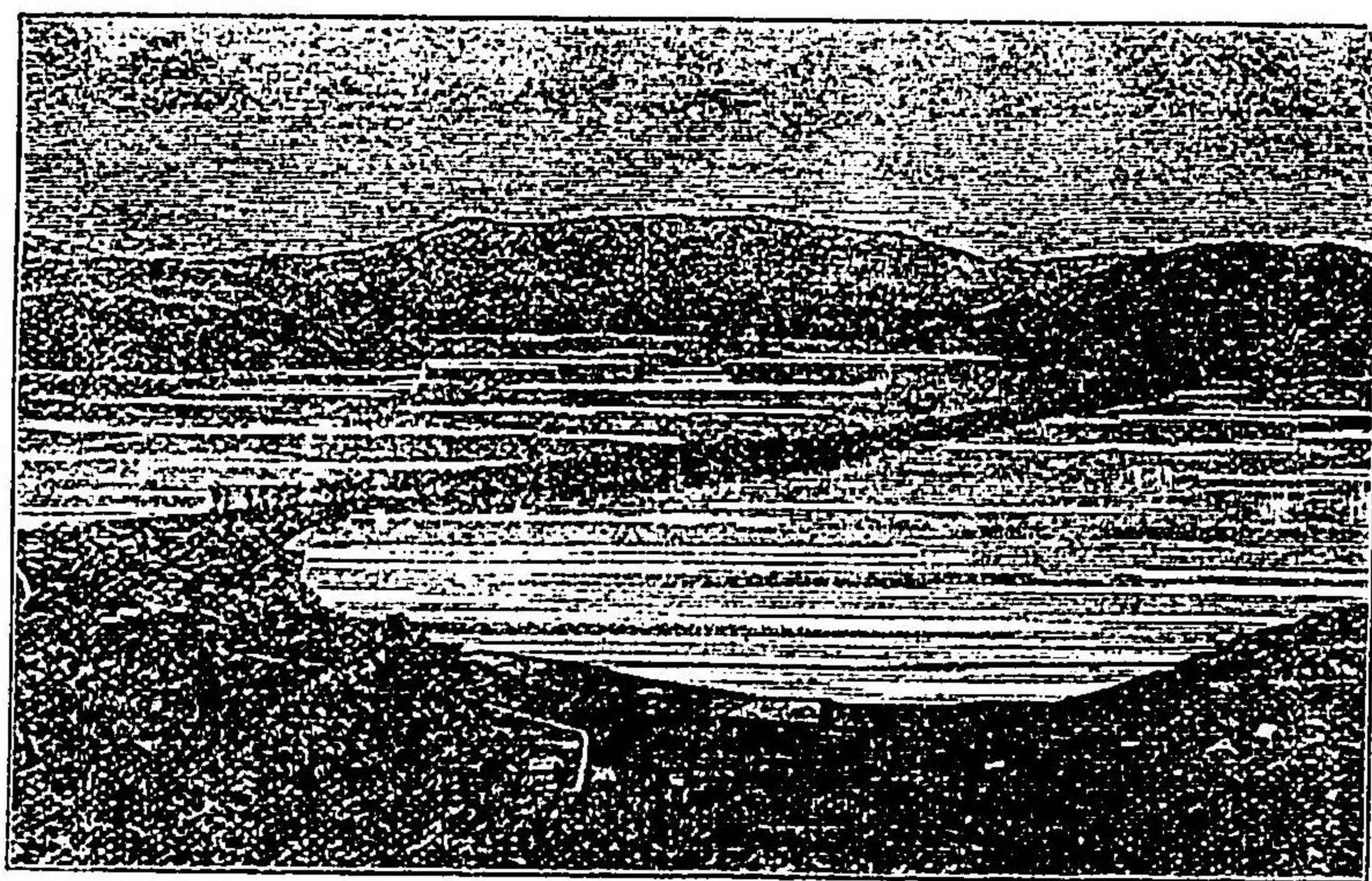
地勢

地勢

近江の琵琶湖より、山城と攝津の中央を経て、内海に達する地帯は、地勢低くして、其兩側の河々は、大湖の水と共に皆此窪地帯に注ぎ、大阪灣に入るなり。○此窪地帯の南方は、大和の南部を中央とし、地勢概して西と南の二方に傾き、河水皆此二方に流る。故に大和の南部と紀伊は、本區の南翼を成せり。○又窪地帯より西北の方なる、丹波(西半部)播磨、但馬の三國は、地勢南と北に傾きて、本區の北翼を成せり。而して淡路島は、全く分離せり。

海岸 日本海の方は、若狹灣の西部を含み灣内に舞鶴軍港及宮津港あり。天の橋立も、此灣内にあり、日本三景の一なり。丹後半島の北端を經崎と稱す。

太平洋の方は、紀伊の極南に潮岬あり、燈台熊野洋を照らす、東に大島あり、西北に田邊灣あり。紀伊水道は、内海の入口にして、東側に和歌浦の名勝あり。由良海峽には紀淡砲台あり。○大阪灣には、大阪、神戸、堺等の要港あり。明石海峽の西は、播磨洋に臨み、青松白沙鹽釜の烟たち升る、須磨、明石さては舞子濱より、遙に、淡路島を望み、風光明媚なり。



天の橋立

山脉

東境の北部は、鈴鹿山脉連なり、中央の窪地帯に向て傾むく、膽吹山、鈴鹿山は、名山なり。其以南は、大和の南部より、紀伊の全體に亘り、山脊縱横に交はり往來に不便なり。之を總稱して、紀伊山脉といひ、此脈の最高嶺なる、大峰は六千二百尺あり。東に大台原山、南に安堵峯、又西に高野山、北に吉野山あり。高野山は弘法大師の開基にして、迦藍あり。吉野は、南朝の宮趾にして、櫻花にて名高し。其西方に、著名の金剛山あり。伊賀の境に、梅花の名勝月ヶ瀬あり。○窪地帯の西北の山々は、中國山脉の東部に於て、丹波は、特に山多し。著名の山は、大江山(丹後)、比叡山、鞍馬山、等にして、比叡は天台の靈場、鞍馬は源九郎牛若丸の修業したる所なり。

水理

本區には大河なけれども、琵琶湖は、全國第一の大湖にして、周圍の山々より下る水流をあつめ、西南に注ぎて淀川となり、他の諸流と共に、畿内の平野を灌ほし、且つ運漕の便利大なり。此湖は南北は十六里、東西は一里より五里にして、湖中に小島數個あり、水清くして鏡の如く、青山綠樹水面に映り、白帆、黒烟、

縱横に往來し、西には、比叡、比良、の蒼嶺聳へ、東には、膽吹山立ち、又近くは、彦根城の白壁、唐崎の松、さては勢多の唐橋、等天然人造の八景あり、且つ魚族は淵に躍り、水草は水に浮ひ、沿岸の土民皆其恵を受けざるはなし。嗚呼、琵琶湖は、富士山と竝らば稱して、我國の双美と謂ふべし。

淀川は南より木津川、北より桂川を容れ、其下流は、大阪に於て數派に分れ、又無數の溝渠をみだし、遂に海に入る、其出口を安治川といふ、大切の河なり。次に南翼の山地には、上流を吉野川と稱し、後紀伊川となるもの、是れ大和山林の材木を下し、又は東西の通路を開く川にして、沿岸の風景よろし。南の十津川は、紀伊山脉を横切り、下りて熊野川となる、其沿岸は木材多く、又南北の往來線なり。○北翼の川々は、分水脊より南と北に分流し、南には、加古川等あり、北には、由良川、及朝來川あり。中國山脉を横切る道路は此等の諸川に沿ふなり。

風土

本區は、中央の窪地と、南翼の山地と、北翼の山地と、此三部に分れ、其氣候も互に異なれども、要するに、山地は、殊に北部の山地は、寒暑共に強く、降雪

も多く、其外は氣候溫和なり。雨量は、南部紀伊の海岸に最も多く、内海の邊は最も少し。地味は、北部の外大抵肥へ、耕地は大湖と内海の邊最も開けられたり。人口一萬以上の都會凡そ十六あり、此れ等は殆皆中央窪地の水濱にあらざれば、内海の海岸にして、南北の山間には、一もこれなし。鐵道も今日は概ね窪地帯と、内海の濱にあるのみ。

滋賀

滋賀縣は近江一圓を管し、人口六十九萬あり。○大津町は、滋賀縣廳の所在地にして、東北は湖上に漁船を浮べ、西南は淀川の上流勢田川と、宇治川に由りて、大坂灣に通じ、又陸路は四方に鐵道あり、實に四通八達の要地にして、人口三萬二千あり。又京都へは、湖水の疏通溝あり。○彦根と、長濱は、湖東にあり。長濱縮緬と、蚊帳は近江の名産なり。○近江の人は商賣に巧にして、富豪家多く、近江商人の名高し。然れども、彼の近江聖人、中江藤樹先生は此地の人なり。京都 京都府は、山城、丹波(五郡)、丹後三國の十八郡を管轄す。管内大抵山地にして、人口九十萬あり。

京都

第一圖 十地參照

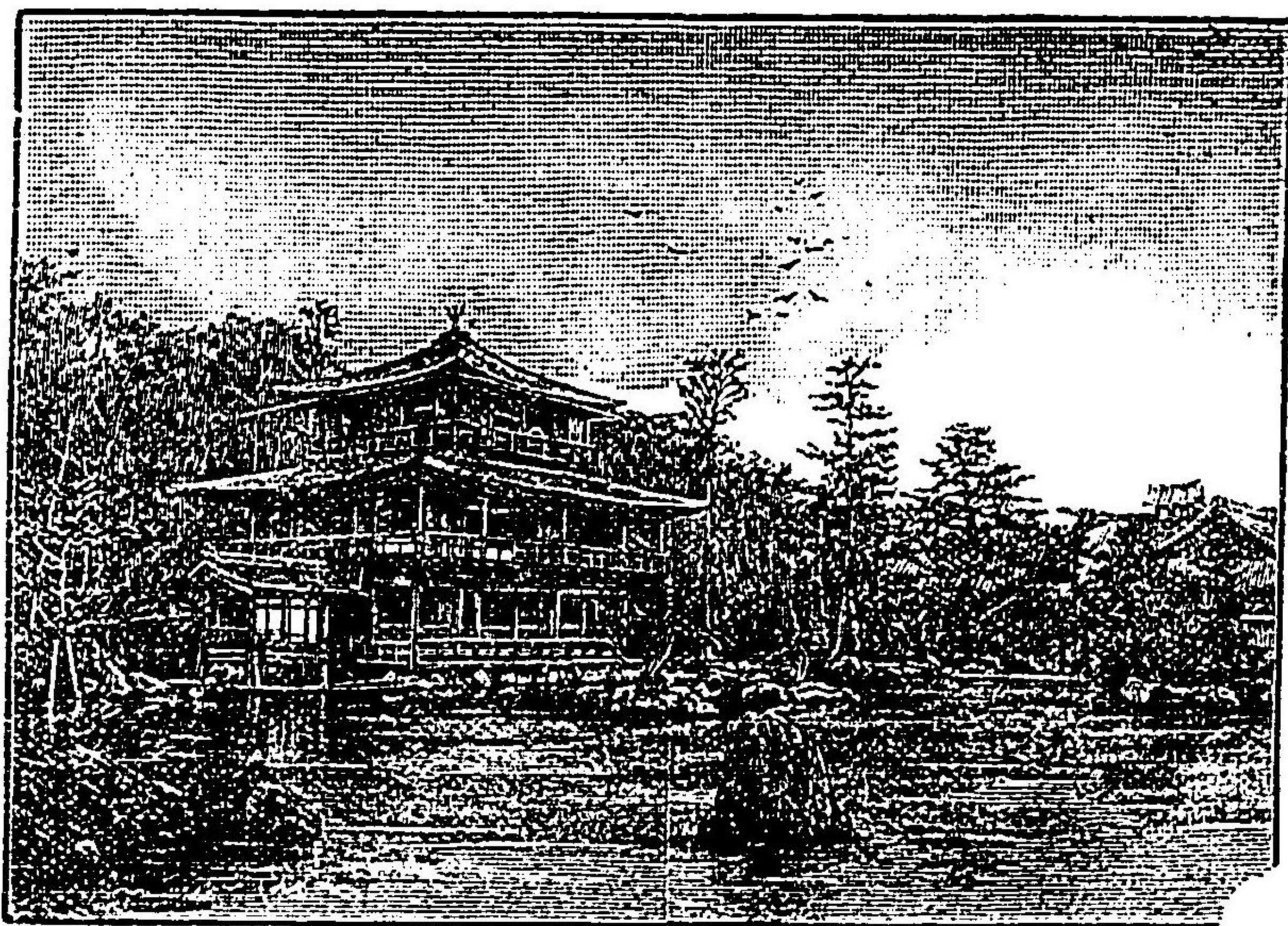


圓山より京都市中を望む圖

京都市は、山城の中央に位し、東京に對して西京とも稱す。本市は桓武天皇都を奈良より遷し給ひし以後、明治二年に至るまで、一千七十五年の間、代々の都にして、久しく我國の文學、技藝の中心なりき。人口は殆んど三十四萬あり、本邦第三の大都會なり。加茂川は、市の東部を流れ、其左岸より漸く隆起りて東山と爲り、市内及近郊をみをろす。北西の二方も、緑山之をめぐり、北に鞍馬山、西に愛宕山あり。又高雄の紅葉、嵐山の櫻花は、春秋の奇觀にして、加茂川は水清く、夏月の納涼よて名あり。

本市は、往時加茂川の西を洛中とし、東を洛外とせしが、今は上京、下京の兩區に分ち、町々一千七百一あり、市區は方正にして、南北一里半、東西一里あり。市民工藝に長し、殊に、西陣の織物、清

氷燒の陶器、四條人形等の名産あり。市の東北隅に、舊皇居あり、西邊に二條離宮あり。此外京都帝國大學、第三高等學校、同志社、等あり。又神社、佛閣、若くは名所の、市の内外にある者少からず。加茂、北野、男山等の神社、清水寺、知恩院、銀閣寺、金閣寺、杯ば最著名なり。○京都は近畿區の中央に位し、近傍に多くの名邑あり、近頃鐵道の布設以來四方の交通一層自在となれり。東京へ百三十里を距て、瀛車程十七時なり。淀川の岸にある伏見町は、京阪及奈良の要路なり。南に茶の産地宇治あり。



金閣寺



り。○淀川は鐵道開通以前には夜舟の名高かりき。○西の方大堰川の岸を浜り、老阪を經れば、龜岡町あり、丹波の最大市街なるも、人口七千餘りなり。和知川、一名音無瀬川(由良川の上流)の灌地にある福知山に第十師團司令本部あり。○由良河口の兩側舞鶴軍港と宮津港は、共に良港なり。宮津の北に、天橋立の名勝あり、細長き沙洲、遙に海中に突き出たし、青松綿々どつらなり、景色甚佳なり、日本三景の一と稱

せらる。丹波の烟草、蜂蜜、菓實、丹後の縮緬も本府の名産なり。

奈良 奈良縣は、大和一圓を管す。人口五十二萬あり。○奈良町は、元明

奈良

天皇より、桓武天皇の遷都に至るまで、七朝八十餘年間の帝都たりき、寺院、其他舊跡少からず、春日社は、鬱林の中にあリ、群鹿徘徊す。東大寺の大佛は、其高さ五十三尺餘あり、聖武天皇の建立に係るといふ。市内の景色自から古雅優美なり。人口二萬九千餘あり、奈良晒、奈良漬を産す。○西南に郡山町及法隆寺あり、當寺は、寶物多くして、本邦美術の淵叢なり。更に南に櫻井驛、畝傍山陵あり。吉野川の岸に五條あり、吉野山は花時の風光よく、又忠臣の遺芳尙香ばし。此邊吉野紙、葛の産あり。

和歌山

和歌山 和歌山縣は、紀伊の内の七郡(二郡は三重縣に屬す)を管す、人口六十五萬あり。

○和歌山市は、紀伊川下流の平地にあり。徳川氏(五十五萬石)の舊城地にして、人口五萬七千あり、綿フラチルの製造盛なり。汽船大阪へ往來す。南方に和歌浦の名勝あり。有田川の南に湯淺あり。川の兩側は、紀州蜜柑の産地なり。田邊新宮も海岸の名邑なり。熊野の森山に那智山の瀧あり、長さ八十四丈、幅十八間あり。○和歌山より、東方紀の川に沿ふ大和街道に、高野山あり、

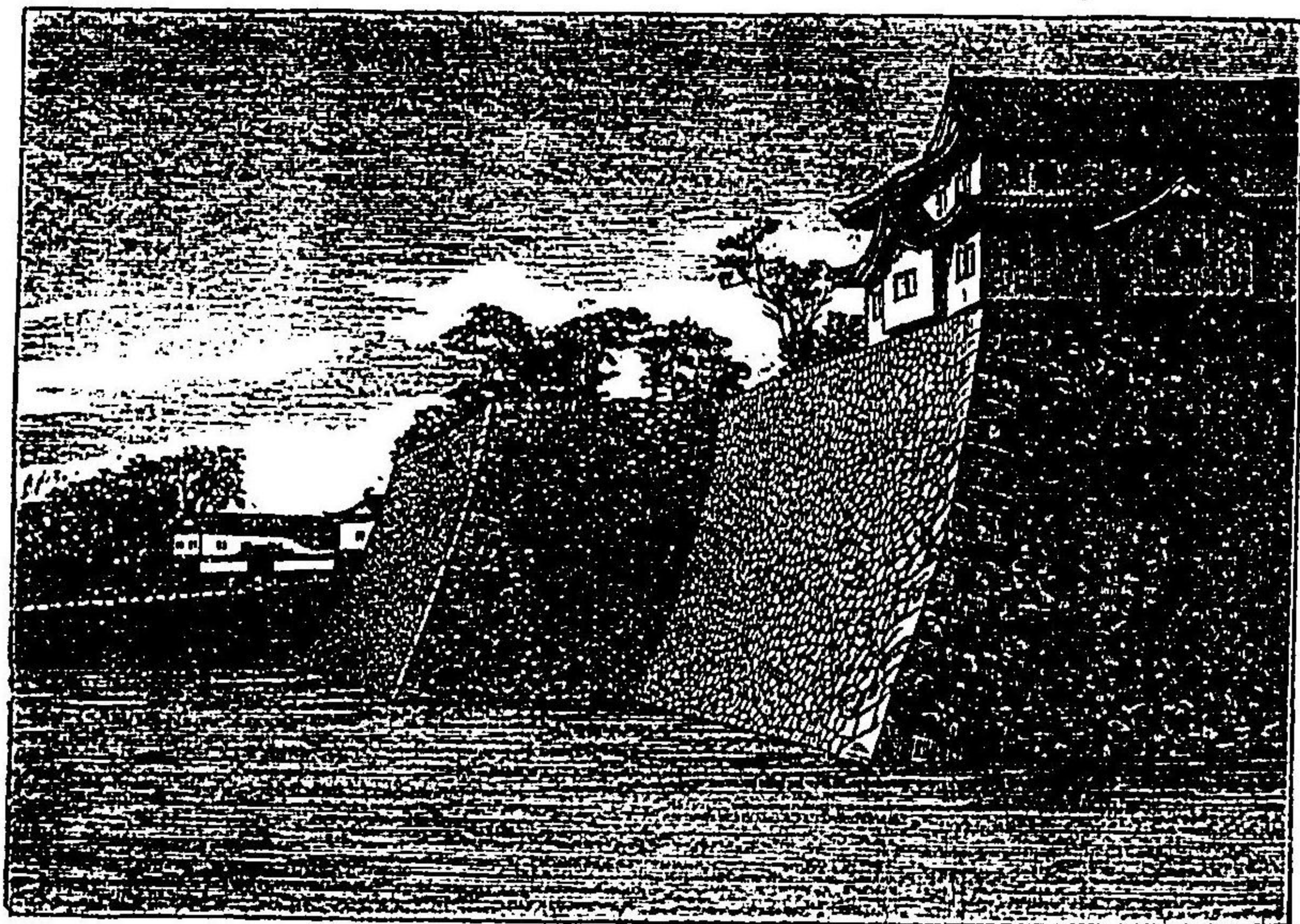
大阪

第一圖 第十地參照

昔僧坊三千もありし靈場なり。
大阪 大阪府は、攝津の四郡、河内一圓、及和泉一圓を管す。淀、大和、兩川の
 下流水域は、本區中土地最も開け、大都會の起るべき大平野にして、人口百二十
 六萬あり。

大阪市は、淀川の河口に跨り、全市の五分四は河南に在り、東西一里半、南北一
 里、分ちて東西南北の四區となす。人口五十萬五千、東京に次ぐ大都會にして、全
 國第一の商業地なり。運河縱横に市内を貫き、運漕自在にして、橋の數殆二百あ
 り。淀川の海口安治川は、船舶の出入織るが如く、沿岸に府廳及外國人の居留地
 あり。東北の城は、豊臣氏の築造に係り、石壁高く、濠渠深く、日本の名城にし
 て、此に第四師團の司令本部あり。

河北には、造幣局、天滿宮、停車場あり、又工場多し。中部は、商家軒をならべ、商
 賣繁多なり。南部は、遊覽場多く、又高津、今宮、天王寺、等あり。本市は日本全國
 の中央に位し、殊に西南は水路にて内海の諸港カウブに到るべく、四方鐵道の便あり、貨



大坂城

物集散の中點なり。然れども、港内淺く
 して、大船の岸に近かざると、猶東京灣
 のごとくなり、故に今築港の計畫あり。
 東京へ百四十四里にして、流車程十九
 時、西京へ一時五十分程なり。綿糸、烟
 管、一貫張、眞田織の名産あり。○大阪
 の南に、住吉神社あり。大和川の口に
 堺市あり、堺は往時外國の商船出入し、
 貿易の要地なりしが、良港なきがため、
 今は商賣繁昌せず、堺段通、鐵器の名産
 あり、著名の妙國寺は、市内にあり。○
 北方の池田（人口六千）は著名の酒造地
 なり。

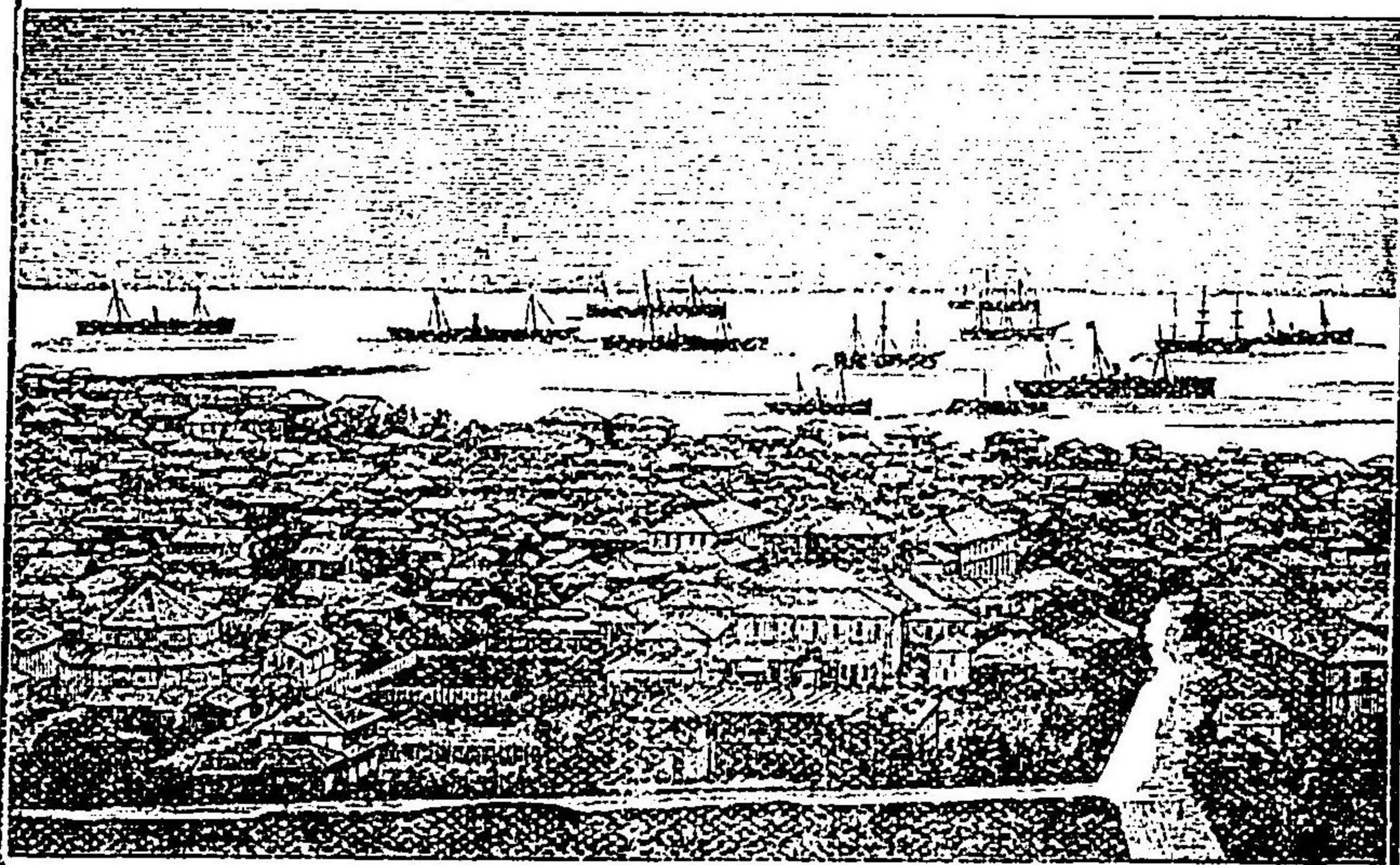
第一圖照
十地參

兵庫 兵庫縣は、攝津の三郡丹波の二郡、及播磨、但馬、淡路の三國を含み、人口百五十九萬あり。○神戸市は、港内水深く位置宜きを以て、益、盛大となり、貿易額は横濱に及ばざるのみ。兵庫縣廳此にあり、人口は十八萬なり。市の北に湊川神社あり。

嗚呼忠臣楠氏之墓

源光圀

西部兵庫に福原の墟址あり、北は鶴越を負ひ、南は海に臨む、源平興敗の古戰場なり。尼ヶ崎と西宮は名邑にして、伊丹は釀酒にて名高し。丹波街道に當る武庫



神戸港

山の麓に著名なる有馬温泉あり。丹波の篠山は、山間の小都會なり。○姫路市は、人口二萬八千、革細工を出す。○赤穂町は、四十七義士と、製鹽にて、其名天下に高く、龍野は、醬油を産す。但馬街道の生野は、著名の銀山なり。豊岡の柳行李、出石の陶器は名産なり。豊岡の北一里に有名の玄武洞あり。○淡路の最大町は、洲本(人口八千)にして、陶器は、淡路の名産なり。

七 中國區

第八地圖參照

境域

境域 本區は、中國、即ち山陰、山陽、兩道の大半を占め、其國々は、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の十二國にして、之を分割して左の五縣とす。

中國區

鳥取縣、

島根縣、

岡山縣、

廣島縣、

山口縣、

地勢

脊骨狀の山脉、東より西に走り、地勢中央高くして、南と北に傾き、川

地勢

海岸

川南北に注ぐ。而して其分水脊稍、北方に偏するを以て、山陽の方は、河流較、長大にして、平地も多し。

海岸

日本海の岸は、屈曲甚少し、唯出雲に少しく出入あり。伯耆と出雲より米子、彌山の兩半島突き出して、中海湖を抱く。彌山半島の端を、地藏鼻といふ。出雲の西端杵築港は、出雲大社の所在なり。隱岐群島は、出雲の北海にあり。石見以西は、岩濱多く、濱田、萩、油谷の諸港あり。長門の西海を響灘といふ。

日本海より内海に入るの要路なる、下の關海峡は、幅僅に五町餘、兩岸に多くの砲台を設け、防禦嚴重なり。其東は、壇之浦の古戰場なり、周防洋の東に、柳井津半島突き出し、其西の廣島灣には、多くの島々散在し、宮島一名嚴島は、市杵島姫を祀る、日本三景の一にして、江田島には海軍兵學校あり、吳は軍港なり。以東の海濱は平易にして、鹽田廣く、沿海には島嶼極めて多く、綠樹水に映りて、風景畫くが如し。備中、備後の海を水島洋或は備後洋と稱す、尾道等の良港あり。東に兒島半島突き出して、同名の灣を成せり。

山川

山川

本區を貫く脊骨山脉は、中國山脉の西部にして、其東部と同く、概して、高山なし、伯耆の大山(五千八百尺)を最も高峰とす。此山脉中には、砂鐵多く、從來日本全國の中、最も鐵産の多き地なり。鳥取、岡山、二縣の境に發りて、南と北に分流する川は、吉井川(上流津山川)、岡山川(上流高田川)、川邊川(上流高梁川)、及千代川、日野川を重なるものとし、其河谷は、山陰、山陽の交通線路にして、日野川の平原は牧牛多し。島根、廣島、二縣に於ては、三瓶山、鬼ヶ城山名あり、重なる河は、簸川、江川、蘆田川、太田川とす。

簸川は出雲の中央を灌漑し、宍道湖に注ぐ。宍道湖は、中國の最も大なる湖にして、一條の川にて東方の中海湖に通ず、風景美にして鱸魚を産す。江川は備後の中央に起り、脊骨山脉を横きりて海に注ぐ、長さ五十里あり、中國の最大河にして、河谷は耕地廣し。

風土

本區は、概して氣候暖なれど、日本海の方は、冬は寒風烈しく、海上も船の往來止むと、北陸の地方と粗同じく、山地は積雪亦深し。雨雪の全量は、北方

風土

に多く、南方の海濱は甚寡し、内海の岸に製鹽の盛なるは、是がためなり。耕地は概して南方開らけ、殊に備前、備中、周防は、田畑多し。地味も南方は肥へ、戸口も之に準し、人口一万以上の都會總て十三の中、南方に九個あり。又運輸交通も、南方には内海の穩波あり、且つ鐵道も早く開けたり。

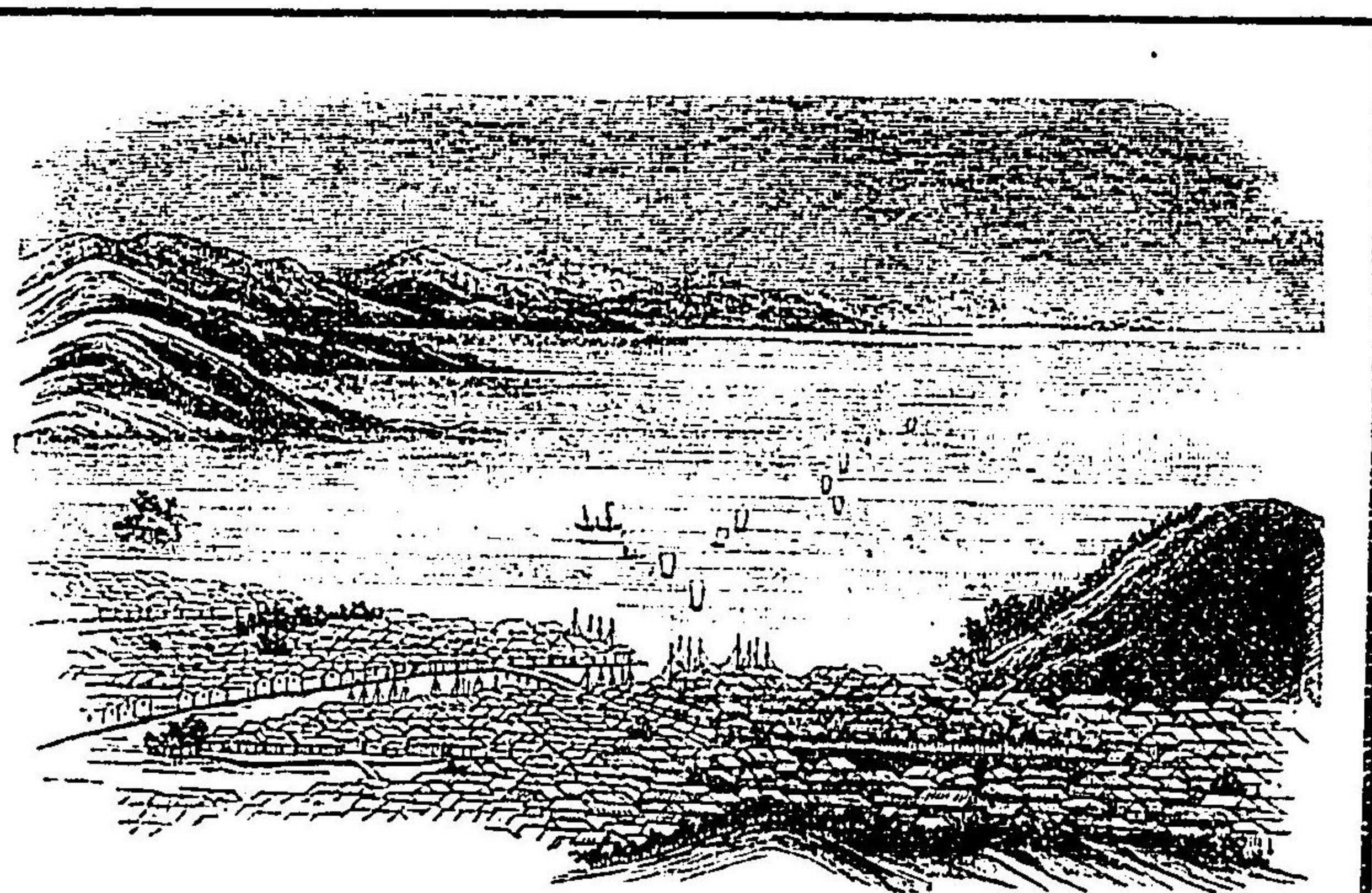
鳥取

鳥取縣は因幡、伯耆、二國を管し、人口四十一萬あり。○鳥取市は人口僅に二萬八千なり。南方は千代川の岸を上り、姫路に通ず。鳥取の東に岩井の溫泉場あり。○倉吉町は、飛白布を産す。米子町は中海に臨み、縲綿を以て名高し。大山の東に船上山あり、名和長年の勤王を以て世に知らる。米子半島の境港は、山陰の佳港なり。

島根

島根縣は、出雲、石見、隱岐、三國を管し、人口七十一萬あり。○松江市は、山陰地方第一の都會にして、人口三萬四千あり、宍道、中海、兩湖の間なる、一川に跨り、風景美なり。近傍に陶器を産す。東京へ二百二十里を距つ。○杵築町に大社あり、賽客四方より集り繁昌なり。○石見の名邑は、半紙、鐵の輸出多き濱

岡山



市江松の畔湖道尖

田と津和野なり。

隱岐の大市は、西郷港なり、港内水深し。抑隱岐は出雲より二十七湮を距つる群島にして、大なる島四つあり。西郷は西の島に、後醍醐天皇の黒木御所の趾あり。

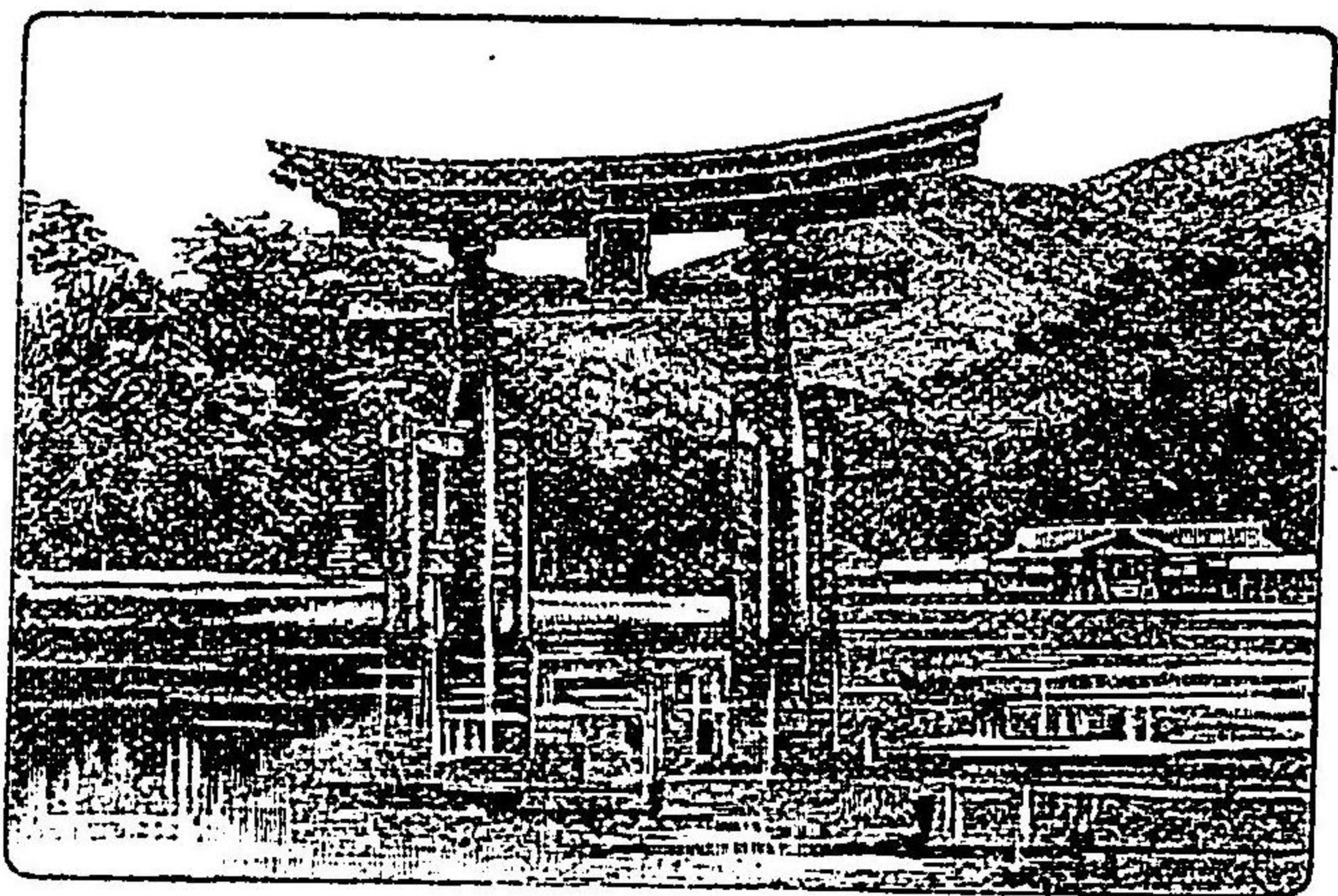
岡山 岡山縣は、美作、備前、備中、三國を管治す。

備前、備中の兩國は中國の中、田畑最もよく開らけ、人口一百十萬あり。○岡山市は、人口五萬六千あり、大阪へ瀛車程凡七時間にして、海には瀛船の便あり。池田氏(三十一萬石)の舊城地にして、備前の東部に、新太郎少將及熊澤蕃山の建てたる閑谷學校あり。南の半島に、兒島高德の城趾あり。

廣島

り。○津山町は、足袋、木綿等を産す。○高梁は、川邊川(上流高梁)の灌地にあり。此河邊には、綿、蘭席を産し、海濱には、鹽田少からず。

廣島 廣島縣は、備後、安藝、二國を管す。人口百二十八萬あり。○廣島市は、人口十萬にして、中國第一の大都會なり。淺野氏(四十二萬石)の舊城内に、第五師團司令部あり。本市は、太田川の三角洲に位し、南海岸に宇品港あり。明治廿七年征清の役起るや、大本營を當市に置かれたると、殆んど一年に及べり。此地は近世の學者頼山陽の郷里なり。大阪へ汽車程凡十四時、東京へ二百三十里を距つ。○備後の尾道は、前に數島ありて、良港を成し、福山は、多く綿を出す。此邊は、疊表、保命酒等の名産あり。



島宮

山口

山口 山口縣は、周防、長門、二國を支配し、人口九十六萬七千あり。○山口町は、以前は毛利氏(三十六萬餘石)の城地にして、人口一万五千あり。山口高等學校此にあり。東方の海岸に、徳山、岩國の名邑あり。岩國は、岩國縮布を産す、此に著名の錦帶橋あり。三田尻も繁昌の港なり。○萩町は、吉田松陰、大村益次郎、木戸孝允等の俊傑を出せり。赤間關市は、内海の咽喉に臨み、馬關、又は下の關とも稱す、人口三萬五千あり、清國との媾和談判は、此地に開かれたり。

八 四國區

第八地圖參照

境域

本區は、四國島全體を含む、即ち阿波、讃岐、伊豫、土佐の四國にして、亦分ちて四縣とす。

四國區

徳島縣、香川縣、
愛媛縣、高知縣

地勢

山脉は、概して東西に走れども、其狀態高原の如くにして、山々、

地勢

境域

海岸

さ互に甚しき差なく、河々は四方に流れ、長流を成さず。河の沿岸は平地少

海岸

海岸は、屈曲多けれども深く陸地に入るものなし。阿波と淡路との間は、鳴戸海峡と稱し、此に有名なる鳴戸の渦流あり、波岩礁に激し、其響雷の如し。渦流の直径は一里餘あり、東洋には他に比類なし。北の伊豫灣の兩側に、箱崎と大隅鼻あり。西の高繩半島の岸に今治、三津濱の港あり。東に多度津、高松あり。多度津は四國第一の良港なり。沿海の島は小豆島最も大にして、醤油の名産あり。北に徳島灣あり。

南岸の土佐灣は昔地震のために陥りたる處なり。其中央に、須崎港あり、室戸、蹠蹠の兩岬、其兩端に突出す。沿海は珊瑚、鯨の獵にて名あり。西岸は出入最も繁く、宇和島等の數港あり。其北の細長き半島の盡端は、佐田岬なり。四國、九州の間を、豊後水道、一名早吸瀬戸と稱す。

山脉

山脉

四國山脉は、東は紀伊山脉、西は九州山脉と連絡し、高原の性質にし

河流

て、著るしき高山なく、概して三、四千尺なり。最も高き山は、伊豫の石槌山にして、高さ七千七百八十尺、四國の中央分水點なり。其支脈千足山に、高瀧あり、高さ百二十丈、幅五十間ありといふ。又南支の來見峠は嶮岨なり。石槌山に次くは、阿波の劔山(七千四百尺)なり。其他、五傍示山、鬼ヶ城山、等は、四千尺に足らず。中央の別子銅山は、産額足尾銅山に次ぎ、日本第二の銅山にして、近傍の安質母尼鑛山と共に著名なり。阿波と、讃岐の間の山脉を讃岐山脉といふ、象頭山は、其北支にして、山腹に琴平神社あり。

河流

四國の河流は、皆中央の山脉を分水脊として、四方に注ぐ。第一の長河は吉野川にして、其水源は、伊豫、土佐の兩國に跨り、東流すると四十餘里、河谷は廣くして、農産多く、殊に藍を産すると、本邦第一とす。南の那賀川も土地を灌ほし、山間の炭薪、木材を下すに便なり。土佐の仁淀川、渡川は共に河谷狭けれども伊豫への往來線なり。肱川は伊豫の長流なり。

風土

四國は、氣候概して暖なれども、山間は寒中雪を積む處あり。内海

風土

徳島

の方は、山陽諸國と同じく、雨最も少く、爲めに多く鹽を産し、南方は雨甚多し。然るに、耕地は、雨の少き北側の二國に最も能く開られ、殊に讃岐に最も多し。地味概して肥へたり。人口は各地の割合大に差ひ、高知は、最も粗にして、讃岐は最も密なり、讃岐は一方里に殆六千人の割合にして、東京、大阪の二府を除けば、日本全國に於て人口最も密なり。去れば、本区内に一万以上の人口ある都邑十個ある其中、四個は讃岐に在り。鐵道のあるは一小部なれども、沿海は航海自在なり。

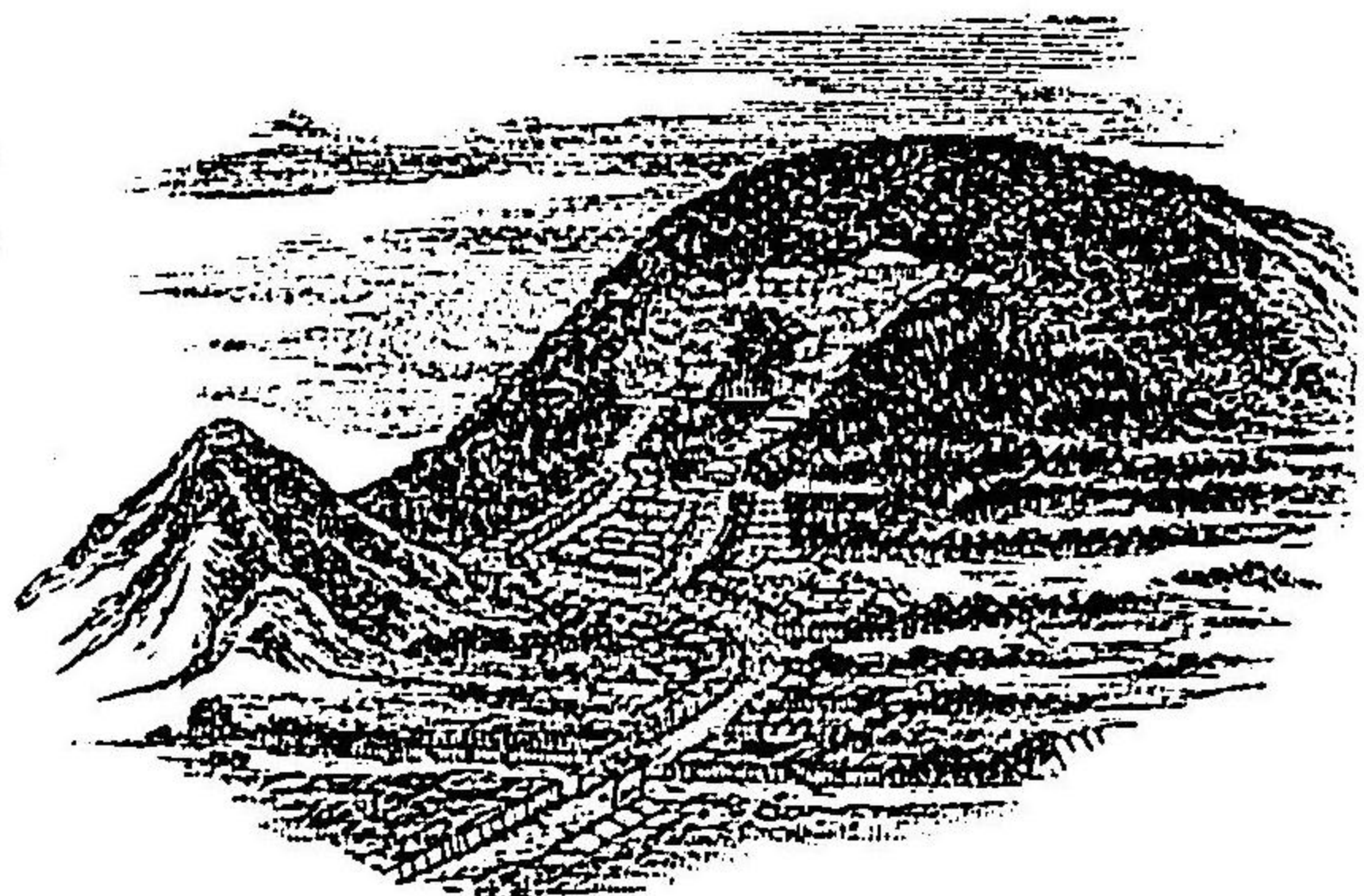
徳島

徳島縣は、阿波一國を管す。河谷は土地開られ、農産多し、人口六十八万あり。○徳島市は、四國第一の大都會にして、人口六萬あり。蜂須賀侯の舊城地(二十五萬石)にして、阿波縮の名産あり。○撫養は淡路に渡る要港なり。○當縣沿海地方は、魚獵、製鹽盛にして、山地は木材を産す。

香川

香川縣は、讃岐一國を管す、人口六十八万あり。○縣廳の所在高松市は、人口三萬四千あり。西の丸龜は、城壁、海岸の丘上に立ち、頗る風致あり。第十一師團司令本部此にあり。○多度津は、良港にして、琴平神社に詣るべき要津

愛媛



山頭泉

愛媛

愛媛縣は、伊豫一國を管す。人口九十六萬あり。○松山市は、縣廳の所在にして、管

地の中央に位し、西方一里半に三津濱あり、兩地間に瀧車を通す、人口三萬二千あり、松山綿を産す。東方十數丁に著名なる道後温泉場あり。南隅の宇和島は、織物と紙の名産を出す。又、別子

高知

此他、今治は高繩半島にあり。は本邦第二の銅山なり。高知縣は、土佐一國を管す。人口五十九萬餘に過ぎず。○高知市は、國の中央に在り、南に浦戸灣を控へ、氣候溫和なり。往時は山内氏(二十四萬

石の城地にして、人口三萬四千餘を有す。維新の際阪本龍馬等、二三の俊傑を出せり。須崎は西方海濱の良港なり。○鯉節、珊瑚は、沿海の名産にして、鯨も紀州沖と同じく漁獲多く、紙の産額日本第一なり。此外樟腦も著名なり。

九 西海區

第九及第四地圖參照

境域

西海區は、九州を中央として、其周圍の屬島、並に南洋の諸島を一括す、即ち豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、壹岐、對島、肥後、日向、大隅、薩摩、琉球の十二國を總括す。之を分ちて左の八縣とす。

西海區

- 大分縣、 福岡縣、 佐賀縣、 長崎縣、
- 熊本縣、 宮崎縣、 鹿兒島縣、 沖繩縣、

地勢

離島は、之を措き、九州島の地勢を見るに、西海岸は、屈曲殊に繁くして、半島、島嶼、又港灣甚多し。山脉は、地形と共に曲折し。河流四方に注下す。

海岸

日向の海岸は、大なる曲折なし。沿海を日向洋と稱す。内海に面

する處は、中央に豊後半島突き出し、其東の大分灣は南端を地藏崎と稱し、四國の佐田岬と相對し、豊後水道の一端を扼す。豊後半島の北は、中津灣にして、西の海峽は、即ち下關海峽にして、速柄瀬戸とも稱す、内海の三門戸の一なり。

下關海峽の外を響洋とし、其西の玄海洋は風濤荒し。此に福岡灣あり。其左側の小半島にある名古屋は、昔朝鮮征伐の時、豊臣秀吉の本營を置きし所なり。此半島の西は、弘安中、元寇の船艦の覆没せし所なり。海岸の急峻なる、壹岐、對馬、兩島は、日本海の入口を守る要地なり。西に平戸、五島等の諸島あり、五島は鯨獵盛なり。之に對する肥前は、一個の半島を成し、又分れて數小半島と爲り、其形恰も風車の如く、其間に數灣あり。大村灣(鯛浦)の入口に佐世保軍港あり、征清の時常に帝國艦隊の根據地たり。南に長崎の開港場あり。南岬を野母崎といひ、其北の高島は石炭の無盡藏と稱せらる。大なる有明洋は、筑紫潟とも稱す。島原半島の南に、天草島あり、其海を天草洋と稱す。九州島の南岸は、兩足の如き半島を出し、其指端を野間崎、及佐多岬といふ。兩半島の中間鹿兒島灣内に櫻島

の活火山あり。大隅海峽の南の二島を種ヶ島、屋久島とす。此邊の海部を七島洋と稱す。更に南の大島は、嘗て西郷隆盛の謫せられたる島なり。それより南の島々は、後段に記すべし。

山脉

九州島の北部の山岳は、筑紫、肥前の二山脉に屬せり。筑紫山脉は、中國山脉に連なり、其中に火山少からず。著名の火山阿蘇山(五千二百尺)を首め、由布岳、英彦山を名山とす。此山脉中には、多く石炭を含めり、又温泉多し。○肥前山脉とは、筑前と、肥前の境を西に走り、次第に西南に向ひ、半島の全面を蔽ふものにして、これ亦火山質の山多し。就中著名の山は、雷山、多良岳等なり。

九州の南部の山々は、南部山脉に屬す。此山脉は、四國山脉と連脈し、高原性に於て、祖母岳、江代山、市房山、霧島山等を高嶺とす。市房山は、九州第一の高山にして六千尺あり。其西に、五家莊とて平氏の遺類の住する山莊あり。霧島山は、著名の活火山にして、數峯叢立す、高さ五千二百尺あり。此山脉中にも温泉あり。

水理

筑紫山脉より出づる川々は、大野川、遠賀川、筑後川、白川とす。大野

川は、其河谷甚廣く、肥後に通ずる大路を開けり。豊前の山國川には、耶馬溪の奇景あり。遠賀川の灌地は、地味肥へ、穀類を産す、道路と鐵道と、共に此平谷に由りて門司に通ぜり。筑後河は、豊後に起り、有明洋に注ぐ、長さ三十五里あり、或は筑紫三郎と稱す。其灌地は、白川の灌地と共に、良穀の産地として名高し。次に南部の諸流は、球摩川、川内川、大淀川、五箇瀬川とす。球摩川は三急流の一にして、沿岸に奇岩散在す。川内川は、九州第一の長流にして、河谷は、牛馬の畜養少からず、川の長さ四十六里あり。大淀川等は東西の通路を成せり。

風土

九州は、概して氣候暖なれども、玄海洋に面する地方は、南に山を負ひ、冬は西北風、若くは東北風吹くを以て、寒氣強く、積雪數寸に至ることあり。然れども、南部に至るに従ひ、漸く溫度を増加す。雨量は東南海岸最多し。河流の灌地は、地味肥へ、殊に筑後川の兩岸より、肥後の平野は美田多し。人口一萬以上を有する都會、凡二十六あり。

大分

大分縣は、豊前の二郡と、豊後を管治す、人口八十一萬あり。○大分町

福岡

は人口一萬二千にして、鍋、釜、等を産す。東南海岸に臼杵あり。西北の別府は、著名の温泉場なり。○中津は西洋文明の先導者として著名なる福澤諭吉先生の産地なり。中津の東に宇佐神社あり、和氣清麿の故事を以て名高し。○豊後半島の疊表は、日本中造出最盛なり。

福岡 福岡縣は、肥前の四郡、筑前、筑後を管し、人口百廿九萬七千あり、九州中戸口最も密なり。○福岡市は、博多と共に一市を作り、人口六萬あり、博多織を産す、黒田氏(五十二萬石)の舊城地なり。東北方に門司の良港あり、下關と相對し、九州鐵道の起端なり。小倉は、小倉織を出す、此に第十二師團司令部在り。○福岡の東の太宰府に、菅原道眞を祀る神社あり。筑後川の灌地にある久留米市は、飛白布、生蠟を産す。○本縣は、石炭の産額日本第一にして、三池炭の名最も高く、紙、油、苧も亦名産なり。

佐賀

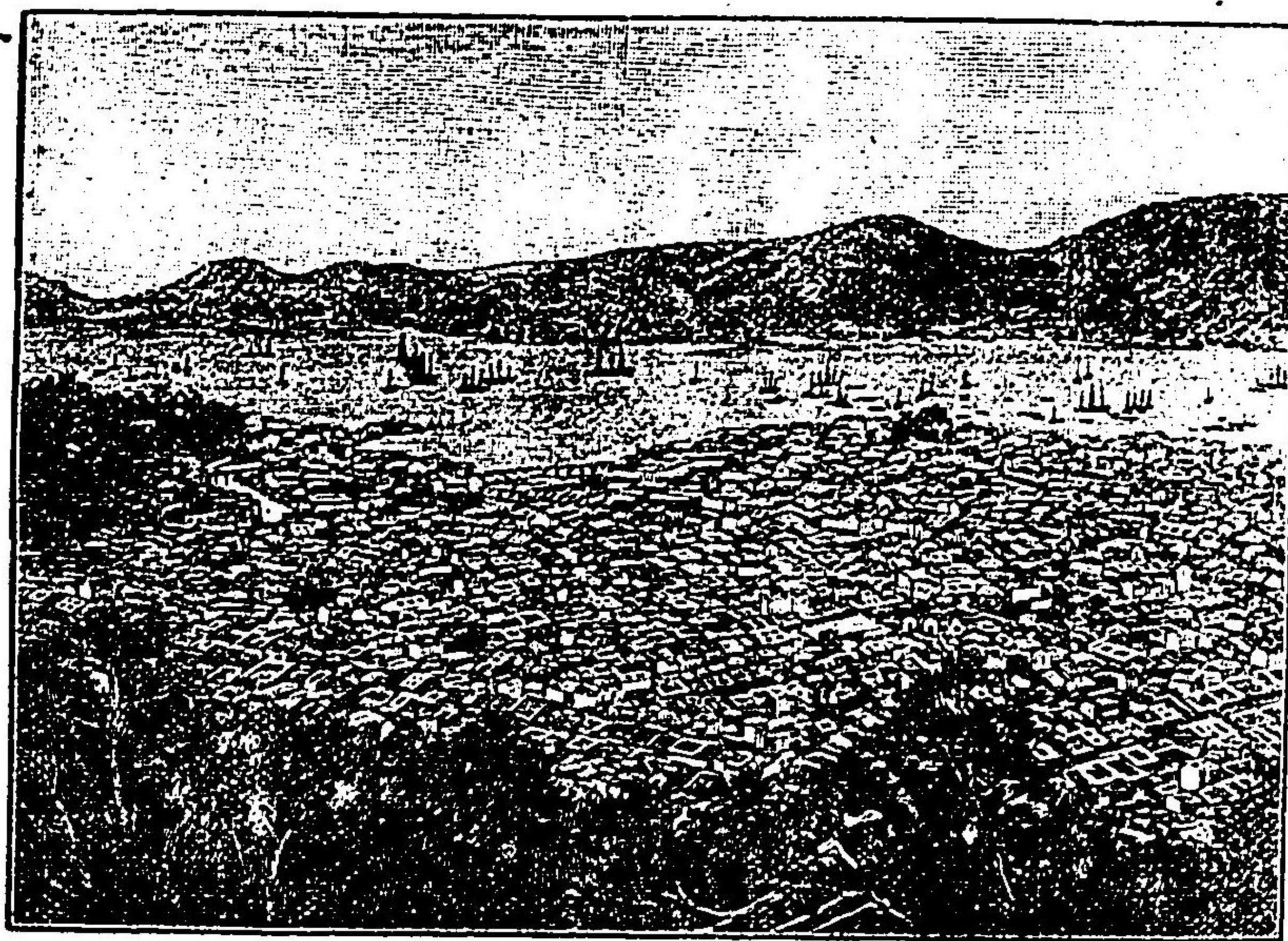
佐賀 佐賀縣は、肥前の八郡を支配す。人口五十九萬あり。○佐賀市は、沃野に位し、鍋島侯の舊城にして人口二萬九千あり、門司より瀛車程凡五時とす。

長崎

北海岸の唐津は、特別輸出港にして、石炭にて名高し。伊萬里と、有田は、陶器の名産あり。生蠟、其他米、麥、等縣下の産物饒なり。

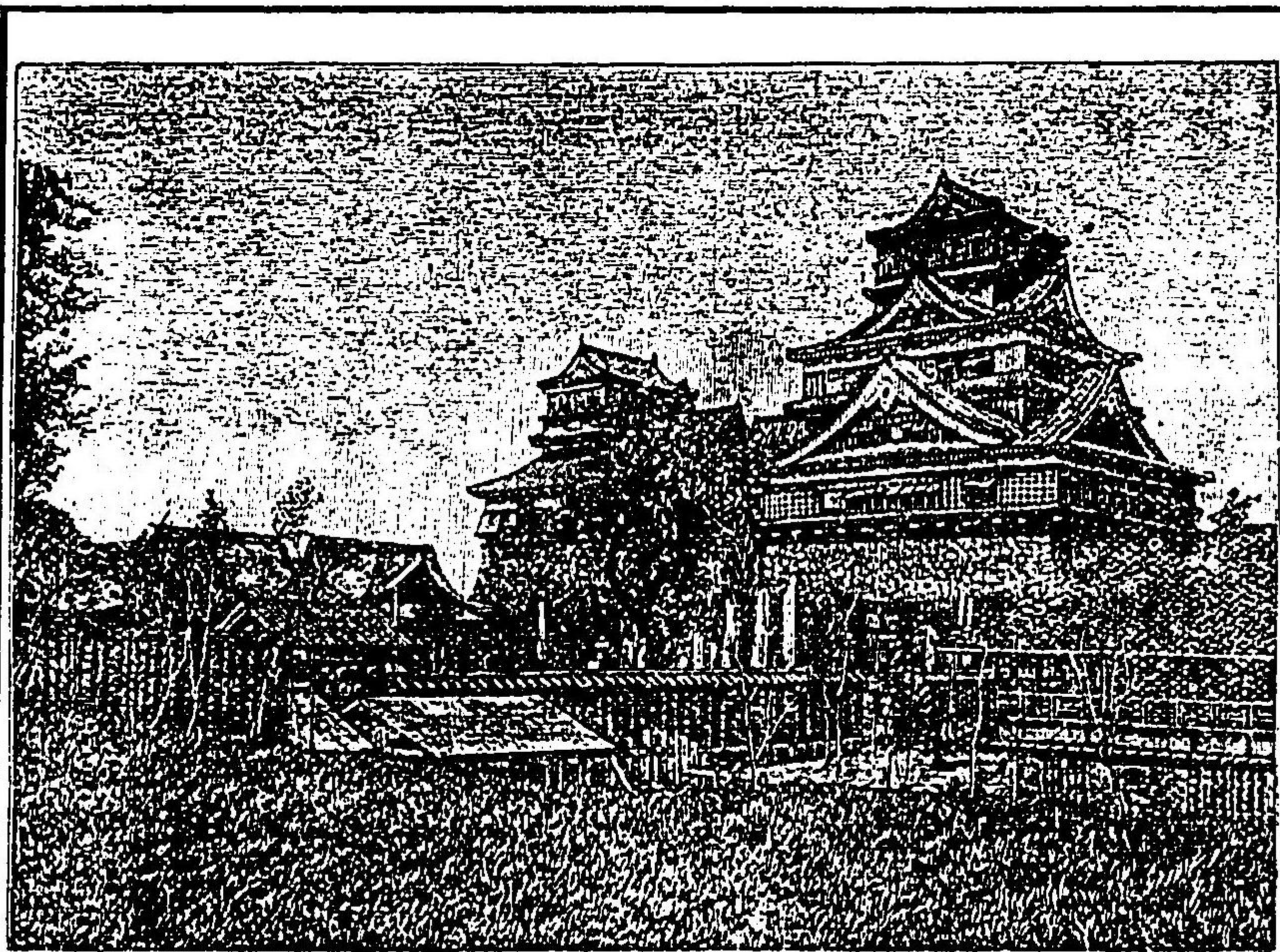
長崎 長崎縣は、肥前の六郡、壹岐、對馬を管す。其領地は、半島にあらされは、島嶼にして、不規律なると甚し。對馬の外は、耕地よく開らけ、人口七十八萬五千あり。○長崎市は、港内水深く、數百の大船を容るべし、開港以來、殆三百年、最舊の開港場にして、人口七萬あり、九州の最大の市なり。○島原半島の島原、鯛浦

第一圖 第十地參



長崎港

熊本



熊本城

口の佐世保軍港、又島地の福江、平戸、何れも名邑なり。○壹岐の勝本、對馬の嚴原は名邑なり。對馬は、宗氏の舊領地にて、昔は、朝鮮との交通は、此國に由れり。又本島は、日本海の口に在るを以て、兩島の中央淺海灣に砲臺あり、此灣は數十の大船を入るべし。○石炭は本縣の名産なり。

熊本 熊本縣は、肥後の國一圓を管す。西方の海岸に宇土半島を出し、前に天草の二大島あり、人口は百十萬なり。○熊本市は、九州の中央に位し、四面は平野にして、白川に跨

宮崎

る。細川氏(五十四萬石)の舊城地にて、其城は、加藤清正の造築せし所、十年の役、谷將軍の固守を以て著名なり。此に第六師團の司令本部あり、實に九州の要鎮とす。市内に第五高等學校あり、人口五萬一千にして木綿を産す。門司へ瀛車程七時なり。○南の八代は、疊表紙、セメントを産す。宇土半島の三角港は良港なり。○本縣は農産甚多く、肥後米の名高し。

宮崎 宮崎縣は、日向の殆んど全部(一郡を除く)を管す。管内山多くして、耕地開らけず。人口四十三萬あり。○宮崎町、人口僅に八千なり。○都城は、管内の最大市街にして、人口一萬三千あり。此に高千穂の宮趾あり。海岸の細島は、繁昌の港なり。○日向半紙、樟腦、木材、馬等の名産あり。

鹿兒島

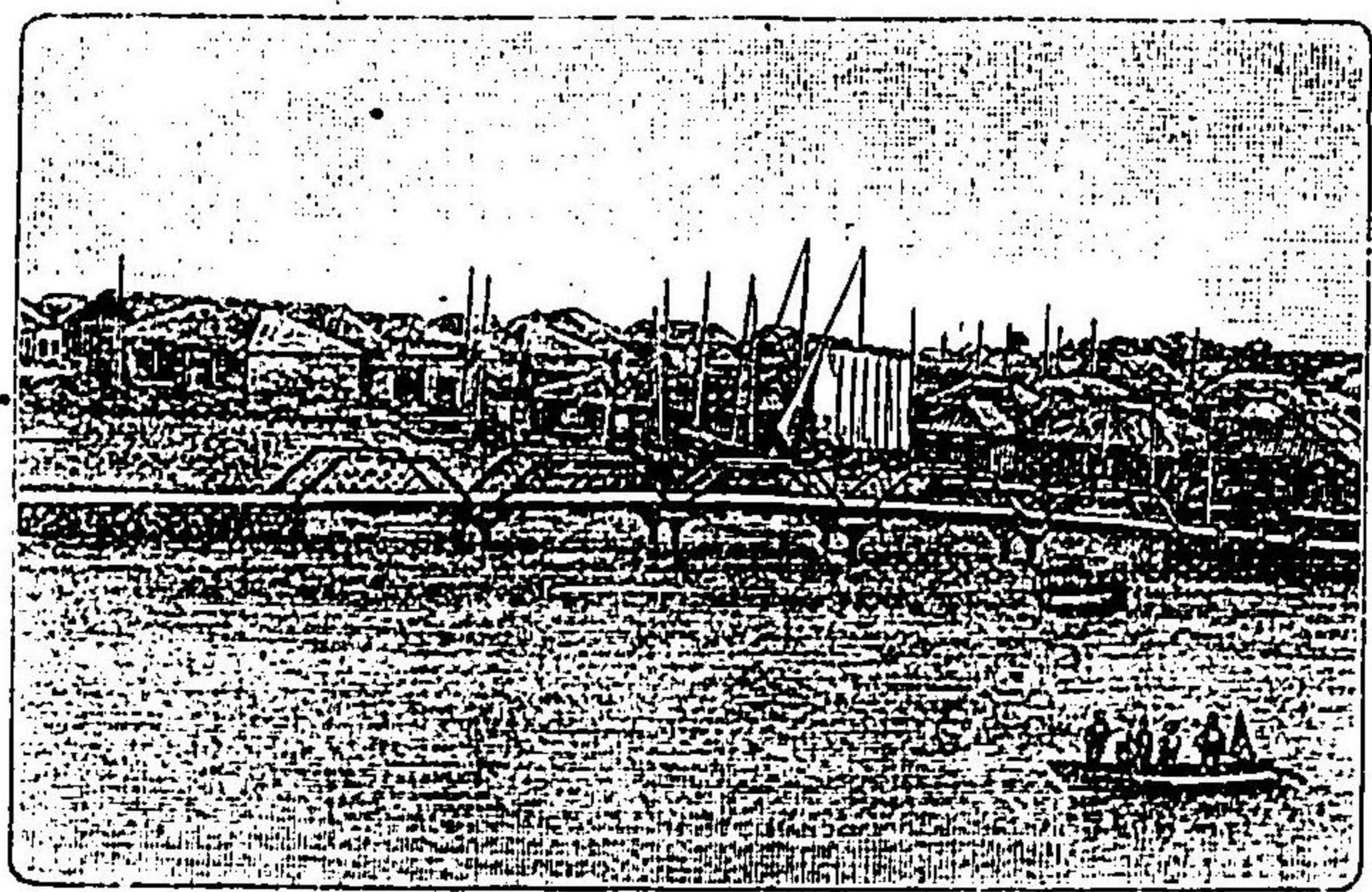
鹿兒島 鹿兒島縣は、薩摩、大隅と、日向の一郡を管す。人口百六萬あり。○鹿兒島市は、人口五萬四千あり。島津氏(七十七萬石)の舊城地にして、維新の大老西郷隆盛を首め、大久保利通等の俊傑を出せり。城北の城山は、西郷等自盡の地なり。陶器の名産を出す。○阿久根は燒酎の名産あり。加治木は、大隅の最

大市街にして、國府は煙草の産地なり。○本縣には、屬島少からず。甌島は、西にあり、硫黃島は、南にあり。種ヶ島は、鳥銃の故を以て名高く、屋久島は西海地方第一の八重岳(六千三百七十尺)を戴く。其他大島、徳の島、興論島、等(第四圖参照)あり。諸島砂糖を産す。

沖繩

沖繩 沖繩縣は、琉球諸島五十餘を管す(興論島は鹿兒島縣に屬す)。之を分ちて沖繩、宮古、石垣の三島彙とす。總島の地勢、山多けれども高からず、一千四五百尺に過ぎず。地味肥瘠相半す。年中氣候暖にして、寒氣を知らず。人民の言語、文字、粗内地と異ならず。人口四十三万あり。

沖繩島彙の那覇は縣廳の所在地にして、市街灣に臨み、繁昌なるも、港内水淺く、大船を容るべ



那 覇 港

からず。人口三万三千あり。東方一里餘の首里は、舊藩王尙氏の舊城地にして、城は丘上にあり。士族、大家の邸宅、其周圍を繞くる。人口凡二万五千あり。○沖繩島の運天港、座間味島の安護港、入表島の船浮港は、沖繩諸島の三良港なりと云ふ。

沖繩諸島の特産は、甘藷、砂糖、泡盛、飛白綿、上布、芭蕉布、漆器、等なり。

十 臺灣區 第十地圖参照

境域

境域 本區は、臺灣島と、附屬の數島より成る、西海區よりも、少しく小なり。

新に我國の版圖に入りてより、日尙淺きを以て、諸事未だ確定せず、殊に島の東半部は、生蕃の住地なれば、事情明ならず。全島を分ちて六縣、三廳とす、即ち左の如し。

- | | | | | |
|-----|------|------|------|------|
| 臺灣區 | 臺北縣、 | 新竹縣、 | 臺中縣、 | 嘉義縣、 |
| | 臺南縣、 | 宜蘭廳、 | 臺東廳、 | 澎湖廳、 |

地勢

海岸

地勢

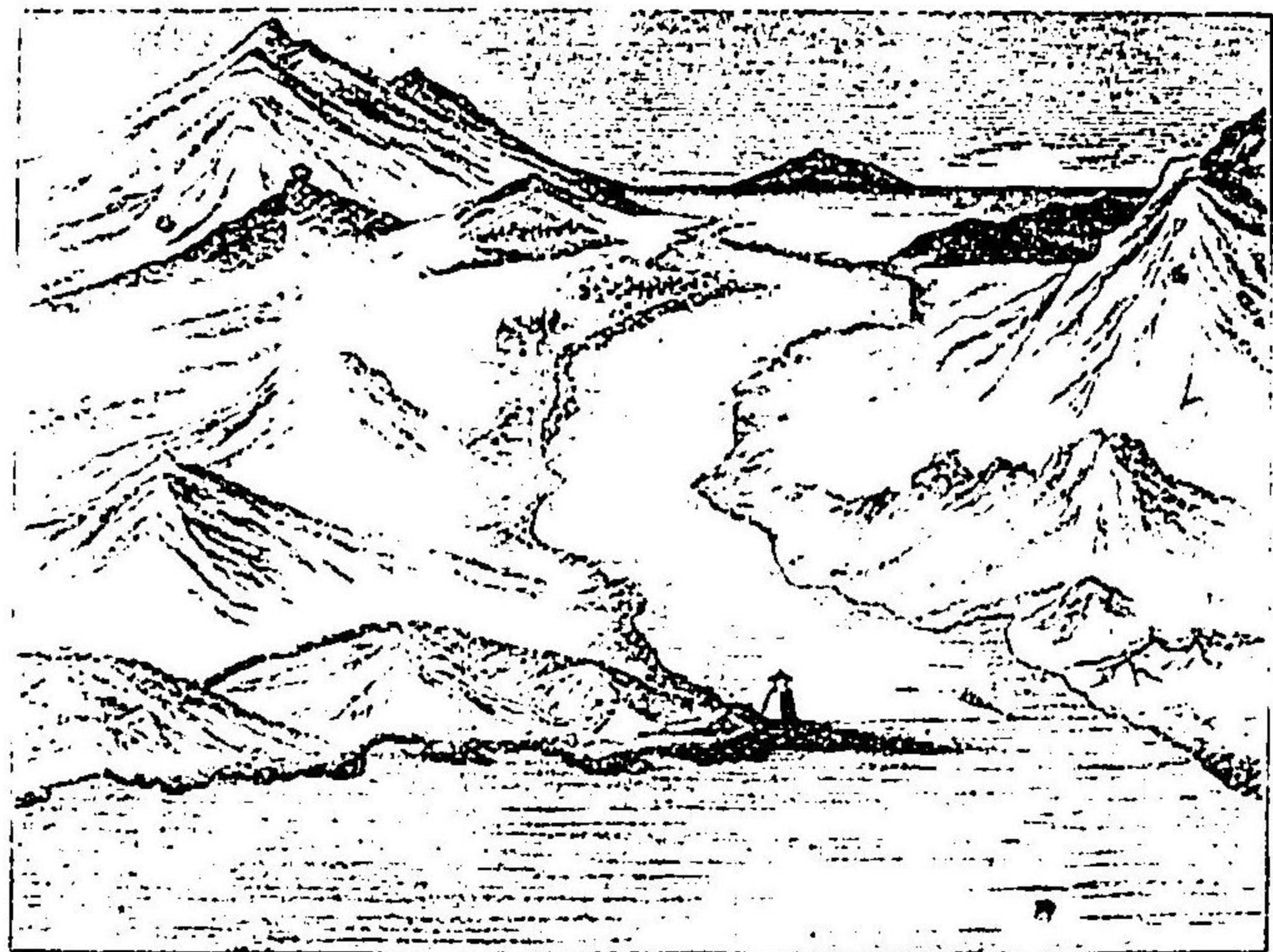
島の東側に偏して、山岳南より北に連なり、河流は此等の山中に發し、大抵東と西に注ぎ、西側は大なる平地にして、灌溉の利あり。

海岸

島の形恰も櫻葉に似て、屈曲、出入甚少なし。概して東岸は嶮崖多く、西岸は沙濱にして、海底深からず、故に良港灣少なし。北の海岸の最東に突出する三貂角は、明治廿八年五月、皇軍の始めて本島に上陸したる地なり。北方の北斗岬の西に、



基隆港



淡水港

の紅頭嶼は、其大さ粗伊豆の大島と同じ。蘇澳灣は、繫船に便なりといふ。

小灣を成す、其内の基隆港並に西の淡水は共に開港場なり。

西の海岸には香山、安平、打狗等の諸港あり。後の二港は開港場にして、基隆、淡水と共に、砲臺及燈台の設けあり。西の海岸と大陸の間、即ち臺灣海峡に、澎湖群島あり、三百尺以下の低き島にして、樹木甚少なし。其馬公港は、臺灣第一の良港と稱せらる、港口に砲臺及燈臺を設く。此島は、明治廿八年三月、征臺皇軍の第一に占領したる所とす。

南端の南西岬と南岬の間に南灣あり。東海岸は、蘇澳灣の外は、蕃地に屬せ

山脉

山脉 山脉は、地形に従て南より北に走ると、猶ほ本土列島の山脉の如し。其主線は東に偏し、東部は山地にして、西部は平原なり。山岳分れて、南北二個の山彙を成すが如し。北の山彙の高峯は、シルヴィヤ山にして一万二千餘尺あり。南の山彙の新高山(モリソン)は、一万三千六百八十尺あり、此山は今我國第一の高峯なり。北部の山には氣烟を噴くものありといふ。山中到る處樟あり、其大なるは、根際に於て十二尺のものあり。又温泉及地震の多きとは、本土列島と異ならず。

水理

水理 島中に長流なし、唯北邊の淡水河稍大なるも、沙洲急流ありて、大船を入るべからず、其長さ凡そ二十五六里に過ぎざるべし。西部平原の河流は、大肚溪、濁水溪、笨港河、等にして、短けれども、灌溉の便利あり。此等の灌地には、甘蔗、米、等の農産物甚多し。湖沼は、各地に散在す、殊に中央に大湖あり、其近所は蕃人住するといふ。

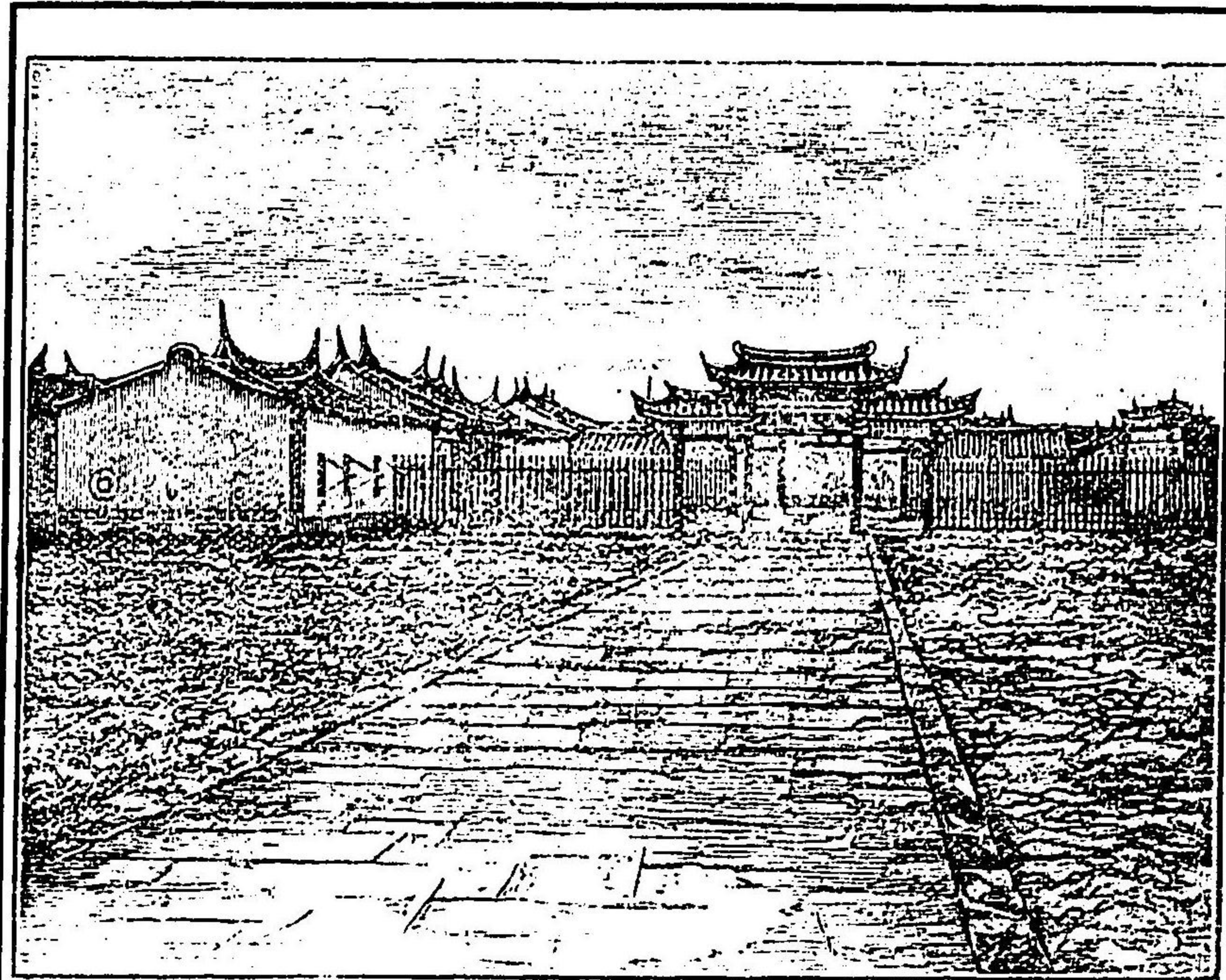
風土

風土 臺灣の殆んど南半は、熱帶中にあるを以て、氣候の熱きと云ふまで

北部

もなし。然れども、夏は山下ろしの冷風吹き、夜間は暑氣凌ぎ易く、八月は氣温平均二十八度(華氏八十二度四)なり。冬は、高山の頂に雪を冠するとあれど、平地に於ては、壯年者は綿入を重ねるに及ばず。地味大抵肥沃にして、西部は耕地最も開けたり。一万以上の人口ある都府凡十個あり。住民は、支那種人と蕃種人の區別あり。支那種人は、支那本部の者と其風俗大差なし。蕃人中には、熟蕃、生蕃の別あり。熟蕃は支那種人と雜居し、生蕃は山中に居り、其中數種の別あり。蕃社(蕃人の村落)の數凡一百四あり。生蕃を除きて、人口凡二百四万あり。

北部 今本島を北部、中部、南部の三部に分ちて之を記すべし。北部の臺北は、四方山を繞らし、淡水河の二支流に圍まる。城内は、市街の規模廣大にして、汚穢ならず、道路の廣きは、六間に及ぶものあり。家屋も概ね二層なり。電氣燈七、八基あり。乗合馬車、人力車亦少からず。城外に一大市街あり、艋舺といふ、淡水河に臨み、商店軒を列ね、街路狹隘汚穢なり。又城北に大稻埕の市街あり。此二市共に繁華なり。此等を合はせ、臺北の人口總て七万あり。臺北は臺北縣



廳の所在地にして、又臺灣總督府も此地にあり。

北部は此臺北を中心として、基隆港(人口一万)、淡水港(七千)、海山口(二万)、新竹(一万)、及東岸の宜蘭等の市街あり。新竹には新竹縣廳あり。農産物は、茶を首めとして、米、砂糖、落花生、苧麻等に富み、基隆の石炭は、其名最も高く、全島炭層のあらざる所なし。北部は、樟の大木最多く、樟腦の産出盛なり。又硫黄も産出少からず。鐵道は、基隆より新竹に至る六十哩あり。

中部

淡水より、支那の福州に通ずる、海底電線あり。

中部 臺中は、大肚溪の南畔に位し、此に臺中縣廳あり。此市街は新設以來日尙淺く、人民多からず、唯城郭及市街の規模大なるのみ。此地方に於て、繁昌なるは、西方の彰化にして、人口二万あり。此他六斗門(人口二万)、鹿港等の都邑あり。○中部地方には、砂糖を産すること多く、其他藍、烟草、樟腦、石油、等あり。

南部

南部 臺南は、舊時は本島の首府なりしが、明治九年の頃、首都を今の臺中に移したるため、改稱して臺南といふに至れり。市街は西方海に面し、其他は沙地にして、地勢狹隘なり。城は、石壁を繞らし、守備嚴なり。街路は稍、清潔にして、人口十三万五千あり。此地は臺南縣廳の所在なり。西の安平港(人口一万五千)、南の打狗港は、南部の要港にして、打狗は本島の最良港と稱せらる。嘉義は人口一万五千あり、南部の重なる市街にして、嘉義縣廳あり。此外南仔坑(二万)、鳳山、及東方の臺東、等の都邑あり。安平港より澎湖島へ海底電線あり。南部地方は、砂糖を産すること最多し。北部の輸出物は、米最多く、砂糖之に次くと雖、南

部は、砂糖の輸出最盛なりと云ふ。

十一 北海區

第四及第五地圖參照

境域

境域

北海區は、北州と千島諸島とを合せたる一區域にして、其大さ本土に次ぎ、島數凡三十餘個あり。本區は舊名を蝦夷と稱し、土地未だ開けず、人烟甚稀にして、總人口僅に五十九万餘、之を一方里に平均すれば、凡九十七人の少數なるを以て、未だ府縣の區劃を立てず、北海道廳總て之を管轄す。

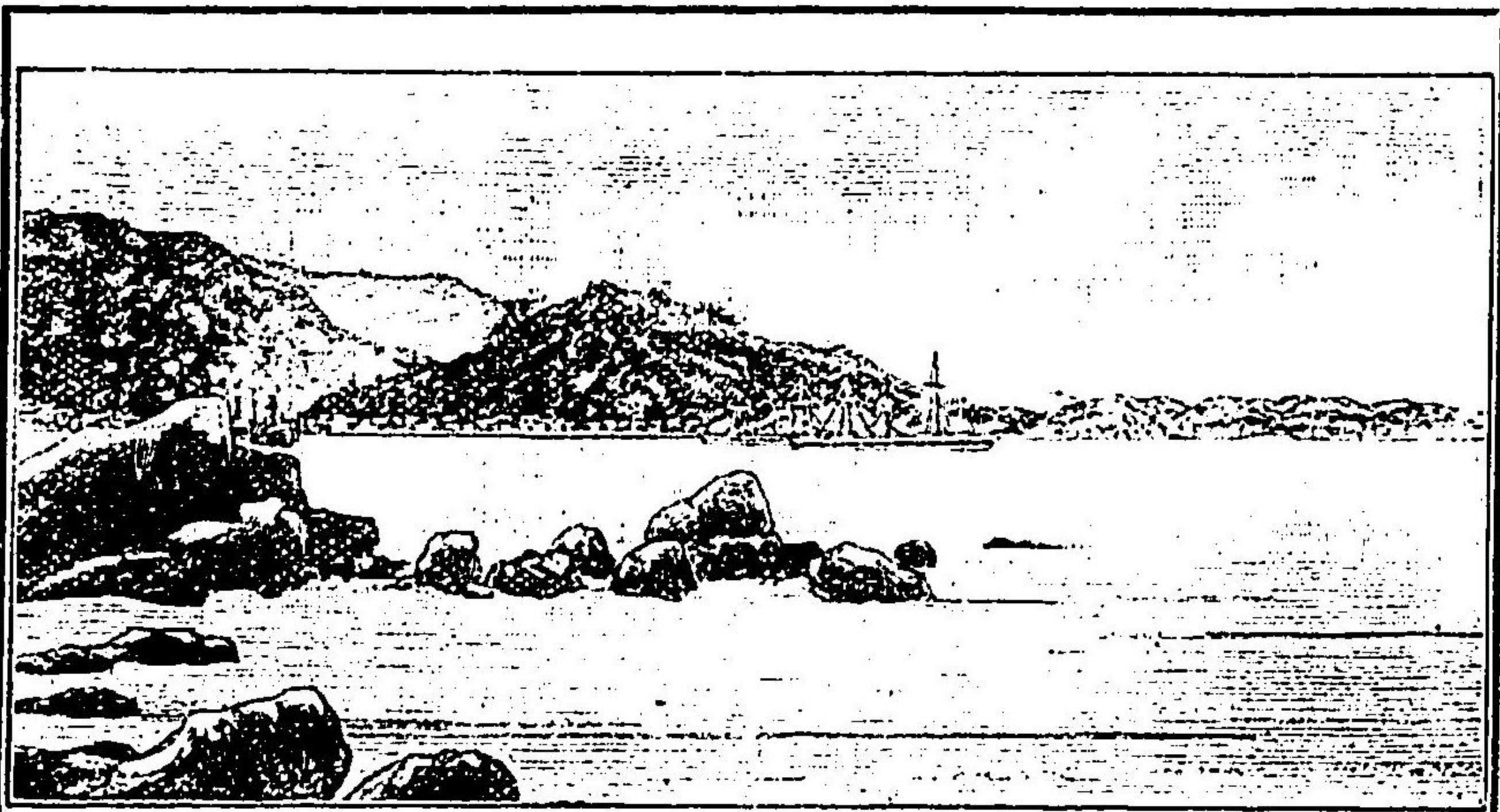
地勢

北州島は、其形は赤鯉の如くにして、山脉は十字形を成し、其交叉點の山勢最も高し。山脉と山脉との間には、廣き原野を挾み、長大の河々これを灌ほす。

海岸

海岸

北州島の海岸は、西南部の外は、大抵平直なる沙濱多し。津輕海峽を隔て、陸奥灣に對する灣は、函館灣と稱し、其岸に函館の開港場あり。其東の岬は、惠山岬にして、西北の噴火灣は、内浦灣とも云ふ、其東の端は室蘭軍港なり。

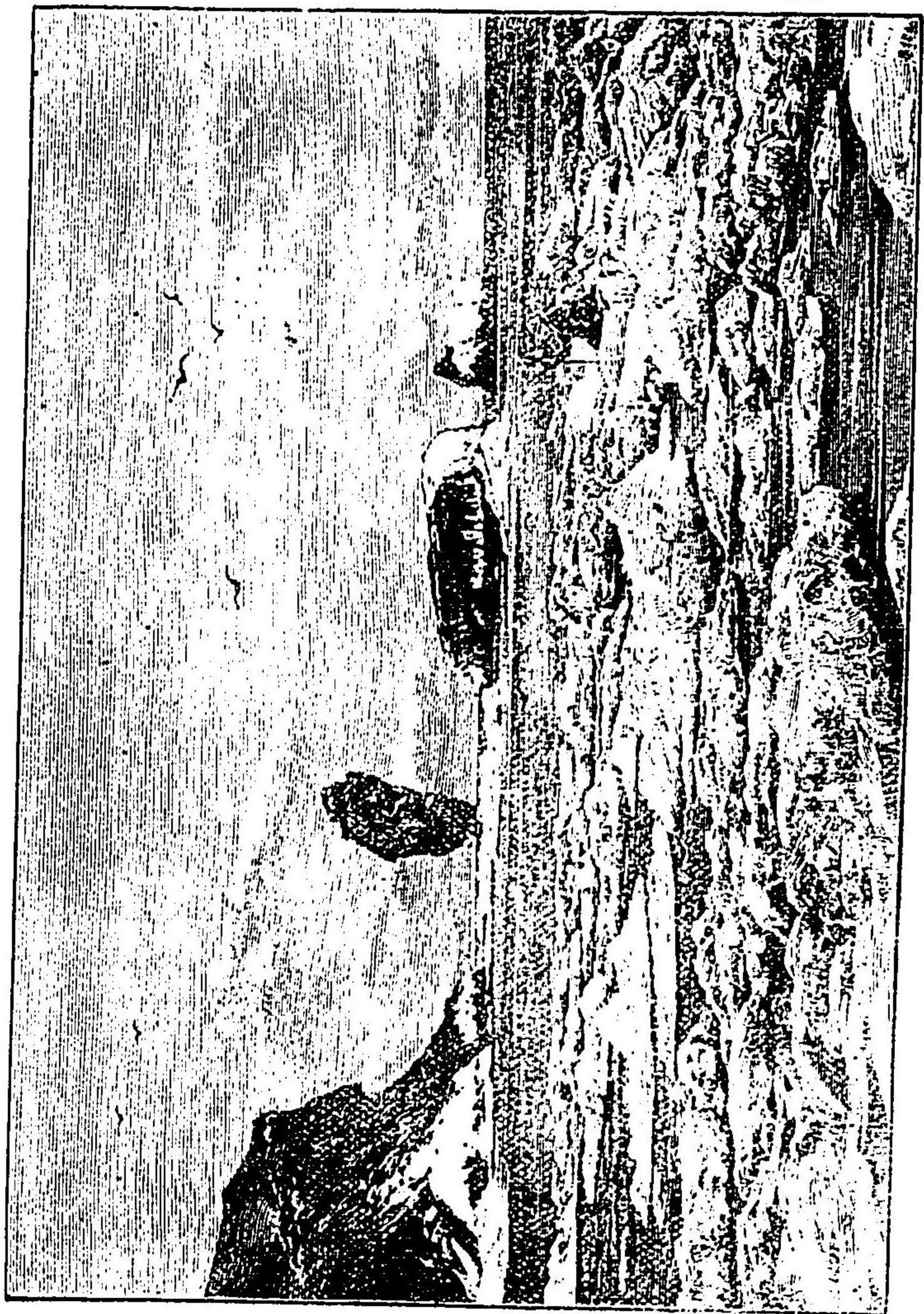


小樽灣

それより襟裳岬までは、海岸曲りて弓の如く、同岬より根室半島の納沙布岬までも、亦弓の形にして、其間に厚岸灣あり。納沙布岬と、知床岬の間に、根室灣あり。根室海峽を以て、國後島と分離す。國後島は、千島三十二島の初めなり。チヨツク海の岸は、知床岬より宗谷岬に至るまで、是れ亦弓の如くに反り、其間に數個の海岸湖あり。宗谷岬は、樺太島の南端と相對し、中間を宗谷海峽といふ。西の二島は、利尻、禮文なり。日本海に面する西岸の突出は、積丹半島にして、其右を小樽灣、其左を壽都灣とす。小樽港は、本島の要港なり。南の三角島は、奥尻と稱す。江差灣に、江差港あり、南岸に福山港あり。其東

母羅島四海水産の景況

に白神崎突
出す。
千島列島
は、國後島
を首め、色
丹、擇捉、得
撫、波羅、茂
里、等の三
十二島、北
州より東北
に向て點々
相連なり、
最後の占守



山脉

島は、千島海峡、西洋人此列島を久里留列島と稱し、千島海峡を久里留海峡と名くを隔て、東塞加半島と相對す、是れ我邦の版圖の最北なり。抑も千島列島は、火山質にして、火山四十餘あり、山の形圓錐の如きもの多く、其山脉の向きは、島の形と同じ。沿海は霧深く、波荒く、冬は殊に危険なれども、北州の沿海と同じく、魚獵甚多く、鱈、鮭、鰻、虎、鯨、昆布、杯の收穫にて著名なり。

山脉

北州の地勢は、之を東西の兩部に區別すべし、即ち赤鰻の尾の如き西南の半島を西部とし、其以東を東部とす。兩部の間に平原あり。(第十二地圖參照)

東部の山と野は、西部よりも大にして、中央の最も高き所を、チブタテシケ山彙とし、ヌタフカウシベ(七千五百尺)石狩岳、十勝岳等の高山あり。此中央點より東の方、知床岬に至るものは、千島帶山脉と稱し、其脉は千島列島に連なり、亦火山質にして、雌阿寒、長牛の諸山は、高さ四五千尺あり。此山脉中に數湖あり、釧路湖の東の硫黃山より、多くの硫黃を産す。○中央より、西北宗谷に向ふものは、東北山脉と稱し、山脊は平均二千尺に過ぎず。又南に連るは、日高山脉にして、芽室(五

千七百尺、^{カマカ}神威を高山とす。

西部は山多けれども大ならず、原野も小なり。山は大抵火山質にして、^{カマカ}膽振、^{カマカ}後志に起伏するものを、^{カマカ}後志山、^{カマカ}彙と稱し、^{カマカ}後方羊蹄山（マクカリヌブリ山、六千七百尺）最も高く、^{カマカ}樽前、^{カマカ}有珠の諸火山あり。渡島の山脉を、^{カマカ}渡島山脉と名づく、^{カマカ}遊樂部岳（五千百尺）、^{カマカ}駒ヶ岳より、^{カマカ}惠山に至りて止む。斯の如く内浦灣の周邊は火山多きを以て、^{カマカ}噴火灣とは稱するなり。

水理

水理

東部の大河は、中央の山より發して、四方に流る。最も大なるは、^{カマカ}石狩川にして、^{カマカ}石狩平野を灌ほす。此平野は、南北三十七里、幅平均五里あり。^{カマカ}石狩川の長さは、凡百十一里あり、多く鮭を産す。次は、^{カマカ}天鹽川（七十八里）、^{カマカ}十勝川（五十里）、^{カマカ}クスリ河、^{カマカ}常呂川、等にして、其灌地は何れも未墾の平野にして、人の開拓を待てり。耕地、又は牧場とすべきもの、擧て算す可からず。殖民に宜しき原野の面積、一國にして、多きは五億七千万坪、少きも二、三億坪あり。

西部の河は、^{カマカ}後志川、^{カマカ}利別川を重なるものとす、其灌地は、地味肥へて、耕地少か

風土

第一圖照
十地參

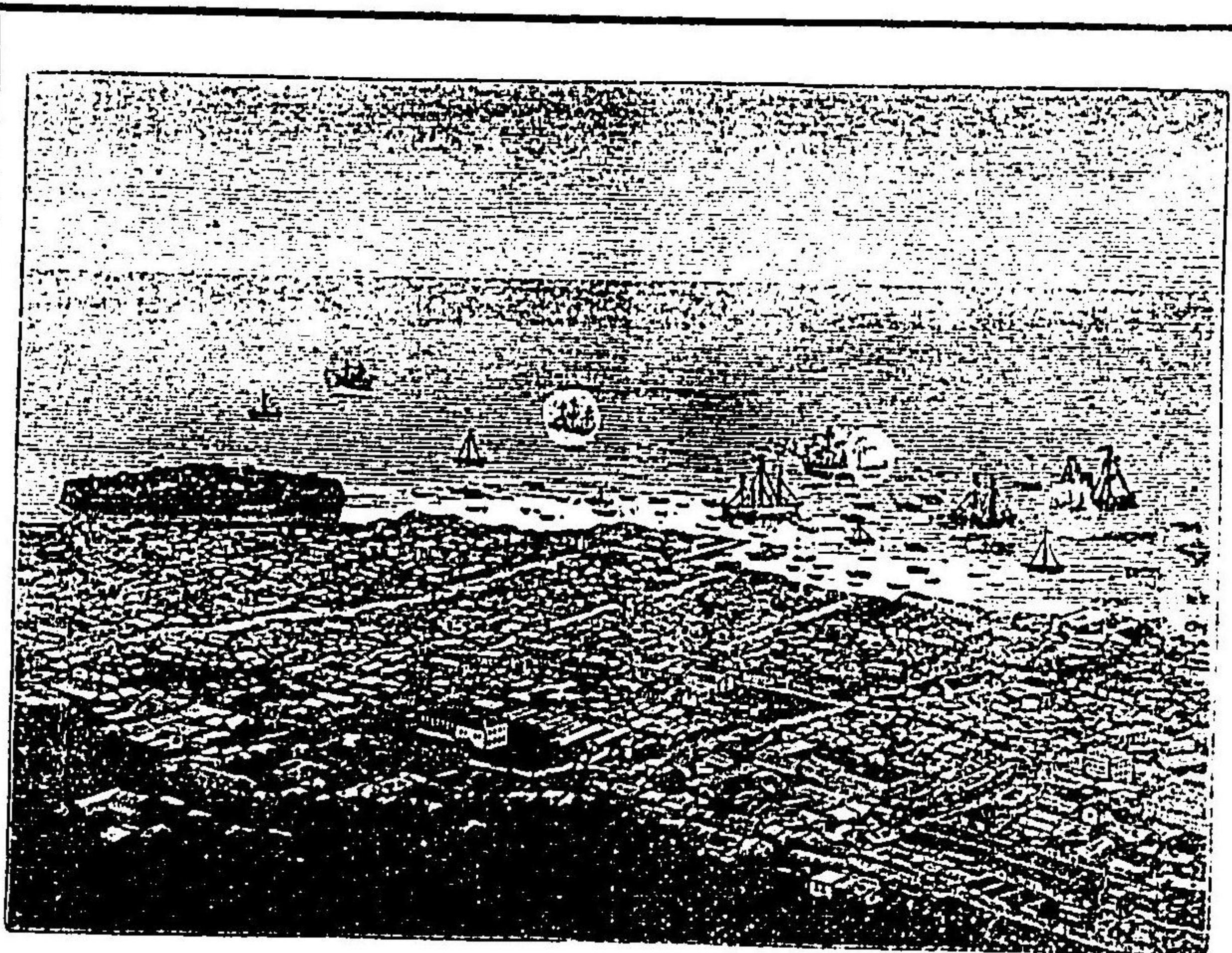
らず、^{カマカ}湖沼は、^{カマカ}猿間湖、^{カマカ}（周圍二十里）^{カマカ}楓連湖、^{カマカ}釧路湖、^{カマカ}阿寒湖、^{カマカ}支笏湖、^{カマカ}洞爺湖、等あり。然れども土地未だ開けざるを以て、空しく水を湛ゆるのみ、未だ人生を益するに至らず。

風土

日本國の南端は、熱帯に入る所あれども、北端は北極線を距つること近からず、其緯度は、^{カマカ}英吉利のロンドン府よりも、稍、南に位せり。故に其寒氣は人の堪ゆべからざる程にはあらず。本區の寒氣は、世人の想像するか如く強からず、^{カマカ}札幌に於て、一月の平均溫度零點下五度五位なり。夏は本土と大差なし。概して海岸は、内地よりも暑寒ともに溫和なり。降雪は海岸と内地と大差なきにあらざるも、概して十月（中旬）、又は十一月（上旬）より始まり、四月（中旬）に於て多くは解け去る、或は三月に至れば消ゆる所あり。

北海道の原野中、開拓して耕地とすべきもの、凡そ一百万町あり、而して今日の拓地は、僅に凡そ九万七千七百餘町に過ぎず。是れ猶ほ人烟の甚稀少なるに因るなり。現今の人口は僅に五十九万餘にして、平均一方里凡そ九十七人なり。此

都會



新館港

數年間、年々増加する人員は、平均二
万内外とす。又アイヌ人は、凡そ一
万七千人にして、日高、膽振の二國に
最多し。

都會 人口稀にして、大都會
甚少し。函館、小樽、札幌、江差、根室、福
山の外は、人口一万に足らざる小町
村なり。○札幌は豊平川の岸にあり、
北海道廳、農學校、病院、等あり、近時人
口大に増加し、今は四万六千餘あり。
西は、小樽港へ鐵道あり、東北は、空知
太、幌内、等の炭山に、南は室蘭港への
鐵道あり、交通便利なり。此に第七

師團司令部あり

小樽は、人口四万あり、本土、等より輸入する貨物も、旅客も、多くは此港よりす
るを以て、船の出入多く、市況盛なり。○函館は、北海道咽喉の地にして、開港場
の一なり。人口五万あり、港内水深く、船の出入絶へず、人氣甚活潑にして、他の開
港場と競争するの勢あり、北海第一の要港なり。○福山は、松前氏(三万石)の舊
城地にして、其起原甚舊く、人口一万五千餘あり。江差は、西岸の一港なり。○根
室は、東北地方及千島諸島の海産物多く此に集り、市況漸く繁華となるの勢あり、
人口一万六千餘あり。○千島諸島は、人口最も稀にして、總計一千四百餘なり、故
に都會と稱すべきものなし。擇捉島の紗那には、罐詰製造所あり。

産物

産物 人力少なき故、物産多からざるも、天然の富は甚饒なり。(農産)農産
には、大小豆、大小麥、馬鈴薯、蕎麥、藍、粟、麻、其他林檎、等の菓實少からず。今は水田
も漸く開らけんとす。養蠶も氣候に適し、且つ自生の桑多し。(牧場)牧畜に適す
る地多し、殊に日高は氣候溫和にして、最も之に適するといふ。全道の牛五千頭、

馬五万八千頭あり、將來益蕃殖すべし。

(林産)全

道森林多

く、榎、松、蝦夷松、赤楊、

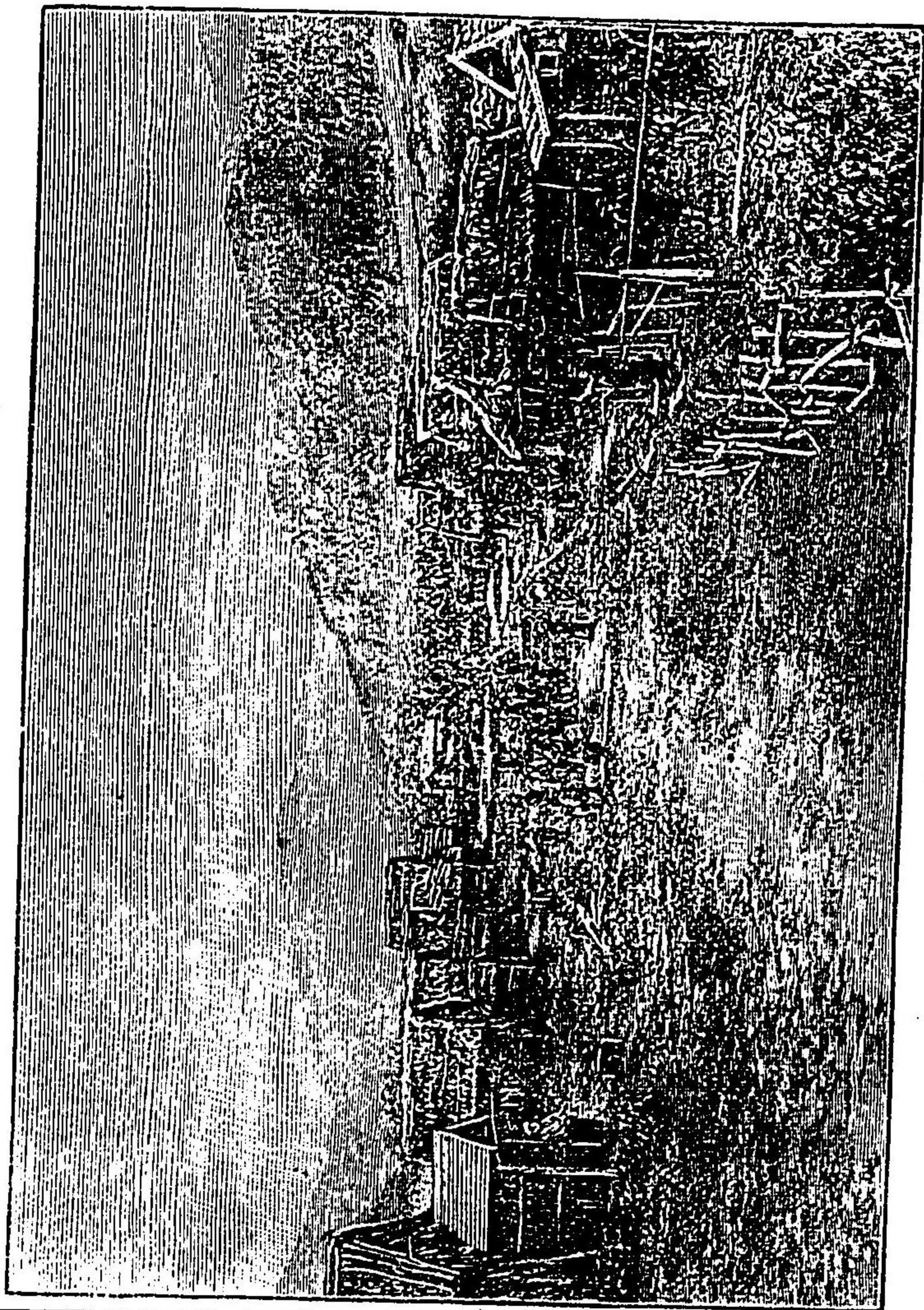
等の大林あり、今日日本

土に於て製

する早附木

の軸木の如

の軸木の如



色丹島嶺古丹羅野の村落

き、大抵此地の木材を用ゆるといふ。其他外國への輸出材木も少なからず。(水産)水産の多きこと全國に冠たり。鱈、鮭、昆布、鱒、等の收穫、實に大にして、海岸並に河岸は漁利のなきはなし。日本全國の漁獵總價額は、凡そ三千六百五十万にして、其凡そ五分の一は、北海地方の産とす。(鑛産)鑛物中、石炭最も多量にして、夕張、空知、幌内、の如き其名最も高し。又ユーラップ銀山(膽振)名あり。アトサノボリ硫黄山(釧路)の産額は、本邦第一なり。

第三章 地文總論

前章に於て、本邦各區の山川、都邑、名勝、名産、等の大要を論述したれば、今より全國の大體に就き、順次項を分ちて、之を總論すべし。

一 海岸 第二地圖及第十二地圖等參照

日本群島は、海岸線甚長く、新領地、臺灣島を合すれば、其全長殆んど七千五百里あり。此の如きは、他國に殆んど其の比類なかるべし、其故如何。

- (一) 島嶼の數甚多く、周圍一里以上のもの、みを算ふるも其數五百餘あり。
- (二) 海岸の屈曲甚繁くして、海灣及半島多し。

試に、地圖(第二圖)を披ひて見よ、五大島を首め、千島、琉球、及其他の群島、南北凡一千百里の間に散在し、其海岸の出入多く、殊に本土の南海岸、内海の周圍、及九州島の海岸の如きは、屈曲最著るし。

海岸線

海岸線延長の利益

日本の灣港

太平洋海深

此くの如く、海岸線長ければ、航海と繫泊に便利にして、交通、運輸を容易にし、爲めに國の文明を進むると甚大なり、概して海岸地方、殊に良灣、佳港に近き地方の戸口先つ殖へ、大都、名邑多きは、各國皆同様なり。

我國に、良灣、佳港多きと世界中に類なからんと云ふ。其重要なるものは、既に地方誌に記載せり、而して但、其港灣多くは天然の儘にして、尙ほ人工を缺くと、是一の欠典と謂ふべし。兎に角、日本國は、天然の海國なれば、將來益、航海、通商を擴張し、以て此天職を全ふせざるべからず、是れ吾々日本國民の一大義務なり。

二 海深 第十二地圖參照

凡そ海水は、海岸を距つるに隨ひ、次第に深くなるものとす。然れども、其地體の傾斜次第により、海深の緩急一様ならず。日本の國土は、地體の傾斜急にして、四周の海は大抵深し。太平洋に於ては、伊豆七島より、小笠原島、硫黃島に至る一帯は、海底隆起して深からず。其以西、臺灣列島に至る間には、二千七百尋に達す

日本海海深

る處あり。又其以東千島列島に至る間は、概して二三千尋の處多く、而して千島列島に近づきて、甚しき深處あり、四千尋より五千尋に及べり。地球上他に此る深海なしと云ふ、之をトスカロラ海床と稱す。

次に千島列島の一帯は其海水勿論深からず。其以北オコック海は概ね一百尋、乃至一千尋に過ぎず。日本海は、太平洋よりも大に淺く、平均凡一千二百尋にして、其最深處は、大陸の方に偏せり。津輕海峽は、百尋あり。朝鮮海峽は、八十尋に足らず。臺灣列島以西の東海は、西するに隨ひ、漸次に其深さを減し、概して百尋に足らず。

内海海深

内海の深さは、平均二十尋にして、大阪灣は、十尋、乃至二十尋なり。然れども、明石海峽は、甚深く、六十尋に及ぶといふ。

三 海流

第十四地圖參照

日本群島の周邊には、暖流と寒流あり。概して其南部は暖流に圍まれ、北部は

寒流之を繞くれり。

暖流

扱て暖流は、日本海流と稱し、フィリッピン諸島より、臺灣の東に沿ひ、琉球諸島の間を流れ、此に分れて、二派となり、其一は東北に向ひて流れ、房總半島の東より、次第に遠さかり、東方北亞米利加に向ひて流る、之を黒潮海流と名づく、其色藍黒なればなり。其幅は、廣き所凡そ二百里あり。其温度は、周圍の海水よりも、概して四五度高し。又其二は、九州の西を流れ、對嶋海峽を経て、日本海を東北に横きり、一部は津輕海峽を過ぎ、襟裳岬の邊にて滅し、一部は宗谷海峽より、オコック海に入りて消滅す、之を對馬海流と稱す。

寒流

次に寒流は、ベーリング海及オコック海より來るものにして、其派別三あり、(甲)は、親潮海流、一名千島海流と稱し、千島群島の間を流れ、北州と本土の東南沿海を過ぎ、犬吠岬の邊にて、黒潮海流と衝突して、其跡を没す、其幅平均二百里程にして、其温度は、千島の邊にて、中夏と雖、凡そ五度なり。(乙)は、樺太海流と稱し、樺太島の東岸に沿ひて流れ、宗谷海峽より、日本海に入り、終に消滅す。(丙)

暖流

黒潮海流

對馬海流

寒流

親潮海流

は、リマン海流にして、韃靼水道を過ぎ、大陸に接して流れ、朝鮮海峽を出て、東海に入りて滅す。

此の如くなるを以て、日本群島の南部は、暖流のために、多少其空氣を温められ、冬も季候温和なれども、北部地方の寒流に接する所は、寒氣一層甚し。去れば凡海流は、その寒暖に拘はらず、人生に關係すると、實に少からざるなり。

四 山脉

第二及第十二地圖参照

日本群島は、山岳甚多く、平地は全國面積の凡九分一に過ぎず。故に日本群島の地理を知らんとせば、山脉の構造を了會すると肝要なり。

日本群島は、既に前に記せし如く、千島、本土、臺灣の三列島に區別すべし、而して此三列島、各弓の形を成して、東北より西南に延び、其間種々の差別あれども、全群島の地體の組立は、二種の曲りたる大山系より成るものと云ふべし。樺太山系、支那山系是れなり。

日本の地勢
地體の構

樺太山系

支那山系

(一)樺太山系とは、東北樺太島より北州に連り、それより本土の中央、駿河、甲斐、信濃の邊に亘るものとす。(二)支那山系とは、支那の東南地方より地脈を通し、九州、四國、中國に亘り、遂に本土の中央部に於て、樺太山系と相會するものとす。此二山系の結節なる、駿河、甲斐、信濃の地方は、群山峻嶺重なり、本土中地體最も高く、且つ最も廣き所なり。

此二山系に屬する主要の山脉は概ね左の如し、第十二地圖を参照すべし。

- (一)東北山脉 低き山脉なり。
- (二)日高山脉 其高峯は凡六千尺あり。
- (三)千島帶山脉 火山質にして、北州の中央にて、其山勢最も高く、オプタテシケ山彙は、高さ七千五百尺あり。
- (四)後志山彙 火山質の群山にして最も高き山を、マクカリヌプリ(六千四百尺)とす。
- (五)渡島山脉 火山質山脉にして、五千餘尺の遊樂部岳を高峯とす。
- (六)陸奥山脉 火山質山脉にして、岩手山(殆六千八百尺)大盤梯山を大山とす。

樺

大日本帝國 山脉

樺太山系の諸山

太山系

- (七) 出羽山脉 火山質山脉にして、烏海山(七千百餘尺)此山脉に屬す。
- (八) 帝釋山脉 帝釋、赤安の兩山(七千尺内外)、此脉中に聳へ、陸奥、出羽兩山脉は共に此山脉に結合せり。
- (九) 三國山脉 吾妻山(殆七千八百尺)を高峰とす。
- (十) 關東山脉 三國岳(九千八百尺)最も高し。
- (十一) 北上山脉 早池峰最も高くして、六千三百尺あり。
- (十二) 阿武隈山脉 此脉中の名山は、靈山、筑波山にして、最高點は三千三百餘尺なり。
- (十三) 房總山脉 房總半島の低き山脉なり。
- (十四) 富士帶山脉 此山脉は、火山質にして、樺太、支那兩山系の結節に噴起し、白妙の富士山を中心として、北は信濃と越後の境なる、燒山群山に連り、南は豆南七島、小笠原群島に至る一大陸起帶なり。富士山は一万二千四百餘尺あり。
- (十五) 赤石山脉 白根、赤石の高峰あり、各一万尺以上なり。

富士帶山脉

支那山系の諸山

支那山系

- (十六) 木曾山脉 駒ヶ岳最も高く、七千八百尺あり。
- (十七) 飛驒山脉 本土中最も高き山脉にして、一万尺以上の高山四坐あり。鎗岳(一万一千六百餘尺)御岳(九千六百餘尺)は著名なり。
- (十八) 濃飛高原 飛驒山脉の西なる廣き山地及其四近諸國の一部を含み、一定の山脊を爲さず、立山(七千六百尺)、位山、白山(八千四百尺)等此中にあり。
- (十九) 能登山脉
- (二十) 中國山脉 大山五千八百尺最も高し。
- (二十一) 鈴鹿山脉
- (二十二) 紀伊山脉 東は赤石山脉、西は四國山脉と連り、大峰は六千二百尺あり。
- (二十三) 四國山脉 九州南部山脉に連絡す、劍山(七千三百九十尺)、石鎚山(七千七百八十尺)を高山とす。
- (二十四) 九州南部山脉 四國より連絡す、最高點を市房山(六千尺)とす。
- (二十五) 筑紫山脉 英彦山(三千八百尺)は名山にして、最高點は五千六百餘尺あり。

日本山岳の特色

日本群島の諸山脉は、大要右の如し。而して日本の山岳は、大陸の山岳と異なり、一種の特色あり、左に其一斑を説かん。

- 一、我邦は島國にして、其地體大陸の如く、廣大ならざるが故、山も狭小にして、傾斜急なり。
- 二、火山多きを以て、之を遠くより望めば、其形ち圓錐狀、即ち富士山の形を成し、之に近づけば奇岩峭壁或は舞ひ、或は躍り、變化極りなし。
- 三、周圍に海水を繞らし、雨霧多きを以て、山上に草木茂り、溪水混々と流れ、或は鳥聲幽谷にひびき、或は雲霧山嶺をまどひ、其變化、其趣味際りなく、人の耳目を樂ましむること少からず。
- 四、高山の嶺には、神社佛閣なきもの稀なるを以て、白衣の登山者、毎歲幾万なるを知らず。故に山徑開らけ又種々の異蹟多し。

山岳の功德

日本の山岳の特色此の如し、其人生に差し響くこと實に大なり、或は歌人、畫家を出し、或は忠臣、義士を造り、又は勇將、烈婦を成し、若しくは清人、高士を生ずる、其化育の功德、擧て言ふべからざるものあり。

噴火脈の配位

五 噴火脈

第十三地圖參照

地球の内部の火力、地皮の弱き處を破りて噴起し、熱灰、熔岩を積み、圓錐形の山を成す、即ち火山なり。此噴火の脈絡、本邦に於て、樺太、支那、兩系の山脉と並び馳するものあり、或は海中に島を噴き起して、點々列を成すものあり。其噴火脈大要左の如し。

- (一) 千島帶火山脈 魯領東塞加より、千島列島を過ぎ、北州に入り、千島帶山脉を起し、オプタテシクに止る。
- (二) 那須火山脈 北州の後志山麓の火山より、渡島山脉を経て、本土に入り、陸奥山脉に沿ひ、那須火山を中心として、富士帶火山脈に接す。
- (三) 岩木火山脈 是れ亦北州西部の火山地より、本土に入り、出羽山脉に沿ひ、富

土帶火山脈に接す、岩木山を主とす。

(四)彌彦火山脈 羽後の男鹿半島の寒風山より、粟島、彌彦山を起し、焼山群山に於て富士帯に入る。

(五)富士帯火山脈 太平洋中、マリアナ群島より、硫黄島、小笠原島、伊豆七島を経て、富士山となり、北陸の焼山群山に終る。

(六)御嶽火山脈 越中の立山より、飛騨山脈と並び馳せ、乗鞍岳を過き、御嶽に達す。

(七)能登火山脈 佐渡の金北山より、能登半島、隱岐島、見島、壹岐島を経て、五島に達す。

(八)白山火山脈 白山より大山を経て、青野山に終る。

(九)阿蘇火山脈 東は風來寺山より、伊豫の北際を過き、九州の中央阿蘇山を主とし、金峰山に達す。

(十)霧島帯火山脈 臺灣島より、琉球の河邊七島、櫻島を経て、霧島山を中心とし、温泉岳に止む。

噴火脈

著名の活火山



淺間火山之圖

以上噴火脈十線此内に(臺灣を除き)活火山を包むと、三十七坐、消火山百三十五坐なりと云ふ。日本は、獨り山國なるのみならず、實に火山國にして、時々烈しく噴火するとあり、近くは盤梯山及吾妻山の破裂を見よ。又著名の活火山は、富士山を首め、樽前山、岩木山、盤梯山、那須山、淺間山、三原山(大島)、由布岳(豊後)、阿蘇山、霧島山、櫻島岳等なり。而して本邦に於て、名山の稱あるものは、大抵火山質なり。

六 平野

第十二地圖及各區地圖參照

日本の平野

前に言へる如く、我國は山岳、岡陵多く、平地は全面積の九分一程なるを以て、大平原と稱すべきものなし、只山脉間の狭き谷、又は海岸の斜地に過ぎず。抑も平野は、米穀、野菜を作り、或は人々相集りて、製造、商賣をなす所なれば、國の文明上大切なるは勿論なれども、其地味宜しからざるか、又は河々の灌漑運送に便なるものなくば、たとひ大平原ありとも素より何の用もなし。

石狩平野

(一)北州の平野 石狩平原最も大なり、南北凡三十七里幅平均五里あり。石狩河及其支流、縦横に流れ地味最も肥へ、開拓漸く進み、既に鐵道の設あり。此外十勝等の平原も大なり。

關東平野

(二)本土北部の平野 關東平原は、四方凡三四十里、利根河等諸流の灌漑あり、且つ數個の湖沼あり、水利極めて善く、農産甚た饒なり。全國中、最豊富にして又最重要の平野なり。東京市を首め、人口一千万以上の都會廿一、其他の名邑算ふべからず。

北上阿武隈平野

北上阿武隈平野は、仙臺市を中央として、南北に長く、北上、阿武隈、兩河及鐵道之を貫き、市邑の重なるは、皆此兩河に沿へり。米、麥、蠶桑の要地なり。

山形米澤平野
越後平野

山形米澤平野は、最上川の灌漑にして、農産豊かなり。越後平野は、海濱一帯にして、長さ凡三十里、信濃、阿賀、二大河之を灌はし、地産甚多し。此に散在する都邑少からず。

濃尾平野

(三)本土南部の平野 濃尾平野は、木曾川と其支川の灌漑にして、廣さ十數里、地味肥へ、耕地、其地積の割合に大なる、全國比なく、名古屋を中心として、人口一千万以上の都會七個あり。

畿内平野

畿内平原は、淀川及大和川の平谷にして、河道開け、又鐵道あり。地味宜しく、殊に淀川の下流は、農産も人口も多く、二大市を首め、人口一千万以上の都會八ヶ所あり。

讃岐平野

(四)四國の平野 讃岐平野は、四國第一にして、伊豫の東部に亘る平地なり。

筑紫平野

(五)九州の平野 筑紫平野は、兩筑兩肥四國に連なる平野にして、穀産頗る多く、且其質よろし。

(六)臺灣の平野 臺灣島の西部一帯は、廣大の平野をなせり、未だ確實の調査なしと雖、其延長凡五十里餘、幅の廣き所十數里もあらん。地味概ね肥沃にして、農産物甚多し。

七 河流

第十二地圖及各區地圖參照

此邦は、山多く、雨數く降るにより、水流甚た繁し、彼の關東平原の如きは、殊にこれが一例とすべし。然れども、其水量、時々増減すると甚たし、夏と秋は、多く雨降り、或は山間の積雪解くるを以て、水量最も多く、冬と春は正にこれと相反せり。毎年夏期に於て、霖雨降るときは、山々の溪流俄に漲りて大流となり、或は石を流し、橋を破り、堤を決し、又は人畜家屋を損すると甚たし。故に洪水は、我邦に於て、一の恐るべき災厄といふべし。

水流多く、且つ人に害を及すと、此の如くなれども、前に説きたる如く、我邦は地體狹小にして、大なる河系を成すと能はず、大河と稱するものも、之を大陸の大河

水量

水害

河量

川流の利益

に比ぶれば、誠に小流と云ふべし。

我邦の川は、多くは山地を流るゝを以て、急流少からず、隨て水運に便ならざるもの多し。然れども、其沿岸は、通常道路を設けて往來に便し、又は灌漑に易く、或は漁利あるを以て、たとひ小流なればとて、多少の利益なきにあらず。

日本に於て、大河長流とも稱すべきは、北州の石狩河(長百六十一里)、本土の信濃河(一百里)にして、其他は、長さ百里に及ぶものなし。然れども、河流の利益は、其長きためのみに由りて起るものにあらず、彼の淀川の如き、其流短しと雖、其位置の大切なるを、水流穩なるかために、運漕の便利最も大なり。

(一)北州の河流

北州の河流は、多く東北、日高、千島帶、此三山脉の結節を分水界として、四方に流る。其中最も大なるを、石狩、天鹽、十勝の三川とす。石狩、十勝の二流は、其流急なれども、天鹽川は緩にして運輸に便なり。此諸川の流域は平にして、大原野を成し、將來益市邑の起るべき所なり。

(二)本土北部の河流

本土の北部、奥羽地方は、土地狹長にして、中央の陸奥山脉を以

北州の河流

本土北部の河流

本土中部の河流

て分水せらるゝか故、原來長流を成すべき地形に非ずと雖、幸にして大河流は、大抵分水山脈と平行し、南より北、又は北より南に流るゝを以て、斯くは長流をなせり。東側に於ては、北上、阿武隈、二川最も長く、西側に於ては、御物、最上、阿賀の三川最も大なり。其中最上は日本の三急流の一とす。

(三) 本土中部の河流

本土中部の河流は、概して信濃、飛騨の兩國を中心として、四方に注ぐ、詳に之を説けば、三國、關東、赤石、木曾、飛騨等の山脈に分水せられて、流下するなり。此地方は本土中部、地體最廣大なるか故、灌地亦最も大なり。大流を舉ぐれば、南に利根河、富士川、天龍川、木曾川あり、北に信濃河、並に神通川、射水川あり、而して其下流には、大平原及大都會數多あり。南北の低地より、信濃、飛騨の山地に通ずる道路は、皆此等諸川の沿岸に開けたり。

畿内附近の河流

(四) 畿内附近の河流

此部分の水流は、鈴鹿、紀伊、兩山脈、並に中國山脈の諸山より發源するものにして、長流あるなし。稍大なるは、宮川、熊野川、紀伊川、淀川のみ。然れども、淀川は、上に大湖を受け、下は畿内平野を流れ、殊に二大都會を連接するを以て、最も大切なり。其他は四方より大和の山地に登るべき交通線をなせり。

中國の河流

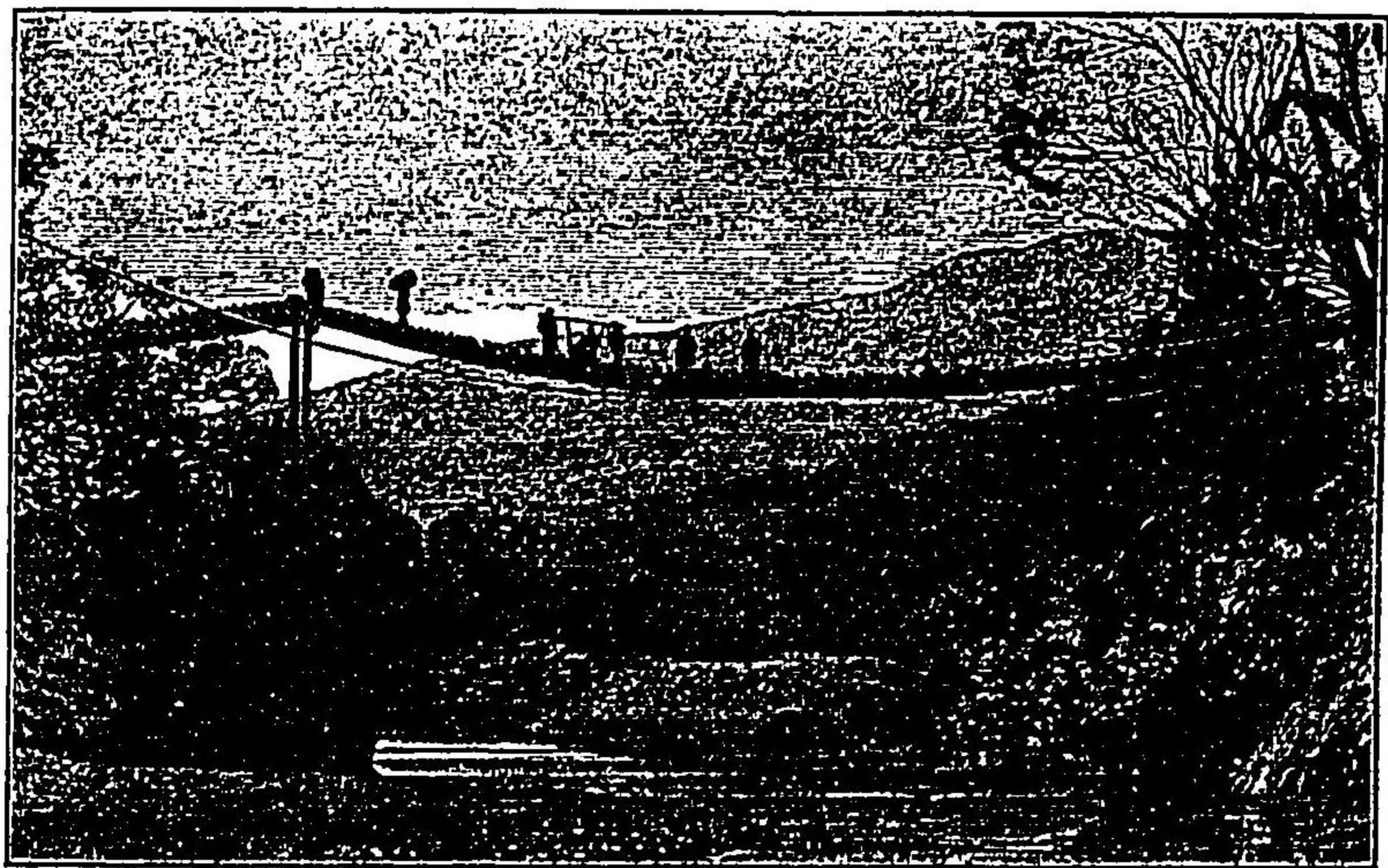
(五) 中國の河流

此部は、其地體與羽地方よりも一層狭きのみならず、單に中國山脈東西に走するのみにして、與羽の如く平行山脈なく、河流多くは脊骨狀山脈より、南北に直下するを以て、長流を成すと能はず。五十里以上を流るるは、僅に江川のみ、其他は加古川、岡山川、由良川を重なるものとす。去りなから此水脈は彼の與羽の諸川の如く、南北の交通線路を開くと少なからず。

四國の河流

(六) 四國の河流

四國の河流は、四國山脈に分水せられて、四方に注ぐ、就中長流は、吉野川にして、其水域は著名の農産地なり。其他は、那賀川、仁淀



橋釣の川士宮

九州の河流

川・渡川とす。何れも其沿岸は交通の線路なり。

(七)九州の河流 此水脈は、筑紫山脉と九州南部山脉を分水嶺として、概して東或は西に注ぎ、東西の交通線を開通せり。然れども、此島の地體も、四國中、國と同じく、狭小なるを以て、大流を生せず。東側の、大野川、五箇瀬川、西側の、筑後川、球摩川、川内川を重なるものとす。球摩川は、最上、富士二川と共に、三急流の名あり。川内川は、九州の最長流なり。

臺灣の河流

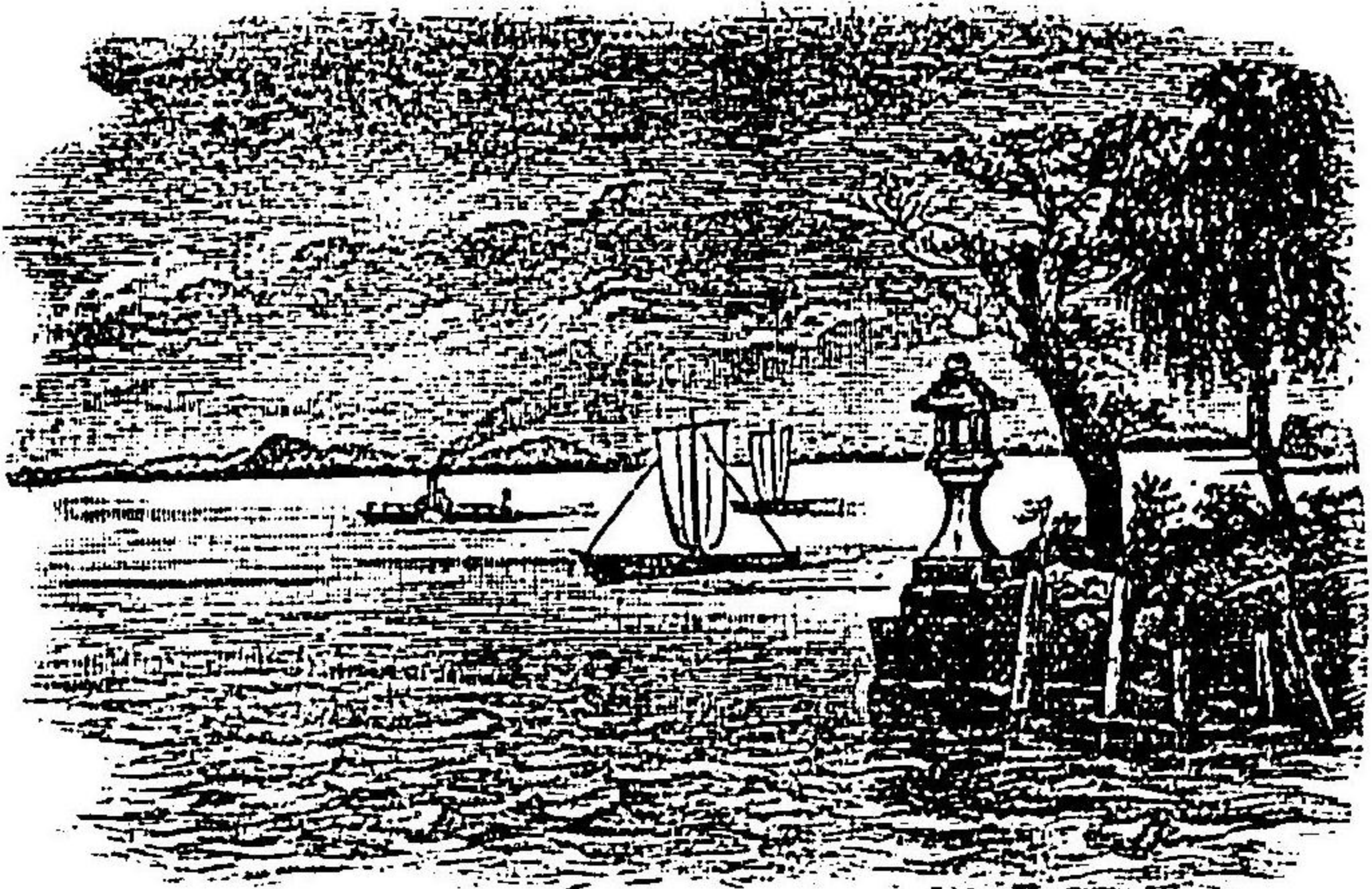
(八)臺灣の河流 此島は、脊骨山脉を分水界とし、概して水を東西に注下す。其山岳は、富士山を凌ぐもの一座あり、又其脈南北に分れ、中間に長谷あるを以て、或は更に長流あるも知るべからずと雖、今知る所を以てすれば、二十五六里の淡水川最も長く、其他は西岸の大肚溪、濁水溪、袋港河、等にして多少漚運の便あり。

四十里以上の河流

| | | | | | |
|------|--------|-----|-------|-----|-------|
| 石狩河 | (二六一里) | 最上川 | (六二里) | 江川 | (五〇里) |
| 信濃河 | (二〇〇里) | 天龍川 | (六〇里) | 紀伊川 | (四七里) |
| 北上川 | (七九里) | 射水川 | (五八里) | 川内川 | (四六里) |
| 阿武隈川 | (七七里) | 阿賀川 | (五七里) | 大井川 | (四六里) |
| 利根川 | (七二里) | 神通川 | (五二里) | 那珂川 | (四二里) |
| 天鹽川 | (七八里) | 十勝川 | (五〇里) | 吉野川 | (四二里) |
| 木曾川 | (六六里) | | | | (四一里) |

八 湖沼

第十二地圖及各區地圖參照



湖 沼 概

本邦湖沼の起原を尋ねれば、四種に區別すべし。(一)山谷の凹處に、水の溜りしもの。(二)地面の陥りたる凹處に水を湛へたるもの。(三)火山の噴火口に水の溜りしもの。又(四)以前内海、或は灣の如きものが、陸地の變動のために、湖沼となりたるもの、又は風濤のために、海岸に沙丘を築き遂に潟をなしたるものなり。大なる湖沼は、北州と本土の中にあるのみ、而して其周圍十里以上のものは、僅に十二、三に過ぎず、三里以上のものは、全國に凡そ四十餘あり。

原湖沼の起

布湖沼の配

北州の湖
本土の湖

北州の大湖は、猿間沼、楓蓮湖とす、之に次くもの五六あり(其大要は地方誌に記したれば、此に畧す、以下之に倣ふ)。本土には、小河原沼、十和田湖、八郎潟、中禪寺湖、霞浦、印旛沼、蘆湖以上は本土の北部にあり。又南部には、諏訪湖、北潟、琵琶湖、中海湖、安道湖あり。臺灣には、小湖多く、中央部に水社湖と稱する大湖あり、生蕃其周邊に住するといふ。

右の中、琵琶湖は、全國の最大湖にして、本土列島の中央に位し、霞浦之に次ぎ、其他は大き著しく劣れり。

| | | |
|-------------|------------|------------|
| 琵琶湖 (周回六〇里) | 中海湖 (二六里) | 安道湖 (二三里) |
| 霞浦 (三六里) | 八郎潟 (二五里) | 印旛沼 (二二里) |
| 猿間沼 (二八里) | 楓蓮湖 (二五里) | 十和田湖 (二〇里) |
| 猪苗代湖 (二六里) | 小河原沼 (二三里) | 洞爺湖 (二〇里) |

九 鑛泉

鑛泉に、溫泉と冷泉の別あり。溫泉は地中の水、地熱のために暖められて、地中

の鑛物を熔し、之を含みたるまゝ、湧き出づるものにして、冷泉は、其地上に湧き出づるまでに、熱を失ひたるものなり。故に性質は異ならされども、其温度、氣温以上にあると否らざるとによりて區別するのみ、而して溫泉の温度は、攝氏四十度乃至五十度のもの最多けれども、或は九十度以上のものあり。要するに、鑛泉は火山地方に多し。

又鑛泉の性質に、種々の區別あり。日本には、硫黄泉最も多く、鹽類泉、鹽泉、之に次ぎ、炭酸泉、鐵泉は、較、少し。

日本(臺灣は暫らく之を除く)の鑛泉は、其數一千餘にして著名のもの四百數十あり。其中北州に二十餘、渡島、後志に多し。本土に三百餘、東山道に最多し。中國に三十餘、山陰に多し。四國に九、九州に凡七十、豊後、肥後、薩摩に多し。日本の如く鑛泉に富む國は、世界中他に之れなし。溫泉場は、多く山中にあり、或は水に臨み、風景佳なり。中等以下の人も自由に之に浴し、或は病を治し、或は氣を養ふと容易なり、寔に我國民の幸福と云ふべし。溫泉場の最顯著なるは、羽

鑛泉の性質

鑛泉の數及配布

溫泉の恩惠

著名の溫泉場

後の泥湯、羽前の赤湯、陸前の青根、岩代の飯阪、東山、上野の草津、伊香保、相摸の箱根、伊豆の熱海、能登の和倉、攝津の有馬、伊豫の道後、豊後の別府、薩摩の摺瀨の如きこれなり。臺灣にも温泉多しといふ。

十 地震

日本は、海國、山國、火山國、温泉國なるが如く、亦地震國なり。微震をも合算すれば、毎日一回と三分の地震あり。近年の調査に據れば、古來大地震と稱すべきものは、平均十二年半に、一回の割合なり。又之を四季に區別すれば、地震は冬季に



濃尾大地震竹ノ鼻

地震の度

於て最多し。

地震配布

西南地方は、地震少くして弱く、中土は地震多くして強し、殊に關東平原、仙臺平原、北州、濃尾平原は、地震最も多し。臺灣も、火山と共に地震多しといふ。

大地震の例

日本には、古來大地震少からずと雖、近時の例を擧ぐれば、安政二年(明治三十年より四十年前十月、江戸に大地震あり、斷續すると一ヶ月餘に亘り、家屋の倒れしは勿論、死人十萬四千人に至れり。明治廿四年、濃尾平原大地震あり、死人は安政の如く多からざるも、震動は之よりも激しかりしならんといふ。明治廿七年、羽後の酒田に大震あり、全市殆破壊せり。

地震の源

扱地震の起るは、何に源因するや、近年の學說に従へば、火山の破裂、地層の陥落、又は地沁り、此三源因あり。日本は火山國なるを以て、火山破裂のために地震を起すこと少からず。

十一 氣候

第十四及第十五地圖參照

氣候變化の諸因

凡そ寒暖は、緯度の高低、即ち赤道よりの距離に隨て、變ずるものにして、本書の

發端に説きたる、五帶の區別も、全く是によるなり。然れども、地勢、風向、海流、海への距離、雨量等によりて、亦季候大に變するものとす。

日本群島は、千島の極北より、臺灣の極南に至るまで、南北の長さ、凡そ一千百里あり、且つ地勢の變化甚しく、又暖流と寒流に圍まるる故に、全國各地の季候、大差あるは勿論なれども、之を亞細亞大陸の氣候に較ぶれば、寒暑ともに溫和なり。是れ重に島國にして、海氣を受ると多く、殊に暖海流の差し響きを受くること大なるに由るなり。

氣温 全國の年平均温度は、十二度六分にして、佛蘭西及支那中部の温度と大抵同様なり。(空氣の温度は攝氏寒暖計に據る華氏寒暖計との比較圖並に換算法は凡例に掲ぐ参照すべし)

各地温度

| 觀測地名 | 年平均 | 一月 | 八月 | 寒暖差 |
|-----------|------|------|------|------|
| 南 沙(臺灣南端) | 二四、〇 | 一九、〇 | 二七、〇 | 八、〇 |
| 基隆 | 二二、〇 | 一四、四 | 二九、〇 | 一四、六 |

| 那 覇 | 長 崎 | 廣 島 | 和 歌 山 | 東 京 | 金 澤 | 箱 館 | 浦 鹽 斯 德 | 北 京 | 上 海 | 釜 山 | ソ ン フ ラ ン シ ョ |
|------|------|------|-------|------|------|------|---------|------|------|------|---------------|
| 二二、六 | 一五、九 | 一四、五 | 一五、一 | 一三、八 | 一三、一 | 八、二 | 三、七 | 一、八 | 一五、二 | 一三、九 | 一一、〇 |
| (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) | (一) |
| 一六、一 | 五、五 | 三、三 | 四、三 | 二、六 | 一、九 | 四、〇 | 一六、〇 | 四、六 | 三、五 | 二、二 | 三、三 |
| 二七、七 | 二六、九 | 二六、八 | 二六、八 | 二五、六 | 二五、七 | 二一、三 | 一九、八 | 二四、六 | 二七、〇 | 二三、七 | 一六、一 |
| 一一、六 | 二一、四 | 二三、五 | 二三、五 | 二三、〇 | 二三、八 | 二五、二 | 三五、八 | 二九、二 | 二三、五 | 二一、五 | 一一、八 |
| 六、四 | | | | | | | | | | | |

表中(一)は零點下の印なり。此表は南沙、基隆及那覇の外、本邦各地の温暖は、

明治十七年より二十六年に至る十年間の平均温度なり。

風向

風向 凡そ風は、寒き方より、熱き方に向て吹くものなり。亞細亞大陸の内
地は、日本群島及東南太平洋に較ぶれば、寒暑ともに強し。右の次第なれば、五月
頃より九月頃に至る暖候には、日本國は太平洋より大陸の内部に向て吹く南風、
又は東南風の通路となり、之に反して、寒候には、大陸の方より、太平洋に向て吹く
西北風、又は北風の通路となるなり。之に由りて、日本の寒暖二季の風向を知る
べし。

寒暖二季の風向

大風

毎年八九月頃に大風起ると常なり、古來二百十日(舊曆)の厄日と稱するも、即ち
此頃の事なり。此大風は、通常臺灣の近海に起り、或は直に九州、四國、中國の邊
を襲ひ、それより日本海の方に進み、それより北部地方を過くるとあり、或は朝鮮、
支那を経て、我國に來るとあり。此大風は九月に最多し。

雨雪

雨雪 日本國土は、山岳、森林多く、海水周圍を繞くるを以て、降雨(雪)をも
含むの分量多し。左表を以て、近隣諸國との比較を見るへし。

| | | | |
|----|-------------------------|----------|------------------------|
| 日本 | 一五七〇 <small>ポンド</small> | 浦鹽斯德 | 三七〇 <small>ポンド</small> |
| 上海 | 一一〇〇 <small>ポンド</small> | サンフランシスコ | 五一〇 <small>ポンド</small> |
| 北京 | 八一〇 <small>ポンド</small> | | |

霖雨

年中雨の多きは、寒候にあらずして、暖候なり、殊に毎年六月は梅雨とて長雨打
續き、凡そ三十日間は、天氣濛々として晴天稀なり。然ども、或は空梅雨と稱し、一
滴の降雨なきともあり。又九月頃にも霖雨あり、此時候には、往々諸方の河水増
して、洪水の起るとあり。之に反して寒候には、晴天多く、殊に東海、南海の邊は、
十月末より、十一月始めの頃は、天氣長閑にて、赤蜻蛉空中に舞ひ、時候身體に適せ
り、之を十月の小春と稱す。右の如く日本に於ては、概して暖候を雨期とし、寒候
を乾期とす。

雪地

雪は、太平洋海岸に少く、日本海岸に多し。殊に加賀、能登、越中、越後、並に兩羽
地方には、最も多く、平地にても、積雪三、四尺に及び、山間にては、一丈、乃至二丈に
も達するとあり。毎年十一月頃より、翌年三月頃迄は、此地方は一面の銀世界な

り。故に家屋の構造方、自から他と異なるものあり。又此他内地にも、山城、美濃、飛騨の如く、降雪少からざる所あり。要するに、南部は雨量多く、北部は少し。さて各地方の雨雪量並に其多寡の理由は、大畧左の如し。

多雨地方 (一)北陸地方

は一年の雨量一千七百耗乃至二千七百耗にして、是れ主として、日本海より昇る水蒸氣冬の西北風のため、に山脈に觸れ凝りて、此地方に降るによるなり。

(二)北海道と九州の南部は雨量一千三百耗乃至二千七百七十耗あり。是れ重に太平洋の水蒸氣を、南



北越地方積雪

多雨の理由

寡雨の理由

風の送り來るに因るなり。

(三)臺灣の北部淡水基隆には、二千三百耗乃至三千耗の雨量あり。

寡雨地方 (一)内海の周邊地方は雨量九百六十耗乃至一千八百耗なり。これ九州、

中國四國及紀伊の諸山脈、其四方を圍みて、南北兩海の水蒸氣を遮きり止むるによるなり。

(二)本土の中央部、即ち信濃、兩野より、岩代の邊は、雨量粗内海の周圍と同じ、これ内地にして海氣を受くると、少きによるなり。

(三)仙台灣以北の海岸より、北州の東部は、一千二百耗乃至九百耗の少量なり。是れ親潮寒流に接するか故なり。

十二 生物

植物

日本群島は、南北に長く連なり、北は千島の北端より、南は臺灣に至るまで、一千百餘里に亘るを以て、温帯は勿論、寒熱二帯の動植物をも、多少發生す、殊に四方海を周らし、雨量多きを以て、動植物の種類極めて多し。

植物

植物は、常緑樹多く、森林は大抵年中青々として美麗なり。樹木の重なるは、樅、杉、公孫樹、赤松、黒松、五鬚松、山毛櫨、柯樹、榲、山茶、茶梅、橡、栗、榾、櫟、榿、檜、樟、楠、檜、櫻、梅、楓の類なり。又北地には赤楊、蝦夷松、ハイ松、榎松、羅漢松等あり。台灣等の南地には樟、榕樹、羊齒、烏木、露兜樹、檳榔樹（硬木にして長六十尺、直径八九尺あり）楝、椰子、龍眼肉、芭蕉實、芒果等の類あり。此外、海産植物も其數少からず。

動物

動物 動物を観るも、魚、鳥、及蟲類は、我邦に最多く、殊に魚類は、古來曾て缺乏したるとなし。彼の河豚、鳥介、鱧、青串魚、鯉、鮪、チサガメ、オホカワホリ、ウミガメ、珊瑚の類は、北陸、東海の邊より、南方諸島に産し、鯊、鱈、鯨、鮭、海鰻、鰐、海獅、海象、海豹、鰻、鰩



芭蕉實

獸の類は、凡そ兩羽、三陸以北に住す。鯢魚は、中部地方の清溪に住する、稀有の動物にして歐米諸國に産せずといふ。臺灣には、鳥なけれども、水牛最多く、耕作運輸に使用し、其肉は食料とす。山猫及豹も、山中に少からずといふ。

第四章 人文總論

一 人口

人口は、四千四百三十一万餘あり、之を全國の面積凡そ二万七千六十二方里に配當すれば、一方里に、凡そ一千六百餘人（之を一方哩に配當すれば凡二百七十人餘）なり。世界の各國中白耳義、英吉利（本國）等の二三國を除けば、我國の人口最稠密なり。

全國中、人口最稠密なる地方は、關東平野の東京府を中心とせる、四府縣（一方里に三千七百乃至一万四千五百、東京市中央の如きは、十万以上なり）幾内平野の大坂、京都、二府（三千、乃至一万二千）、濃尾平野の愛知縣（四、五千）、及讚岐平野の香川縣（五千九百）にして、人口の稀疎なる地方は、北州（凡そ九十七）を首めとし、奥羽の青森、岩手、秋田の三縣（七百七十、乃至九百六十）、九州の宮崎縣（九百）とす。

人口の密度

人口稠密の地方

人口稀薄の地方

人口増加の割合

華士族平民の數

市町村の區別

人口増加の割合は如何、明治二十五年より、同二十七年に至る三年間の平均一年の増加は、凡そ三十七万人なり。又壯年者（二十歳以上、五十歳以下）は、總人口の大約三分一強を占む。

國民の三階級、華族、士族、平民の中、華族は其數甚少きを以て、これを措き、士族と平民の數を比すれば、一と二十一との比例をなす。今記臆に便せんかため、左に各族の概數を掲ぐ。

| | |
|----|-------------|
| 華族 | 四、〇〇〇人 |
| 士族 | 二、〇〇〇、〇〇〇人 |
| 平民 | 四二、〇〇〇、〇〇〇人 |

一一 都會

日本の都邑には、市、町、村の區別あり。此區別は、單に人口の多寡に従ふのみならず、市にして町よりも、人口少なきもあり、村の人口、町の人口よりも多きも

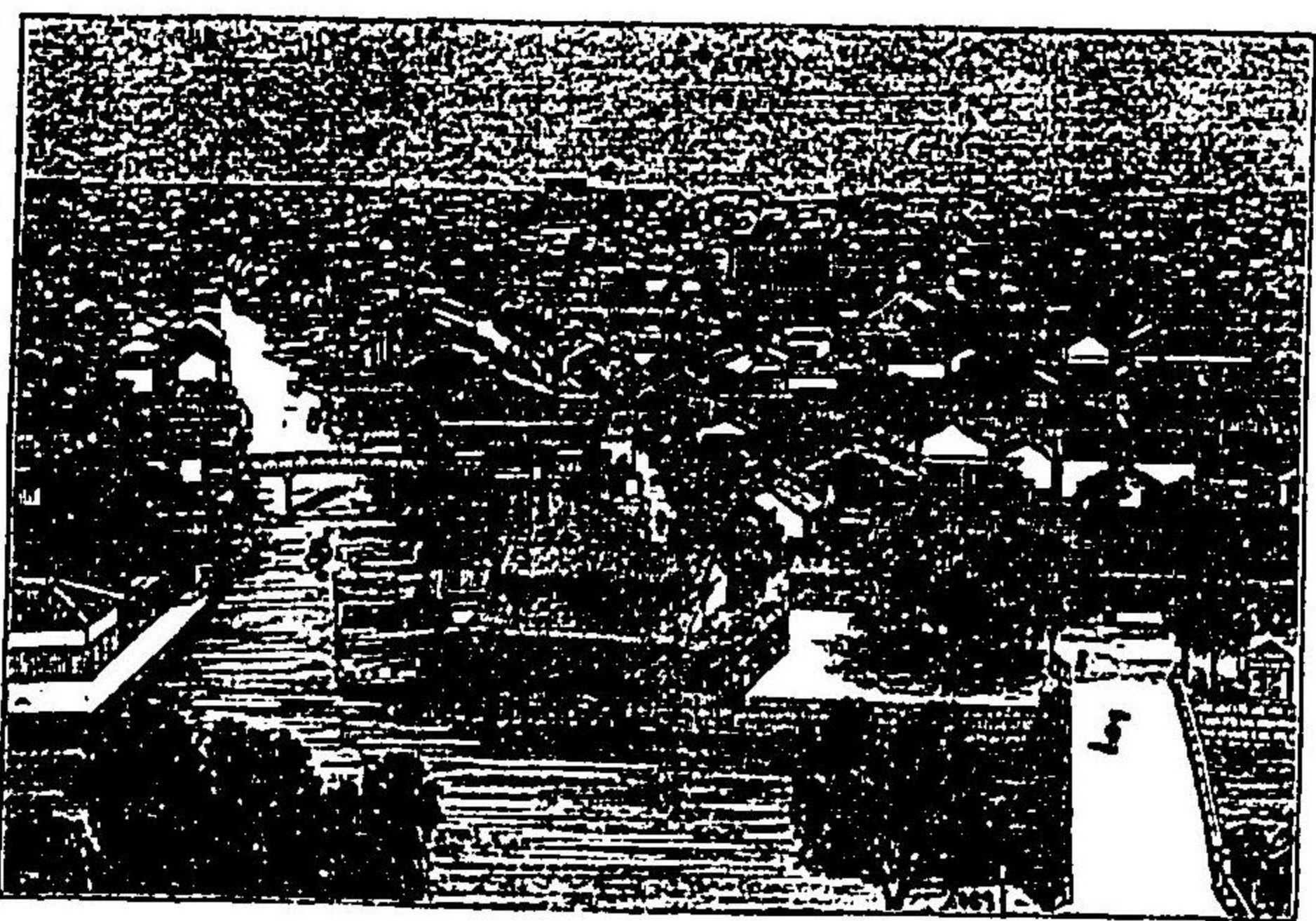
都會の人口

あり、然れども、要するに市の人口は何つれも二万五千以上あり(北海道、琉球、臺灣は市町村の區別未立たず)。

今人口の多少に従て、都會の大小を區別すれば、大抵左の如し。

- 人口廿万以上……………四(東京、大阪、京都、名古屋)
- 人口十万以上……………四(横浜、神戸、臺南、廣島)
- 人口八万以上……………一(金澤)
- 人口六万以上……………五(仙臺、長崎、徳島、盛北、福岡)
- 人口五万以上……………六(熊本、函館、富山、和歌山、鹿児島、岡山、新潟)
- 人口三万以上……………二十一
- 人口一万以上……………百四十

都會は、多く如何なる地勢の處に發生するや、地圖を披ひて見よ、河流灌域の平地か、否らずは、海灣の沿岸にあらずや、これ主として其交通に



大阪市

便利なると、産物の饒なるとに因る。例へば

- (一)東京は海灣に臨み、河流に憑り、且つ關東の大平原を控へ、其の周邊に人口一千万以上の都會二十餘あり、又交通自在にして、貨物の四集するもの計るべからず、誠に帝國の首都たる形象を備へたり。
- (二)大阪、京都の二市を見よ、これ亦西南に海灣を控へ、東北は太湖に接し、且つ河流の縦横する平野に立ち、而して其附近に、人口一千万以上の都會數十個あり。
- (三)此他名古屋、横濱、神戸、金澤、廣島、仙臺、臺南、盛北等の都會の所在を吟味せよ、各多少天然の形勝に據らざるはなし。

×三 食物

邦人の食料

邦人は、重に米、麥、野菜を食ひ、魚鳥の外は、概して肉類を喫ふもの少し。これ氣候の暖なるより、自然に習慣となりしなるべけれども、亦佛法の古來久しく行はれたる爲めにも由るならん。然れども、近時は西洋の文明を輸入したると共に、

僻地の食物

肉食漸く行はれ、牛肉、豚肉、並に牛乳の飲食料に供せらるもの年々増加するなり。而して四周の海水及河湖に産する魚族も、亦勿論從來の食料にして、其額舉て算すべからず。

然れども、偏陬の村落、山間に於ては、稗、蕎麥、粟、里芋、若くは、桃、栗、橡、柏等の實を常食とするもの少からず。又沖細諸島等の人民は、常に甘藷を食とし、凶年には、蘇鐵を以て其不足を補ふといふ。然れども、要するに、平年は大抵國內に足りて、外國に需むるの要なし。

×四 家屋

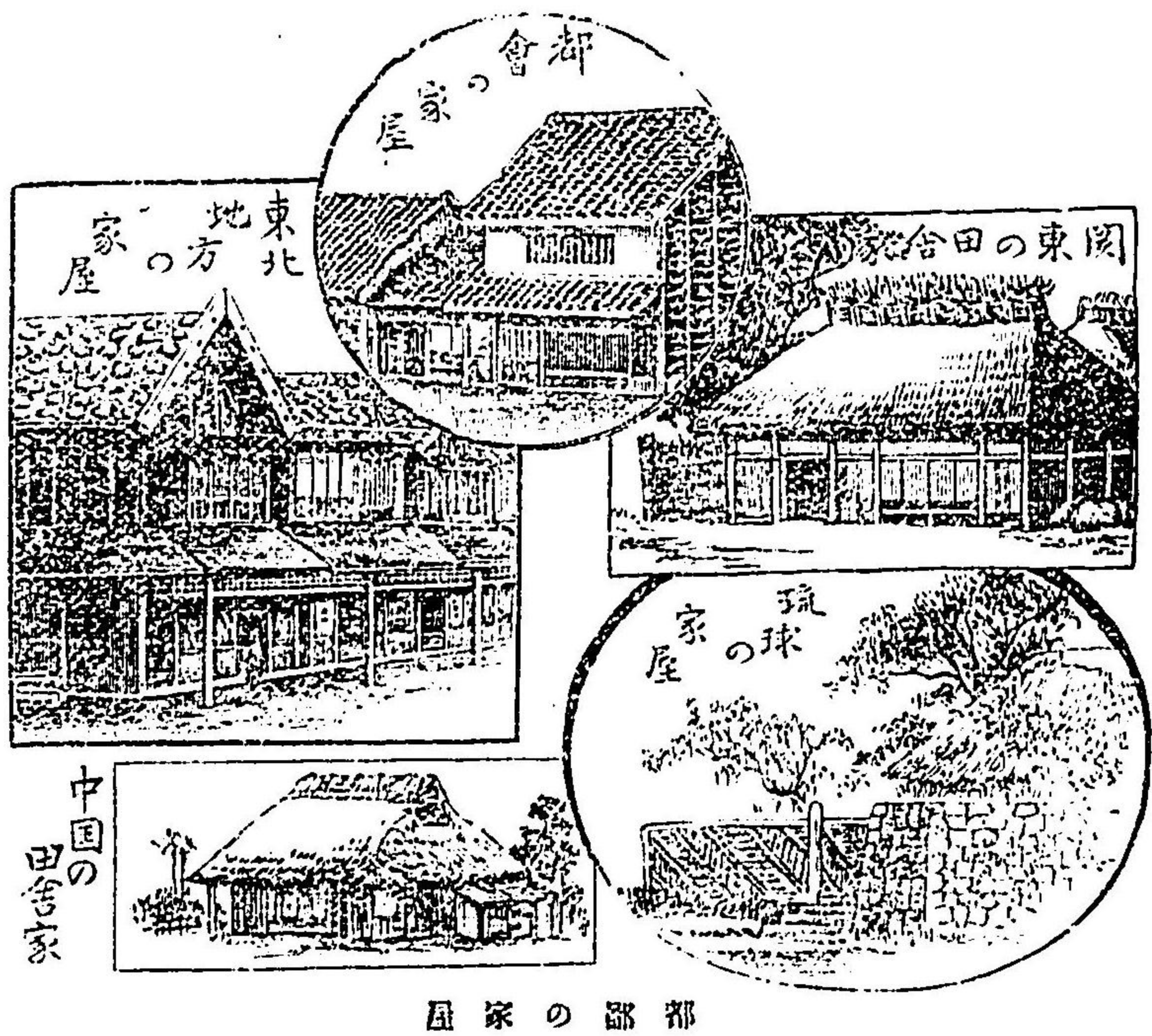
種々の家屋

家屋は、土地の情況により、又は貧富の差異により、種々様々にして、一様ならず。都會の家屋は、瓦葺き多く、田舎は、大抵草葺なり。海岸にして強風多き所は、牆壁を堅くし、雪地に於ては、特に其構造を強固にし、屋上を板葺とし、又其檐庇を長くす。或は熱地の家は、大抵粗造なれども、寒地の家は、自から堅固なり。又火災多き都會には、土藏として一種の耐火家屋あり。此の如く、種々の事情に従

家屋の建築

て、家屋の建築法、亦變化極りなけれども、要するに、日本には、木材餘りあるを以て、家屋は大抵木造なり。

然れども、近頃は、西洋風の建築漸く、都鄙に行はれ、其多分は木造なるも、煉瓦造、又は石造は、火災に堪るをもて、一時世間に流行し、都會の官衙、工場、學校、兵營の類にして、煉瓦造りのもの追々増加したれども、數年以來、二三回の大地震ありて、粗造の煉瓦屋破壊したるもの少からず。是に於て、人々一層耐震家屋の必要を感じるに至れり。勿論煉瓦造りなればとて、建築其法を



都鄙の家

家屋の焼失

得れば固より震災に耐ゆるの力あり、又木造の西洋造りは、能く地震に耐ゆるの稱あり。此他城塞殿堂等一種の築造あり、讀者自から實物に就て觀察すべし。家屋の焼失數は、全國中平均年々殆んど四万戸にして、戸數一方につき五十二戸の割合なり、其災害甚大なりと云ふべし。然れども、近年火災の保險漸く廣く行はれ、罹災者の災厄を減すると少からざるべし。

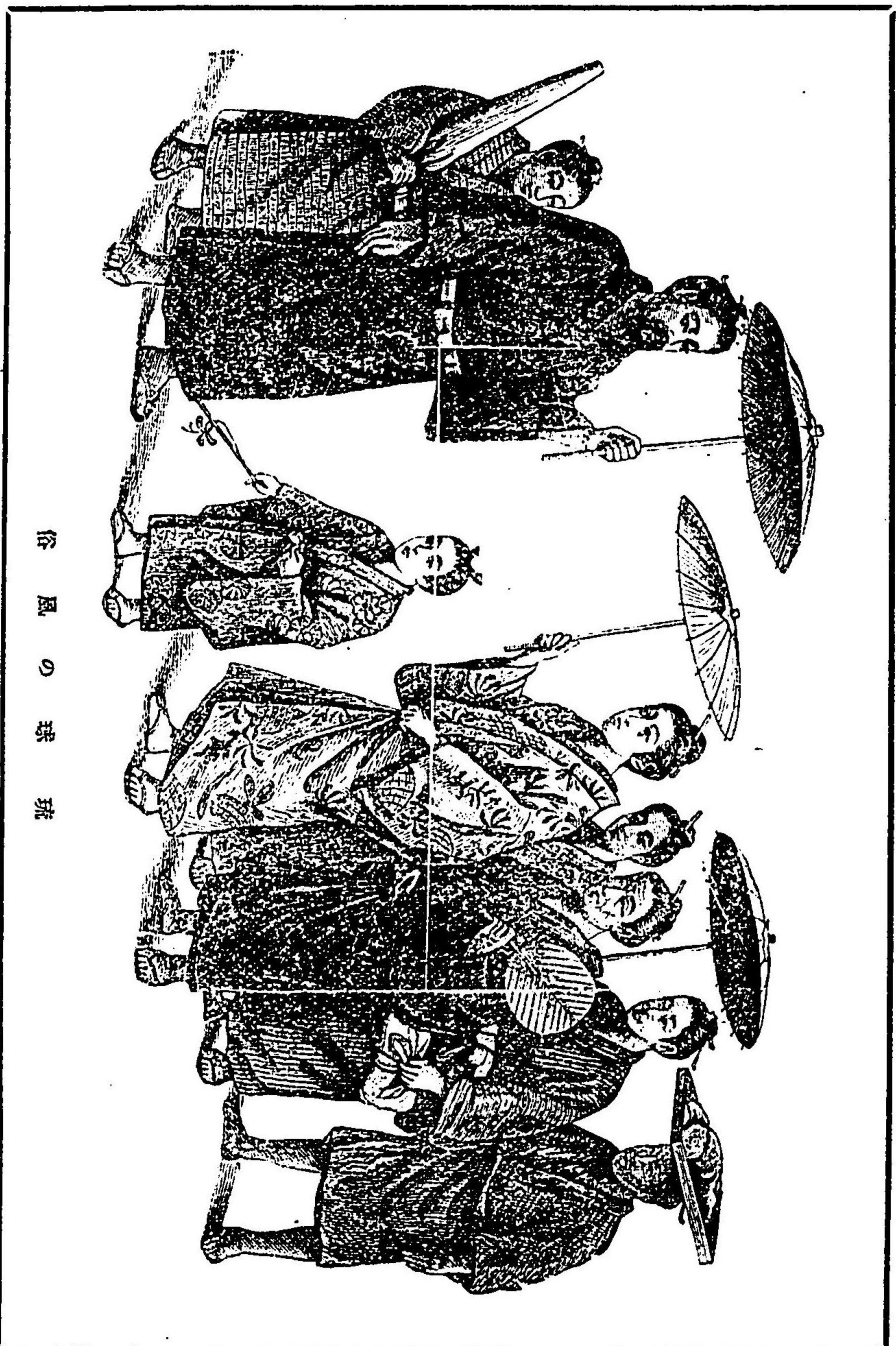
×五 衣服

常服

吾々の衣服は、和洋兩様あり。服制一定せず、或は衣のみを着するあり、又は羽織をまどひ、若くは袴を穿つあり、或は洋服を被るあり、種々様々にして、之に加ふるに、神官、僧侶の衣服、並に北方のアイヌ風、南地の琉球、及臺灣の風を以てすれば、其種類頗る煩雜なり。冠履の如きも、其種別甚多し、日本の衣服は、世界中最多様のものと謂ふべし。

禮服

文武官の禮服は、一定の制あり。普通人民の、男子の禮服は、黒燕尾服、洋服な



俗風の琉球

衣服の材料

り。通例は、羽織袴を以て、禮服と見做せり。女子は、通常紋附白襟を禮服とすれども、高貴のものは、西洋禮服を着するもの少からず。
邦人の衣服は、綿布を以て製するもの多く、絹布、麻布は價高くして、之を常服に用ゆるもの少し。然れども我邦は養蠶業最盛なるを以て、中等以下の人々も絹布を有するもの多し、是れ歐米諸國に見ざる所なりといふ。又近頃は西洋風に倣ひ、毛布を着ると流行し、其材料は外國に仰くもの多し。

×六 風俗

固有の風俗

本邦の風俗は、一種固有のもの少からず。就中、外國に稀有の異風あり、或は世界に無類の奇風あり、一々擧ぐるに違あらず。今其著るしきものを言はん。

着坐法

膝を折りて着坐するとは、外國にも類似の風なきにあらざれども、邦人の着坐法は、一種異なれり、或は之れかため、身體の發達を害するとの説あり。女子の髪様は、亦一種奇態の趣あり、間、西洋の束髮風も行はると雖、多數の女子は、舊風

髮様



俗風の夷殿

染齒

剃眉

文身

に従へり。維新以前は男子も皆髪を結び、而して多くは其前髪を剃りて、半髪となせしが、今日は其舊様を守るもの甚稀なり。

女子は古來齒を鐵漿にて染め、又眉を剃るの奇風あり。小兒生れて、十歳前後に至るまでは、男女共概して眉を剃り、女子は後年嫁すれば、復た眉を剃り、且つ齒を染むるなり。此等の風は、近時其天然に悖るを悟り、大に減少したれども、今尙ほ此舊風を奉ずるもの多し。

文身の風は、内地には殆んど其跡を断ちたるか如きも、下等の賤民中には、今尙ほ稀に之を見ることがあり。又アイヌ及琉球の婦女子は、唇の周圍、又は手背等に黥するの風あり。臺灣の支那種人民は、其風俗支那人と粗同しく、種々の弊風ありと雖、此等は遠からず跡を絶つに至るべし。其蕃人は、様々の奇風ありといふ。

此他内地に行はるゝ遊戯と見做すべきものゝ中、茶湯、插花、圍碁、將碁、さては能樂、角力、講談、落語等の如きも亦本邦に一種特別のものなり。

衛生の進歩

又七. 衛生

一身の養生を説くとは、久しく行はれ來りたるも、今日の如く廣く衛生上諸般の事を談するは、凡二十餘年以來のことなり。

近年は、上水、下水の事漸く世人の注意する所となり、殊に東京、大阪の如き、大市街に於ては、舊來の水道を改築して、西洋風の水道となさんとし、或は新に水道を設くるの舉あり、横濱市の如き、既に之を成就し、其利便少からず。又我國に於ては、幸に沐浴を好むの良風あり、下等人民も、皆その惠を被るを得るは、外國に殆んど其例なき所にして、實に邦人の幸福と云ふべし。

醫術

西洋の學術の中、先づ日本に入りたるは、醫術にして、隨て其進歩最も速く、現今醫師の總數は、凡四万三千あり、人口一千に付凡そ一人の割合とす。又病院の數は、五百八十九にして、其中凡四十は東京に、三十は大阪にあり、千葉、神奈川の二縣にも、各三十内外の病院あり。

宗教の種

神道

佛教

基督教

八 宗教

日本に於て、今日宗教として見るべきもの三あり、神道、佛教、基督教とす。此中、人民の最も多く歸依するは佛教にして、其他は勢力微々たり。○神道は一定の主神あるにあらず、或は天神を祭祀し、或は絶倫の武將、又は稀代の賢人を崇拜するのみ、又幽冥界の事を説かず。神道に十數派の別あり。○佛教は、我紀元一千二百十二年、日本に入りてより時々盛衰ありと雖、爾來歲月久くして、名僧、知識を出せしと少からざるを以て、國民の之を信するもの最も多く、且つ廣し。其派分れて、十二あり、天台、眞言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞、日蓮等とす。全國の寺院總て七万一千餘、住職五万二千餘(内尼六百餘人)あり。

基督教は後奈良天皇の時、始めて本邦に入り、一時は全國の信徒三十万に及びしが、其後時の政府嚴に之を禁し、維新後に至りて、其禁を弛め、爾來漸く各地に行はる。基督教に、三派あり、天主教(羅馬教)、正教(希臘教)、新教(プロテスタント)

とす、各派の教義、大に異なる所あり。就中、新教は、概して最も改良進歩せり、決して混同すべからず。三派信徒の總數(廿六年)、九万五千餘(殆んど半數は天主教信者)、會堂八百八十、傳道者凡一千六百人なり。



台 粉 生 菴

×九 教育

教育の沿革

維新後の教育

我國の教育は、其由來頗る古るく、一千有餘年前の古、既に京師に學校あり。降りて徳川幕府の時、文武の教育最も盛にして、各地の諸侯、相競ふて藩學を起せり。明治維新の後には、西洋の教育法に倣ひ、各郡、各村に小學を起し、又中學、大學、各種學校、漸く備はり、百科の學藝次第に進歩するに至れり。是れ實に古今未曾有の盛事とす。征清の一擧を以て、我國の光榮を世界に輝したるも、畢竟教育普及の結果と謂ふべし。今左に諸學校の概要を記すべし。

- (一) 小學校 尋常、高等の別あり、其數凡三万六千六百餘、生徒三百六十七万餘あり。
- (二) 尋常中學校 中等以上の業務に従事せんとするもの、又は更に高等の學問を修めんと欲するもの、入る所にして、各府縣、大抵一個以上あり、合計九千六百餘あり。
- (三) 高等女學校 中等以上の女兒、之に入る、其數甚僅少にして、十五なり。
- (四) 高等學校 専門の學術を修めんとする者、又は進んで大學に入らんとする

者の爲めに設く、東京、仙臺、京都、金澤、熊本、山口の六個あり。

- (五) 帝國大學 二個にして東京と京都にあり、一は法科、醫科、工科、文科、理科、農科の六分科大學より成り、一は理工科のみにして設備未だ完からず。各科の上に大學院を設け、更に深奥の學理を研究する所とす。

- (六) 師範學校 尋常、高等の別あり、共に教師を養成する所にして、尋常師範學校は、各府縣に一個、高等師範學校は、東京に二個(男女)を設く。

- (七) 右の外、實業補修學校五十五あり、専門學校一百餘あり、農工、商業、航海、電信、音樂、美術、兵學等を合む。又各種學校、其數凡一千二百餘あり。幼稚園百六十餘、書籍館二十五あり。

×十 文事、美術

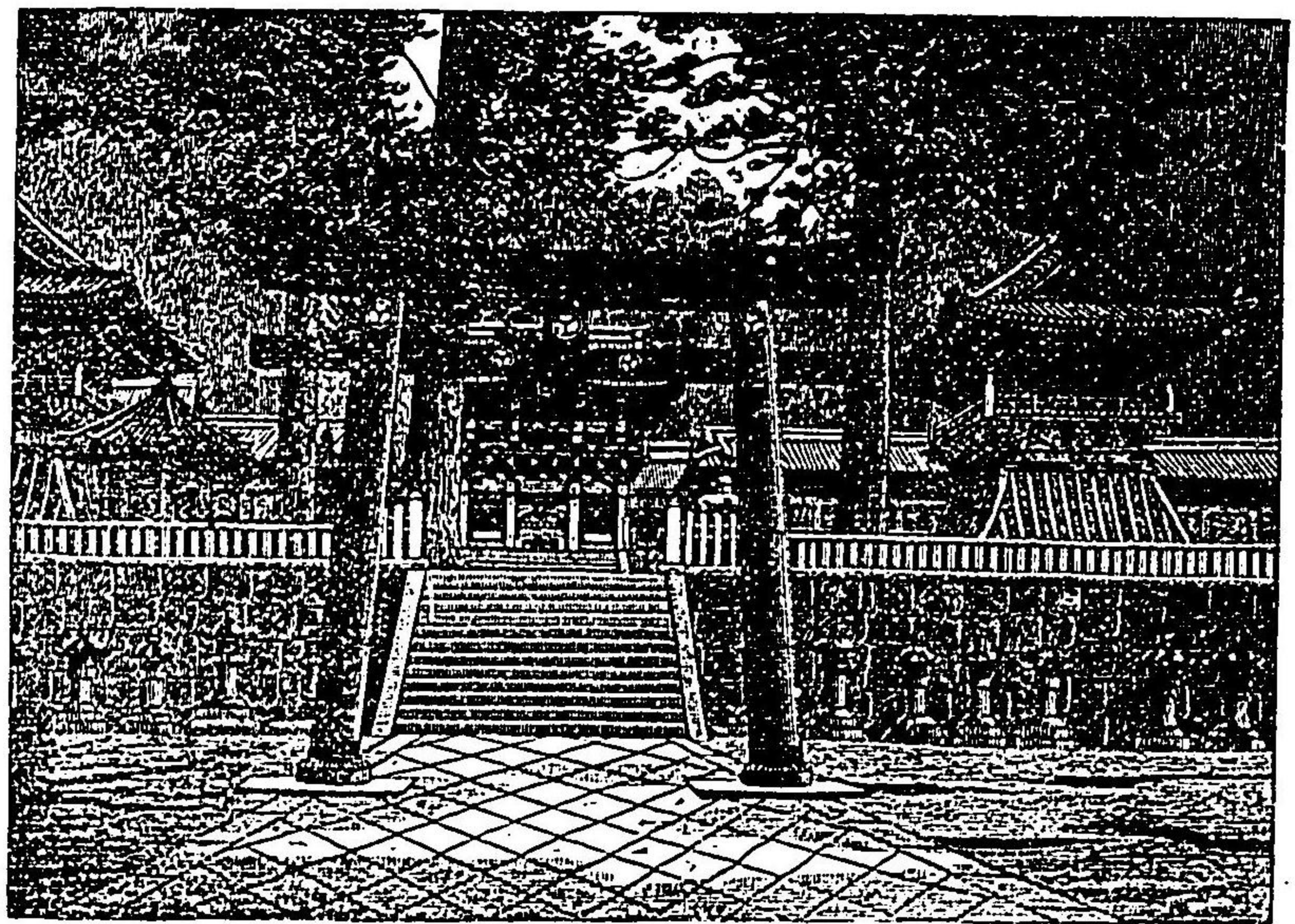
出版圖書

活字の印刷行はれてより、圖書の出版大に増し、其數年々數万の多きに至れり。新聞雜誌に至りては、其數甚多し。近頃毎年出版の圖書は、二万六、七千部にして、

新聞雜誌

其中最も多きものを、繪畫、音樂、地理、宗教、法令、傳記の類とす。新聞雜誌も、年々其數を加へ、近頃は其種類概ね八百に達し、廿九年の如きは、全國新聞雜誌の發兌冊數、殆んど四億一千三百万に至れり。

美術は、日本人の長技として、海外諸國之を稱揚せざるなし。繪畫、音樂、彫刻、陶器、七寶、蒔繪、縫箔、絹布、金工其他の美術工業は即ち邦人の長所にして、亦自から恃む所ならん。殊に繪畫は一種固有の日本風を傳へ、蒔繪は本邦の特技にして、其名海外



日光廟

に高し。

×十一 土地

土地の區別

土地は、官有と民有の別あり。官有を細別して、數種とし、又民有を二種に分つ。今兩者の反別を擧ぐれば左の如し。

官有地…………… 一一、三九三、〇〇〇餘町步

民有地第一種 第二種未詳…………… 一三、七八二、八〇〇餘町步

| 民有地第一種細別 | |
|----------|--------------|
| 田 | 二、七三四、〇〇〇餘町步 |
| 畑 | 二、二七八、〇〇〇餘町步 |
| 宅地 | 三、八〇〇、〇〇〇餘町步 |
| 鹽田 | 六、一四〇餘町步 |
| 山林原野 | 八、三四九、〇〇〇餘町步 |
| 其他 | 一、七、七〇〇餘町步 |

右の内、民有地第一種の總地價は、十五億一千九百三十五万餘圓にして、租税を課する。

地價

は唯此民有第一種地のみなり。

十一 農産

農業

本邦は、以上に陳べたる如く、概して氣候溫和、風雨適順、地味肥沃にして、草木の發生盛なるを以て、農業夙くより開らけ、農事は國の大本として、上下之を重せり。農民の数は、全國人口の凡三分二にして、田畑は凡五百万町あり。小作地は、其中四割弱にして、他は皆自作なり。

農業の改良

維新以來、西洋の農耕法を參考し、大に農事の改良を計り、或は農學校を起し、農業雜誌を出版し、又は農會を開き、共進會を設くる等、種々の手段を盡せり。故に近年は、殊に養蠶、家禽、果實の如き次第に進歩せり。現今農業會社凡そ百十八あり。農産物の中、邦人に取りて最も必要なるは、米、麥の二品にして、各地大抵産せざる所なし。

米

米……………二千八百万石(凡二億六千六百万圓)

米は一府縣にして、多きは二百數十万石、少きも凡三十万石あり。關東及九州の北部最も多し。臺灣は、毎年二回の收穫ありと云ふ。

麥

麥……………一千七百万石(凡五千七百八十万圓)

蠶糸と茶の二品は、輸出の最も多きものなり。

蠶糸

蠶糸……………七百七十万斤(凡六千八百万圓)

外に屑糸……………二百三十万斤

右の内殆んど半は外國に輸出す。東山、北陸、東海、三道に最も多く産し、殊に、長野、群馬盛なり。

茶……………四千五百万斤(凡一千二百三十万圓)

茶

此中過半は外國に輸出す。重なる産地は畿内、東海、並に九州西部にして、静岡、京都を重なる産地とす。又臺灣にも、茶の産頗る多しといふ。

右の外大豆、甘藷、綿華、麻、烟草、藍、砂糖、蠶、蠶等の産額甚多し。砂糖は、茶と共に臺灣の特産物にして、従前日本への輸入砂糖は大抵臺灣より來れりといふ。

十三 畜産

牧畜

我邦の風土は牧畜に適せざるにあらざれども、此業未だ進歩せざれば畜産多からず。然れども、奥羽と北州の原野は、漸く牧場とならんとするの勢あり。

牛馬の數

牛馬は、牧畜の中、最も多くして、明治二十一年以來は、其數漸く増すに至れり。二十六年の現數は、左の如し。

牛……………一百十萬餘頭

馬……………一百五十六萬餘頭

人口一千に對し、牛は二十六頭、馬は三十七頭に過ぎず。歐米の大國に於ては、人口一千に對し、牛は二、三百頭より九百餘頭、馬は六、七十頭より二百四十五頭の割合なり。

牛は、九州、中國に多く、但馬の邊は、牛の名産地なり。然れども其形體、奥羽産の如く大ならず。又近年は乳牛大に増加せり。馬の産地は、奥羽、西海最も名あり、殊に南部馬として從來名高くして、其形態亦西南のものよりも雄大にして、且つ

牛馬の産地

順良なり。今や牛馬共に西洋種を輸入して、體格の改良を計れり。

豚は、凡六七万頭あり、西南の地方に最多し。綿羊、山羊の如き亦配するに足らず。然れども本邦は濕氣多き故、牧羊に適せりといふ。要するに、肉食年に益盛なるを以て、牧畜の要愈大なり。

十四 林産

日本は森林に富む

山林は樹木の種類多く、一々擧ぐべからず、其の何故よ然るやとの理由と、重要な樹木の種類は、既に生物の段に陳べたり。

要するに、日本は到る處多少の森林あらざるはなく、緑葉青々として、生ひ茂れり、我國の風景の美なるは、重に之に因るなり。新領地臺灣も、夙くより美島の名あるは、亦森林の鬱蒼たるか爲めなり。

森林の功用

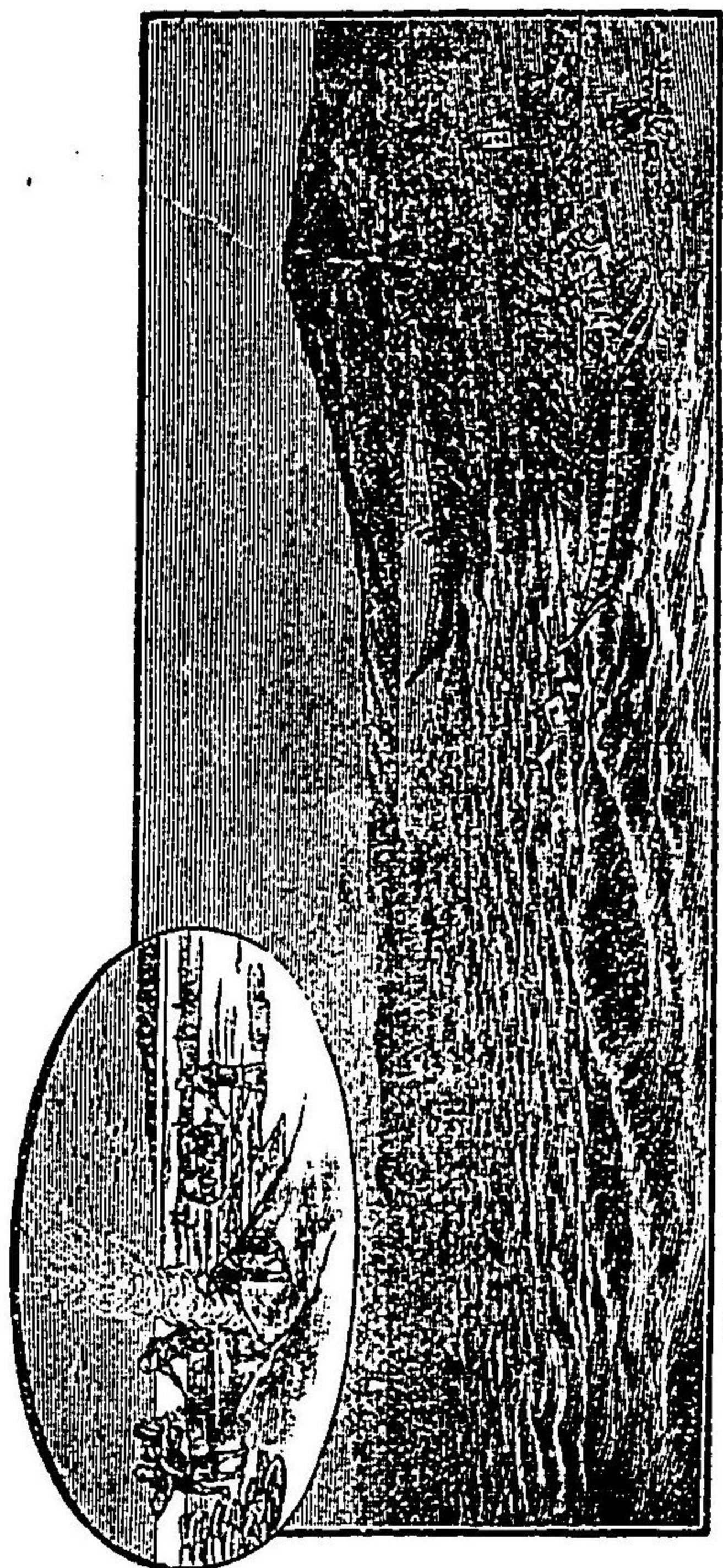
抑も森林は、唯景色を添ゆるのみならず、家屋、造船の材料、又は薪炭の供給皆之に依らざるなく、且つ氣候を調へ、水源を養ふものにして、之を濫りに伐れば、洪水

水産の輸出

抑も水産は日本の一大富源にして、實に無盡藏と云ふべく、今日も毎年支那等への輸出凡四百四十万圓に下らず、然れども、是迄は漁法未だ開けず、漁具備はらず、漁船小にして、唯海濱を漁るに過ぎず。去れば今日は頻りに之れが改良進歩を計り、或は水産學

東京の引網

魚網製造



校を設け、又は水産會を開く等奨励少からず。現今水産業を執るもの、僅に三百三十餘万にして、物人口の十三分一に過ぎず。

水産の改良

製鹽

次に製鹽業は、漁業と同じく、沿海の地方多少之を營まざるなし。然れども、内海の周邊は、其産出最も多し。二十七年には、香川、山口の二縣は、各凡百万石餘

産鹽地

製鹽額

を産し、之に次ぎ、兵庫、廣島、岡山、徳島、愛媛は、三十万石、以上八十五万石を出せり。内海の周圍は、前に陳べたる如く、雨量少きより、製鹽多きなり。年々製鹽の石數は、凡そ五百八十万石、價格は凡三百八十万圓にして、邦人の需要には餘りあり、外國への輸出も、漸く増加せり。聞く處に據れば、内海の周圍の外、鹽田に適する海濱は、東海及奥羽地方にも少からずといふ。

十六 鑛産

鑛物の種類

鑛産地

鑛物の種類甚多く、殆んど産せざるものなし、是れ本邦の地質の複雑なるによるなり。中に就き、産出の最も多きは、石炭と銅にして、近頃の調査に據れば、鐵も埋藏甚多しと云ふ。○重なる鑛産地を擧ぐれば、石炭は、九州島の西北部に最も多く、之に次ぐは、北州の西南部とす。自餘の鑛物は、多く本土にあり、即ち奥羽地方、中國地方、及飛驒、美濃、越前の地方に多し。

石炭

四百二十七万噸(凡九百五十二万圓)

石炭の産額
石炭産地

石炭は本邦の産物中第一位に位し、歐米の石炭國には遙に及ばざるも、亞細亞諸國に於ては其産額第一にして、世界諸國を通し第九位にあり。而して九州産尤多く、全産出の八割二分を占め、北州は僅に其一分に過ぎず、但し北州並に福島縣は將來増加の望あり。本邦石炭全産額の大半は東洋諸港に輸出せり。

銅

六百五十万貫(五百万圓)

銅の産額
銅産地

銅は石炭に次て産出多し、銅産國の第三位を占り、産銅の多くは外國に輸出せしが、近年電機の使用開けしを以て、内國の消費増加せり。産地は下野の足尾(百万圓以上)、伊豫の別子(三十万圓以上)にて羽後、飛騨、備中之に次く。

鐵

鐵の産額

鐵は文明世界に最も必要なる金屬なり。本邦の製鐵は其由來甚た古きも未だ大規模の製作なし。從來は多く中國の砂鉄を用ひしが、近年陸中に岩鐵の大鐵脈を發見したれば、將來産額増加すべし。近年の産出高は凡四百六十五万貫にして、從來の需要全額の八割は之を外國より輸入せり。

硫黃

安賣母尼

硫黃は産額に於て世界中第二位に位し、年産凡一千四百万貫に達し、米國向きの輸出多し。釧路の跡佐登の産は一年凡十五万圓以上あり。安賣母尼は佛蘭西を除けば、本邦

採鐵方

は世界中第一位を占め、凡四十万貫を産す、近年は器械製造のため、其用途益廣し。此他、重なる産物は、金(凡二百貫)、銀(二万九千貫)、鉛、石油、陶土等にして、又水晶、花崗石、大理石、石板、石、砥石、硯材等の産出あり。

さて採鐵方は、近年大に改良進歩し、著名なる佐渡鑛山の如きは、鑛業よく整ひて、學理に適ひ、世界中比類多からずといふ。去る明治八年の本邦鑛産總價格は、二百三十三万圓餘なりしが、二十七年には、殆んど二千万圓に増加せり。

十七 工業

工業の進歩

手工と意匠は、邦人の長所にして、古來精巧の製作品少からず。然れども、歐米諸國に倣て、大機關を運轉するに至りしは、二十年來の事にして、それか爲め、近頃は諸般の工業大に増加せり。工業は日本の主要なる生業にして、益發達すべし。廿七、八年の各種工業は、大抵左の如し。

織物

七千三百三十五万圓

絹織物

三千二百五十四万圓

大日本帝國 工業

酒類

木綿其他織物……………三千五百四十万圓
絹織物の盛なるは、京都、西陣を第一とし、桐生、福井、足利之に次く、殊に西陣は、古來最も精巧なる織物を産し、其名海外にも知らる。木綿織は、愛知は最も多く産し、和歌山、埼玉之に次く、要するに、織物は工業の第一位を占め、其諸織物の産出總額を以て算すれば、京都(九百万圓)、愛知(六百万圓)、福井(五百七十万圓)、朽木(四百七十万圓)、群馬(四百十六万圓)、最も盛にして、之に次ぎ大阪、埼玉、和歌山も、各三百万圓以上を産す。

酒類……………五千四百四十万圓

酒類の内に數種あり、古來最著名なる産地は、伊丹にして、年々凡四十万圓の清酒を産す、次は、愛知、福岡、長野なり。右の外近年は、麥酒、葡萄酒の産出及輸入少からず。

綿糸……………二千三百万圓

綿糸の産出は近年非常の進歩にして、綿花を印度等より輸入して、其材料とするに至り、著大の製造所四十七あり。就中、大阪、東京、岡山、三重の産最多し。

醬油……………一千四百四十万圓

醬油は、各地多少之を製すると雖、多量を出す地方少なし、特に最多きは、千葉、百五十五

紙類

万圓にして、兵庫、愛知、岡山、茨城之に次くも、各千葉の二分一に足らず。

紙類……………一千万圓

産額の最大なるは、半紙と美濃紙なり。日本紙は、高知(百万圓)、静岡、廣島、岐阜、愛知(六十九万乃至八十四万圓)の産出多く、西洋紙は、東京、兵庫、大阪、盛なり。

摺附木……………四百五十万圓

日本は、樹木多きを以て、摺附木の製造、近年非常に増加し、兵庫は、全額の半以上を出し、大阪、愛知、東京之に次く、而して全産額の大半は、支那、印度、朝鮮等に輸出す。

油類……………六百六十万圓

此内には、石油を含まず。三重、福岡、大阪、滋賀の産額尤多し。石油の輸入により、産額益減少す。

陶磁器……………三百二十万圓

京都の清水焼、加賀の九谷焼、薩摩焼、有田焼、さては、万古焼、坏は、名物なり。然れども、生産價格を比すれば、岐阜(百万圓餘)、愛知(五十万圓)を最多とし、佐賀(四十万圓)、京都、石川之に次く、而して全額の三分一を輸出す。

陶磁器

油類

摺附木

自餘の工業

右の外製革百三十九万圓は、大阪、東京、兵庫に多く、蠶表類二百七十三万圓は、岡山、大分、廣島の諸縣を名産地とす。其他、漆器、裝飾品、彫刻品、家具、石版、銅版、活版、器械等種々の工業あり。

扱工業も、農業其他と均しく、大に其進歩改良を計り、勸誘、保護一方ならず、殊に專賣特許法を創めて、發明者を保護するに至れり。現今工業會社の數七百七十餘あり。

十八 交通

交通の發達

交通開らげざれば、國の文明進まず。我國に西洋の文明を入れてより、僅に三十年なるも、往時の交通上の障害は、大抵之を除き去り、今日にては、交通の手段、粗缺くる所なく、封建時代の状態とは、實に天地の相違なり。

道路は、國道、縣道、及里道の別あり、大は七間より、小は四間以下に至る、然れども、大都會の道路は、往々其幅十四五間に至るものあり。今や嶮岨は之を平らけ、或は隧道を通じ、又河流には、堅固の橋を架け、往來自由となり、國道、並に縣道は、概ね車輪の通行に妨げなし。陸運會社の數、凡百二十にして、道路運送具の重なるは、凡そ左の如し。

道路

| | | | |
|-----|----------|-----|---------|
| 馬牛車 | 六万八千輛 | 乘駄馬 | 八万九千頭 |
| 人力車 | 二十万一千五百輛 | 人夫 | 二十六万三千人 |
| 荷車 | 百二万二千輛 | | |

渡船

我群島の海岸線は、凡そ七千五百里あり、且つ内に河湖の舟航すべきものあり、水運の便利、自然に具はれり。而して維新以後は、大船を造るとを許し、又西洋風の汽船、並に帆船を使用するを以て、渡航の道、大に開らけ、造船、航海の技術、航路標識、海上保険、等頗る進歩改良し、沿海の諸港、大抵定期の交通あり、外國へも、日本船の航路を開きたり。水運會社八十餘個あり。

| | | | | |
|-------|--------|-----------|---------|--------|
| 西洋形汽船 | 八百二十七艘 | 日本形船五十石以上 | 一万六千七百艘 | |
| 同 帆船 | 七百二艘 | 同 | 五百石以上 | 六百六十八艘 |

鐵道

我國に始めて鐵道を布きたるは、明治五年にして、東京と横濱間を始めとし、今や殆んど全國を貫き、益増設の計畫あり。往來自在にして、百里の道は十二時

間に達すべし、豈に便ならずや。私立鐵道會社の數、凡三十二あり。線路は、地圖に就て見るべし。三十年五月には、鐵道の長さ左の如し。

既成鐵道線……………二千六百餘哩

昔は、飛脚ありて、音信を通せしが、今は郵便、電信、電話、杯の便法あり。我國の郵便法は、明治四年に、電信は同二年に始めて設け、爾後進歩甚だ速にして、今日は電信と雖も、名邑には大抵取扱局なきはなし。

郵便物合計……………四億二千八百万個

電報數合計……………八百九十万

電話交換加入者……………二千八百人



道隧峠氷碓

交通運輸の法此の如く備はり、征清の大勝利も之に由るもの少からずと雖、之を歐米各國に比すれば、其及はざること遠し。故に益、此便利を増長すると、實に今日の急務なり。

十九 商業

近頃交通の方便、漸く備はると共に、内外の商業益、隆盛となれり。然れども、維新以來多くの年月を経ざるを以て、商賣貿易の要具、未だ歐米文明國の如く進歩せず、隨て商業の仕掛、尙小なり。

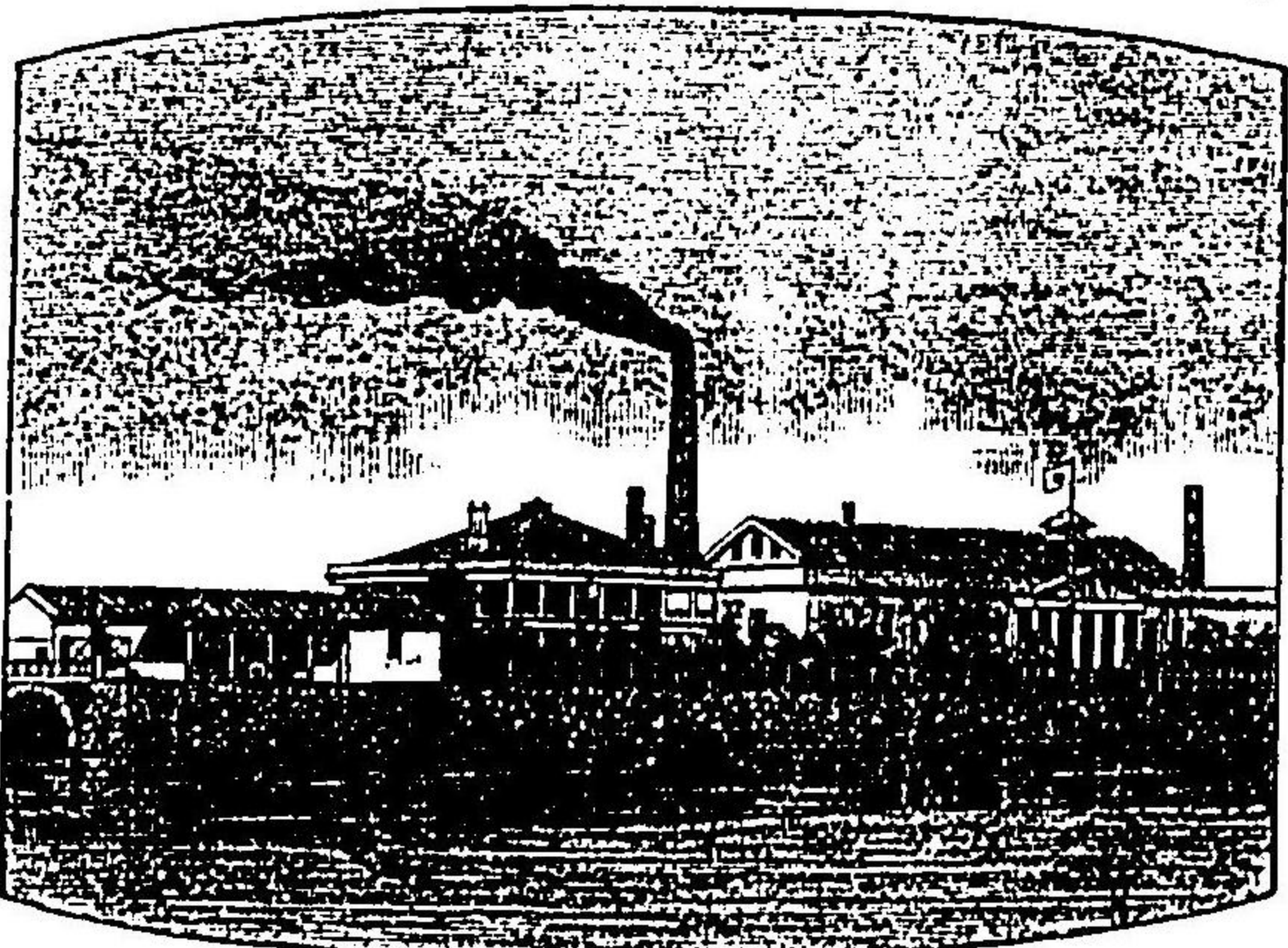
通貨、即ち金錢と度量衡等の善悪は、大に商賣の盛衰に關するものなり。金、銀、銅貨を始め種々の紙幣は、皆二十餘年來、之を改新し、度量衡の如きも、それぞれ改良し、又商標登録の事も行はれ、大に便利を増したり。然れども、通貨の代用たる、手形の運用は、未だ廣く行はれず。

銀行は、商賣上甚大切なり。今や全國の大都名邑、大抵銀行なき處なく、郵便電信局と共に、爲替を取扱ひ、又貸金、及預金等の事を爲す、日本銀行を首め、國立及私立銀行本支店

商業の現況

通貨度量衡

銀行



大阪造幣局

の數合せて凡一千一百餘あり。又商業上の諸會社一千九百餘あり。此他取引所、商業會議所、商工會あり。

現今の六港中、長崎を除き、横濱、神戸、大阪、函館、新潟の五港は、開港以來僅に二三十年内外に過ぎず。六港中、貿易の盛なるは、横濱、神戸の二港とす。此他特別輸出港二十餘ヶ所あり。

輸出品總價格……………一億千七百八十万圓
 輸入品總價格……………一億七千六十万圓

又重要な輸出入品を舉ぐれば左の如し

重要輸出品

| | | | |
|---------------|-------------------------|---------------|--------------------------|
| 雜貨…………… | 三、七五六 <small>千圓</small> | 穀物及諸飲食物類…………… | 一三、九〇三 <small>千圓</small> |
| 蠶絲綿類…………… | 三、一六六 | 金屬及金屬器類…………… | 六、七三四 |
| 布帛衣裳及其材料…………… | 二、一〇一四 | 製茶類…………… | 六、三七〇 |

重要輸入品

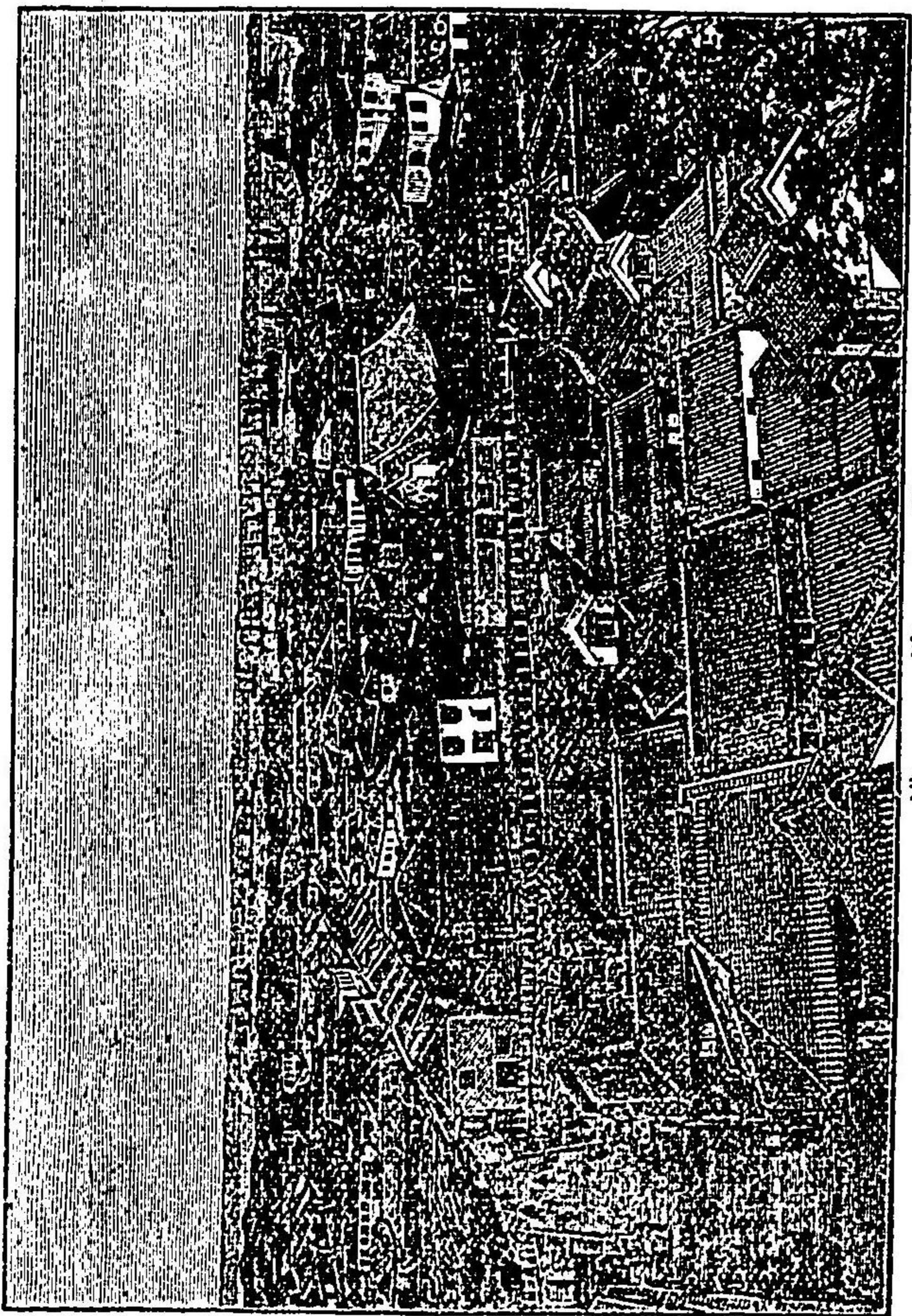
| | | | |
|----------------|--------------------------|-------------|-------|
| 布帛絲縷及其材料…………… | 八〇、二八〇 <small>千圓</small> | 穀物及種子類…………… | 九、六六〇 |
| 金屬及金屬器類…………… | 一八、四二〇 | 雜貨…………… | 八、〇九〇 |
| 兵器、時計及器械類…………… | 一五、〇五七 | 油及蠟類…………… | 七、〇九八 |
| 砂糖類…………… | 一三、八五〇 | 藥類…………… | 四、四九〇 |

通商各國
 輸出國
 輸入國
 領事

今日通商各國は、總て二十にして、日本の輸出品を多く購求する國々は、(一)北米合衆國、(二)佛蘭西、(三)英領香港、(四)支那、(五)英吉利、(六)印度、(七)朝鮮、(八)伊太利、(九)獨逸なり。

又我國へ輸入するの最多き國々は、(一)英吉利、(二)支那、(三)獨逸、(四)印度、(五)北米合衆國、(六)香港、(七)佛蘭西、(八)朝鮮、(九)魯西亞なり。

通商國は、互に領事を遣して、開港場に居らしめ、自國の出稼商人を保護し、又商事を監察せしむるを常とす。我國領事の派遣地は、凡そ四十八ヶ所なり。通商外國よりも大抵各其領事を我國に在留せしむ。



二十 政治

今より殆んど三十年前までは、日本の政治は、封建政治として、徳川將軍幕府を

維新前の
政治

江戸(東京)に立て、凡そ二百の諸侯國々を分領し、大諸侯は各城寨を構へて、其領地を管轄したり。前段地方各論に、舊城地とあるは、即ち此等諸侯の城郭の所在地なり。

然るに、明治元年、徳川幕府、大政を朝廷に奉還し、茲に帝政古に復し、天皇親しく政治を志らしめすととなり、次て諸大名各藩籍を奉還し、封建の制度全く倒れ、立君政治の名實、相適ふとなりたり。此前後に於る、諸般の事變を總稱して、維新の變革とは云ふなり。爾後種々の改革を行ひ、遂に廿二年に憲法を發布し、廿三年始めて國會を召集し、是に於て、立憲政治の形體成れり。

日本の國
體

抑も我國は、二千五百五十餘年來、常に一系の皇室を戴き、君臣の分確として動かすべからず。時々多少の政變なきに非ざりしも、政體は常に立君政にして、國體嘗て易はりしとなく、臣民舉て、皇室に悦服し、朝廷は深く衆庶を撫育したまふ、誠に目出度國柄にして、世界廣しと雖、斯る類例あるとなし。

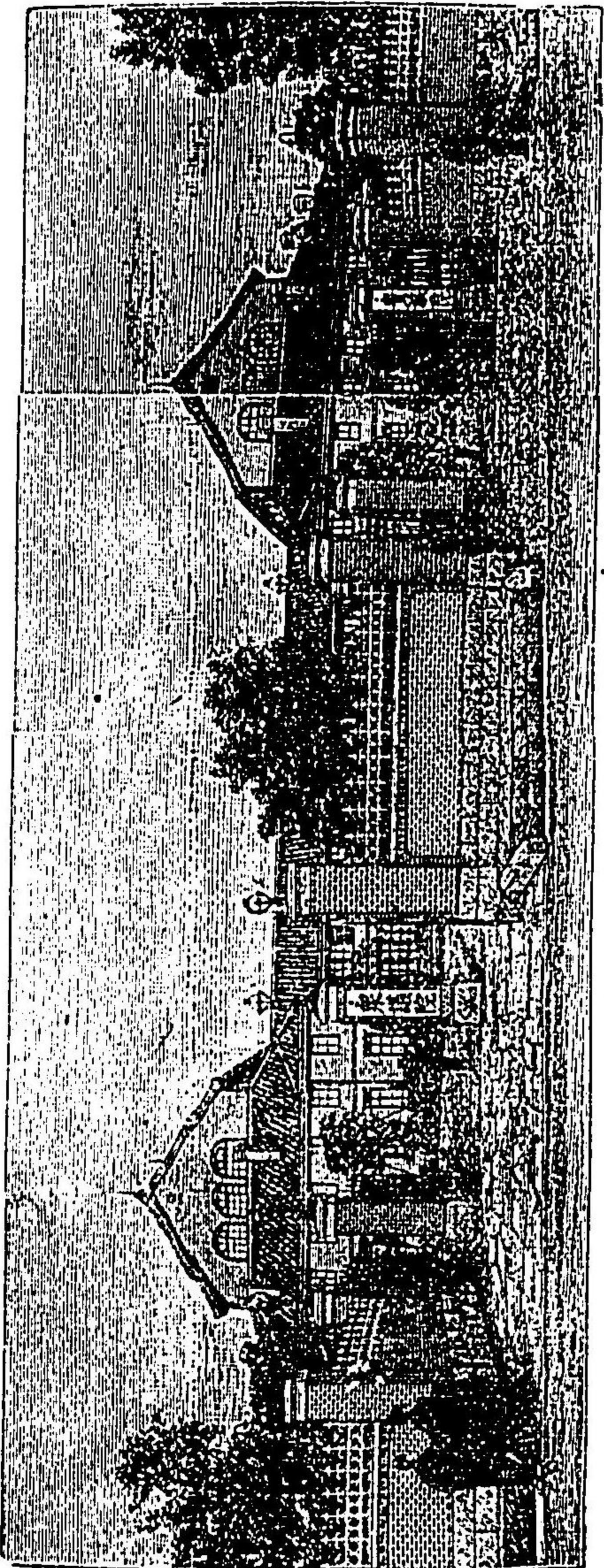
統治權

政治は之を分ちて、立法、行政、司法の三大部と爲し、天皇其大權を總攬し給ふ。

立法部

立法部は帝國議會と稱し、別ちて貴族院、衆議院となす。貴族院の議員は皇族、有爵者、國家に功勞あり、又は學識ある勅撰議員、各府縣一名の多額納稅者此四種とし、其數凡そ

皇初の議會制



三百なり。衆議院の議員は全國に於て、十五圓以上の直接國稅を納むる者の中より、公撰したる代議員にして、其數亦凡三百とす。

行政部

行政部は、内閣及外務、大藏、内務、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信の九省より成り、内閣總

司法部

理大臣を首め、各省の九大臣あり、施政を掌る。又宮内省あり、専ら帝室の事を處理し、國政に干らず、其長官をも大臣と稱す。此外に樞密院あり、又會計検査院あり。司法部は、各裁判所より成る、大審院は最高の法衙とす。控訴院は、全國に七個を置く、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙台、函館とす。各府縣に、各一の地方裁判所を置き、其下に凡そ三百の區裁判所あり。

地方の政治

以上は、先づ全國の大政なり。又地方政務を調理するため、全國を一廳、三府、四十九縣（台灣には縣の外に三廳あり、今略す）となす。北海道廳に長官あり、各府縣に知事あり、又府縣には、府縣會あり。廳府縣は、更に小分して、郡、區、市、町、村となし、各其長あり、議會あり。一國政事上の費用は、國民之を分擔するを當然とす。國民の分擔して政府に出す所の者を、租稅と稱す。租稅の賦課法は國と時とにより、必らずしも同様ならずと雖、今日我國に於ては、國稅、地方稅、及區、市、町、村稅の數種とす。要するに國稅は國庫に納れて、全國政務の費用に供し、地方稅は之れを府縣の政務の費用に充つ。又區、市、町、村稅は各區、市、町、村の費用に供するなり。右諸租稅及費目粗左の如し。

國稅等の合計（政府歲入）……………二億四千九百五十万圓
地方稅合計……………二千二百三十五万圓

人民の負擔

國稅、地方稅及區市町村稅總計……………三億二千萬圓
 右の三億二千萬圓は、即ち全國民の負擔にして、之を總人口に配當すれば、凡壹人に付七圓餘となるなり。又國事のため、一時國債を起すとあり、今日の國債額は粗左の如し。

| | |
|-----------|-------------|
| 國債總額…………… | 三億八千四百五十二萬圓 |
| 內…………… | |
| 內國債…………… | 三億八千四百二十九萬圓 |
| 外國債…………… | 二十三萬圓 |

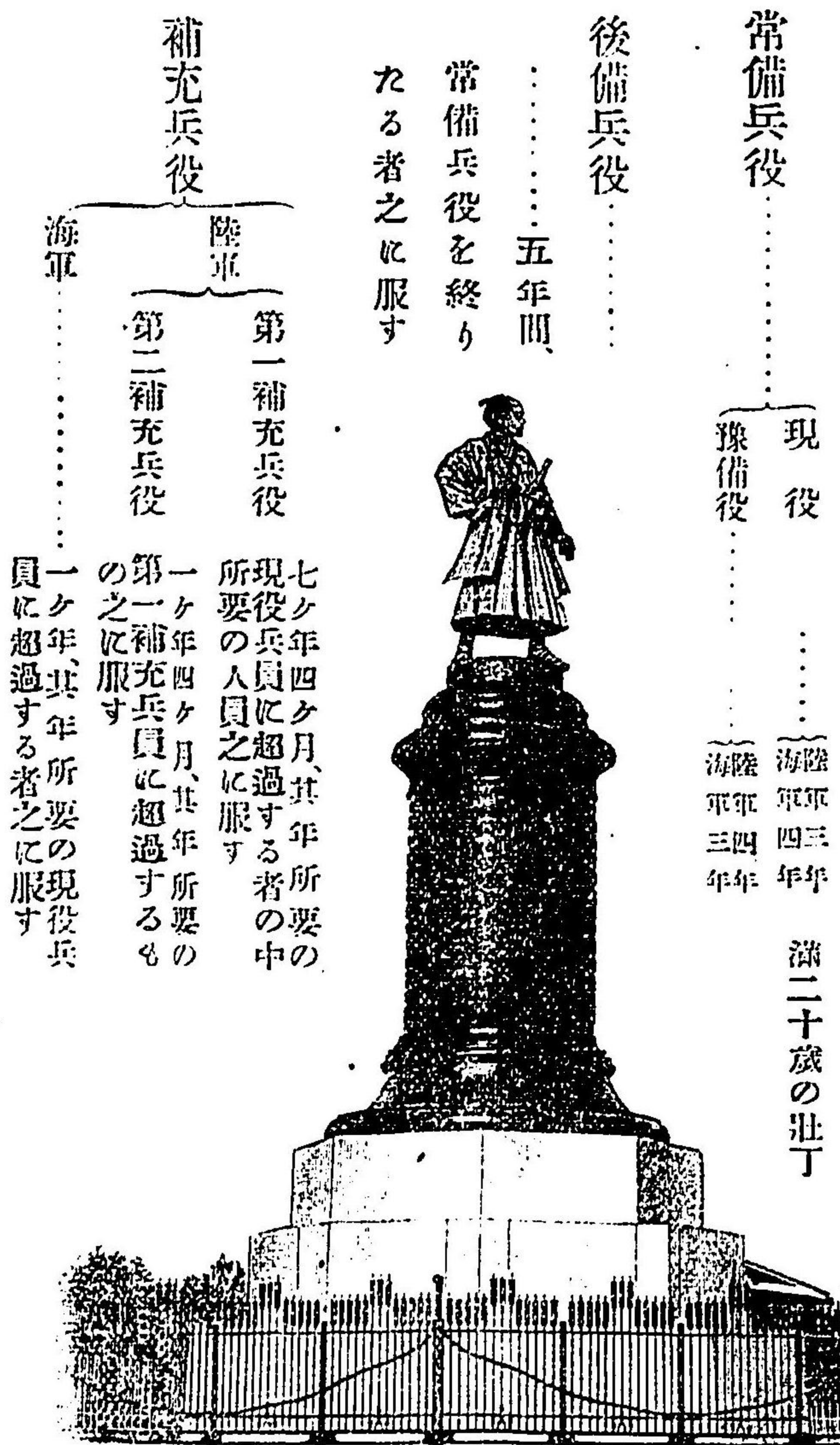
二十一 軍備 第十六地圖參照

封建時代、即ち三十年前までは、軍備はすべて舊藩武士今日の士族の専ら任する處なりしが、維新後に至り、新に全國兵の主義を採用し、即ち徵兵法に由りて、兵を採るととなれり。故に今日は、帝國臣民にして、滿十七歳より、滿四十歳迄の男子は、總て兵役に服するの義務あり。

現今の兵制

兵役

兵役は分て常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民兵役の四種とし、常備兵役は、更に之を現役と豫備役の二に區別す、概左圖の如し。



故兵部大輔村益次郎像

國民兵役……………滿十七歳より四十歳にして常備兵役後備兵役及補充

兵役外の者之に服す

陸軍兵種

陸軍

陸軍の兵種は、歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、屯田兵、憲兵、軍樂隊、等とし、將官、佐官、尉官、等將校下士、兵卒に至るまで、上下尊卑の區別、極めて嚴なり。

陸軍軍備

全國を十二師管に分ち、毎師管に一師團の兵を置く。一師管を更に分ちて、二旅管となし、毎旅管に、一旅團の兵を備ふ。又一旅管を更に分ちて、二聯隊區とし、毎區に若干の兵あり。扱平時、一師團の兵員は、凡八千餘乃至九千餘とす。又十二師團の外に、近衛師團あり、皇室を守護し、警備隊あり、偏境の島地を警備す。

従前は七師團なりしが、明治廿九年更に六師團を増設し、以來日尙淺きを以て、兵員其他の設備未だ完からず、此には只其方案の大要を示すのみ。

陸軍管區及師團配置圖

| | | | | | |
|------|------|-------|------|------|-------|
| 師管 | 師團 | 師團司令部 | 師管 | 師團 | 師團司令部 |
| 近衛師管 | 近衛師團 | 東京 | 第七師管 | 第七師團 | 札幌 |

| | | | | | |
|------|------|-----|-------|-------|-----|
| 第一師管 | 第一師團 | 東京 | 第八師管 | 第八師團 | 弘前 |
| 第二師管 | 第二師團 | 仙臺 | 第九師管 | 第九師團 | 金澤 |
| 第三師管 | 第三師團 | 名古屋 | 第十師管 | 第十師團 | 福知山 |
| 第四師管 | 第四師團 | 大阪 | 第十一師管 | 第十一師團 | 丸龜 |
| 第五師管 | 第五師團 | 廣島 | 第十二師管 | 第十二師團 | 小倉 |
| 第六師管 | 第六師團 | 熊本 | | | |

警備隊……………小笠原島、佐渡、隱岐、大島、沖繩、五島、對馬

砲臺

海岸の要所には、砲臺あり。例せば、東京灣防禦砲臺、横須賀軍港防禦砲臺、紀淡海峽防禦砲臺、下關海峽防禦砲臺、對馬淺海灣防禦砲臺の如き是れなり。

陸軍人員

此外陸軍に、參謀部、監軍部あり、又陸軍大學校、士官學校、幼年學校(中央及地方)、戸山學校、乘馬學校、教導團、病院(十九)等あり。現今陸軍軍人は凡二、十六、万、餘、なり。

海軍

次に海軍に於ては、海岸及海部を分ち、五海軍區となし各鎮守府を置く、其區分左の如し。第十六地圖參照